

表5 横壁中村遺跡20区住居 出土土器総量一覧

時期	阿玉台	勝坂	焼町	加E1式	加E2式	加E3式	加E4式	曾利古	曾利新	唐草古	唐草新	中期	後期	称名寺	堀之内	不明	合計	その他		
79号 加E1式古	18	19	31	439	8	5		35		16		1305	3	3			300	2179		
84号 加E1式古	13	9	17	26		1		8		21		137						232	ニツ木式1	
89号 加E1式新				5				7									19	31		
80号 加E2式古	3	1	20	100	22	1	1	56		142		356					30	732	ニツ木式1	
78号 加E2式新	20	44	27	26	26	10		89		203	27	555					14	1015	関山式1、五領ヶ台式12	
87号 加E2式新	7	50	24	50	157	26		29							7	12	781	1143	前期18、晚期7	
104号 加E3式古		34	25	34	14	44		19			234	438						842		
113号 加E3式古				11		45	2			146			6				142	352		
120号 加E3式古	1	1				7				35							11	55		
72号 加E3式中	11	29	10	7	18	157	2	6		183	383	12		27	3	73	921	921	晚期4	
73号 加E3式中						1												1		
92号 加E3式中					3	78		5		66	67	2					56	277		
96号 加E3式中	6	18	19	12		160		7		385	14	6		6			543	1170	土製円盤2	
105号 加E3式中						2												2		
116号 加E3式中	1	1	1			75				35			10				25	148	中世4	
122号 加E3式中						10	1							2			62	75	柱穴8は堀之内2式期	
85号 加E3式新		2	2	4	3	46				7				9	29	271	373	晚期6		
86号 加E3式新						3											28	31	晚期8	
88号 加E3式新		4		1		8	2			5							118	147	晚期1	
93号 加E3式新			4	2		37				8							76	127		
94号 加E3式新	3	5	1	1		297				25	124						89	545	土製円盤1	
97号 加E3式新		2	4			25	6			9				18			134	198	晚期4	
101号 加E3式新						4	12						99				71	186	住居内土抗は称名寺式期	
102号 加E3式新		4	2			66	1			37			14	4			182	310	晚期1	
103号 加E3式新		1	2	1	1	18	1			10				1	1		81	116		
107号 加E3式新	1	2	4			215		4		48							193	467		
118号 加E3式新	5	2		3		171				29				8			54	272	晚期3、土製円盤1	
119号 加E3式新						57				32					7		38	134	晚期2	
111号 加E4式						74	2			6							104	207	中世1	
112号 加E4式			2			48	5							18	1	4	57	135	晚期1、土師器1	
総計	89	228	168	723	252	1691	35	265		382	1327	3379	199	69	64	3552	12423			

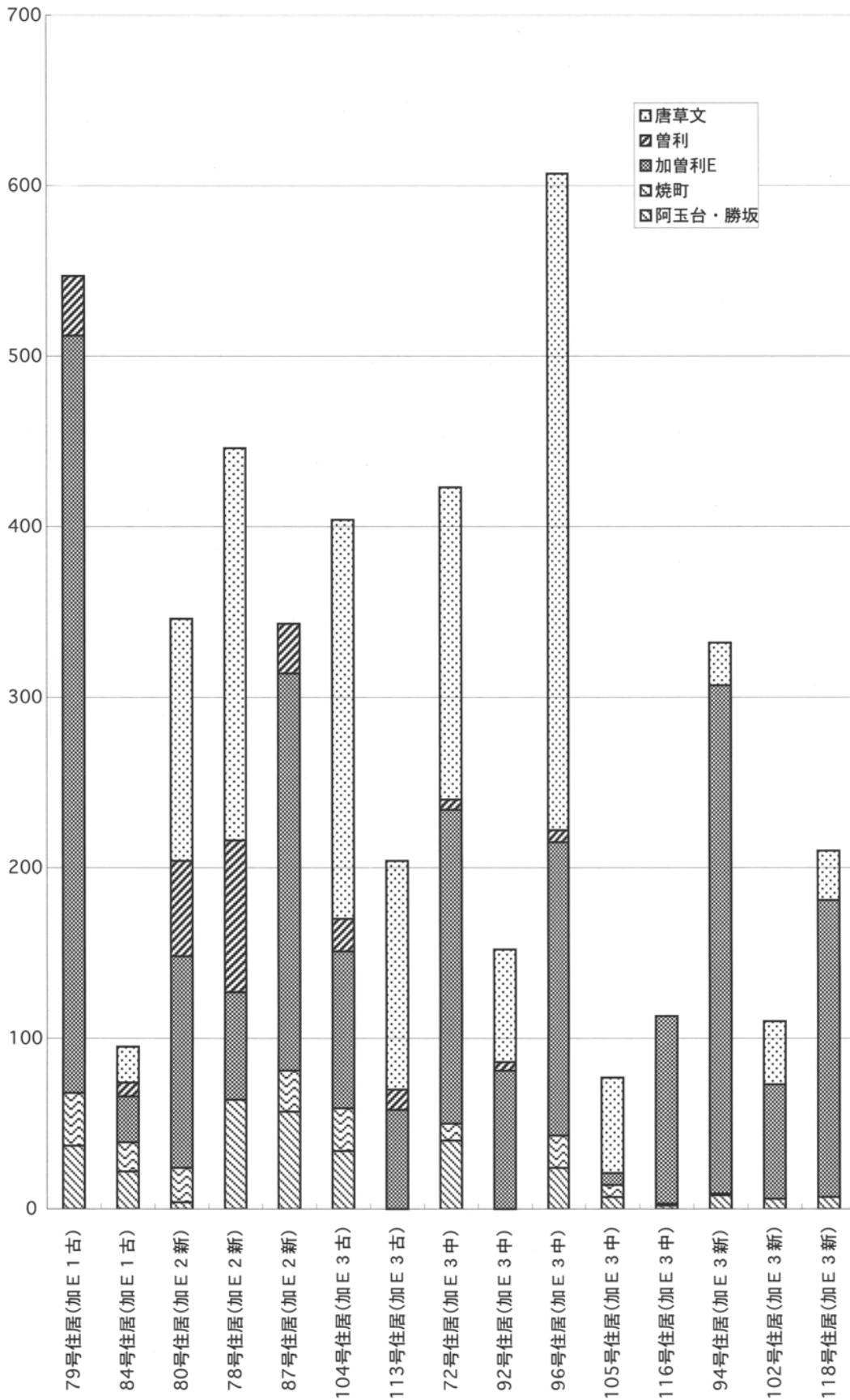


図3 横壁中村遺跡20区住居出土遺物量比一覧

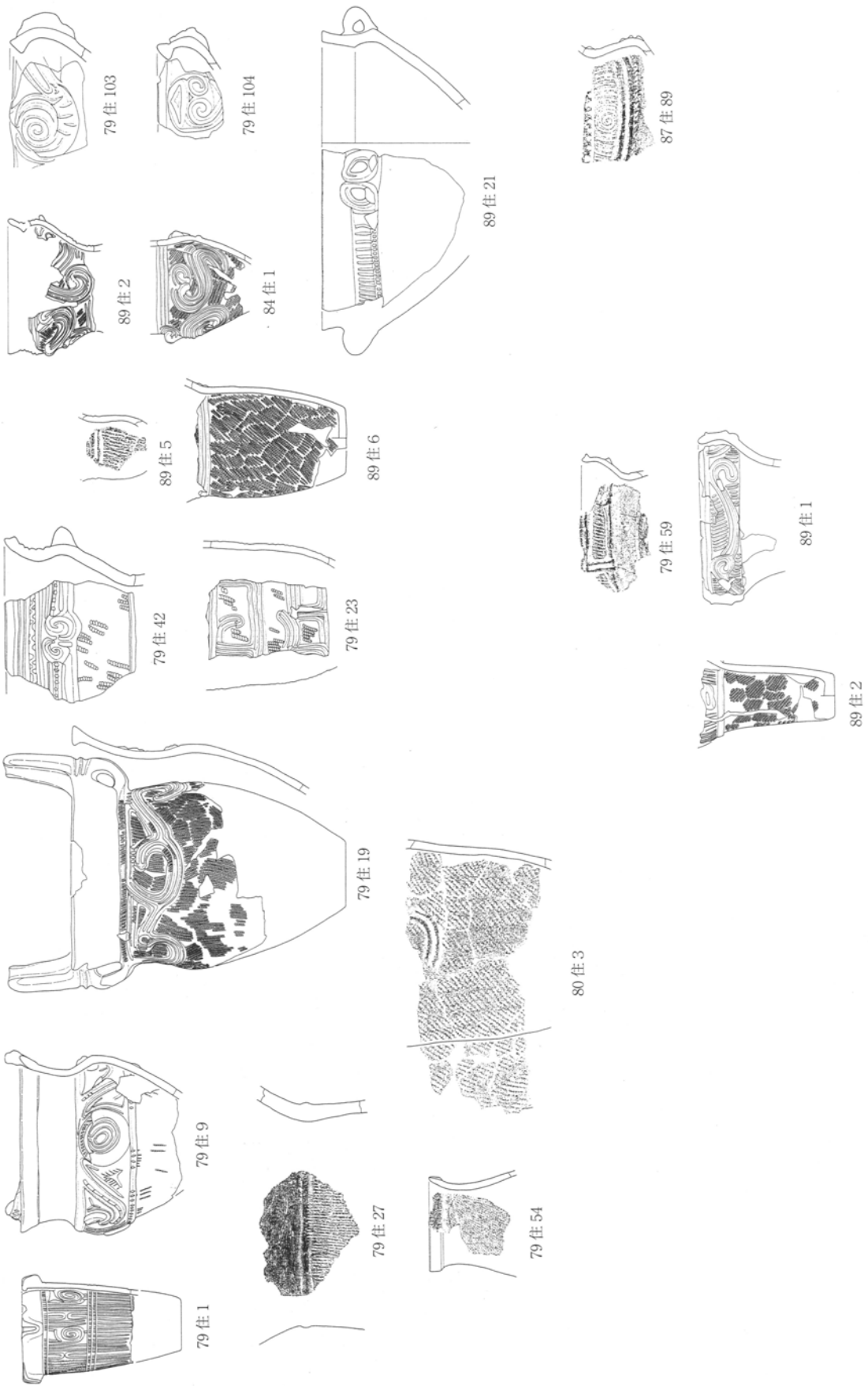


图4 横壁中村遺跡20区住居 出土器集成 (加普利E1式期)

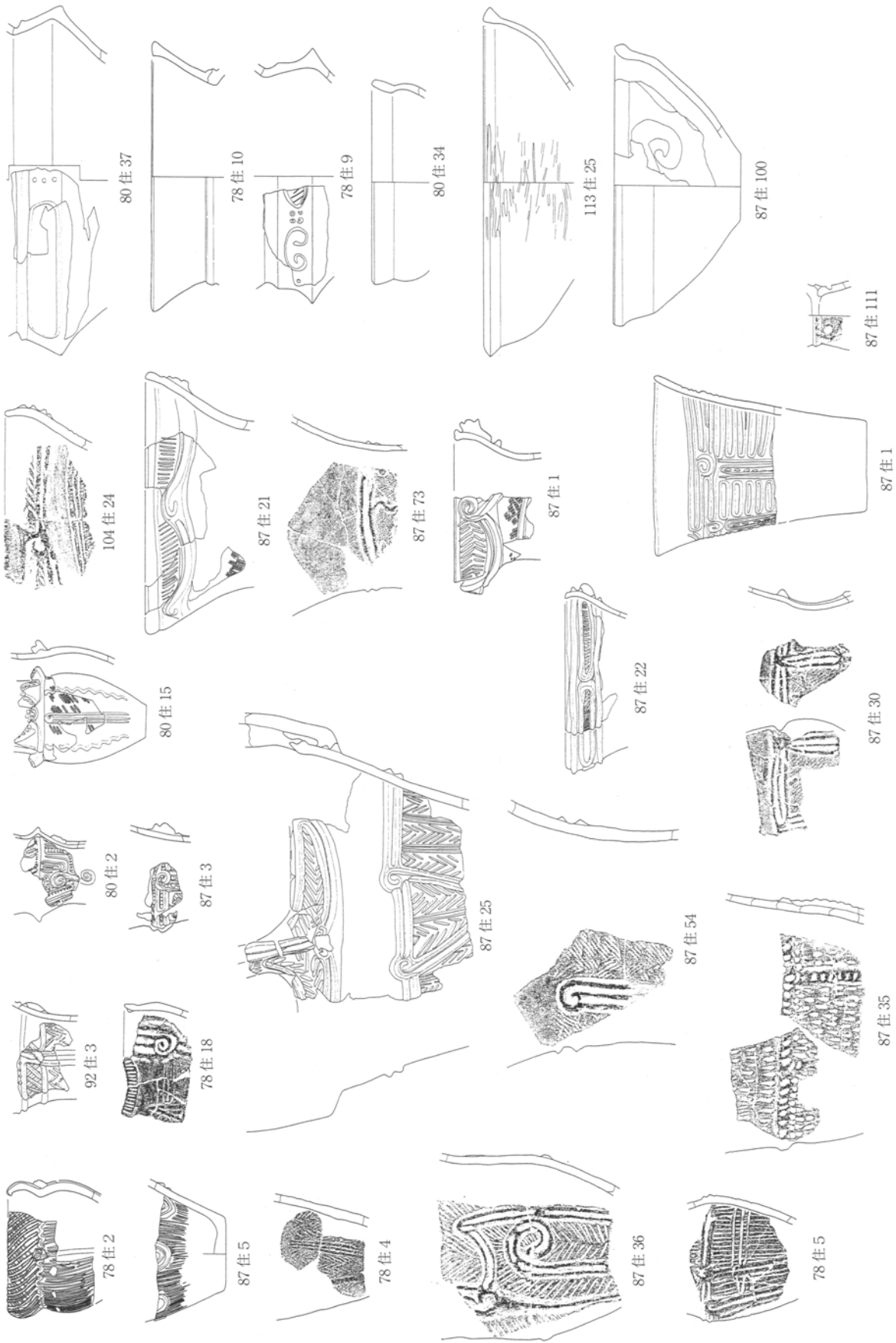


図5 横壁中村遺跡20区住居 出土土器集成 (加曾利E2式期)

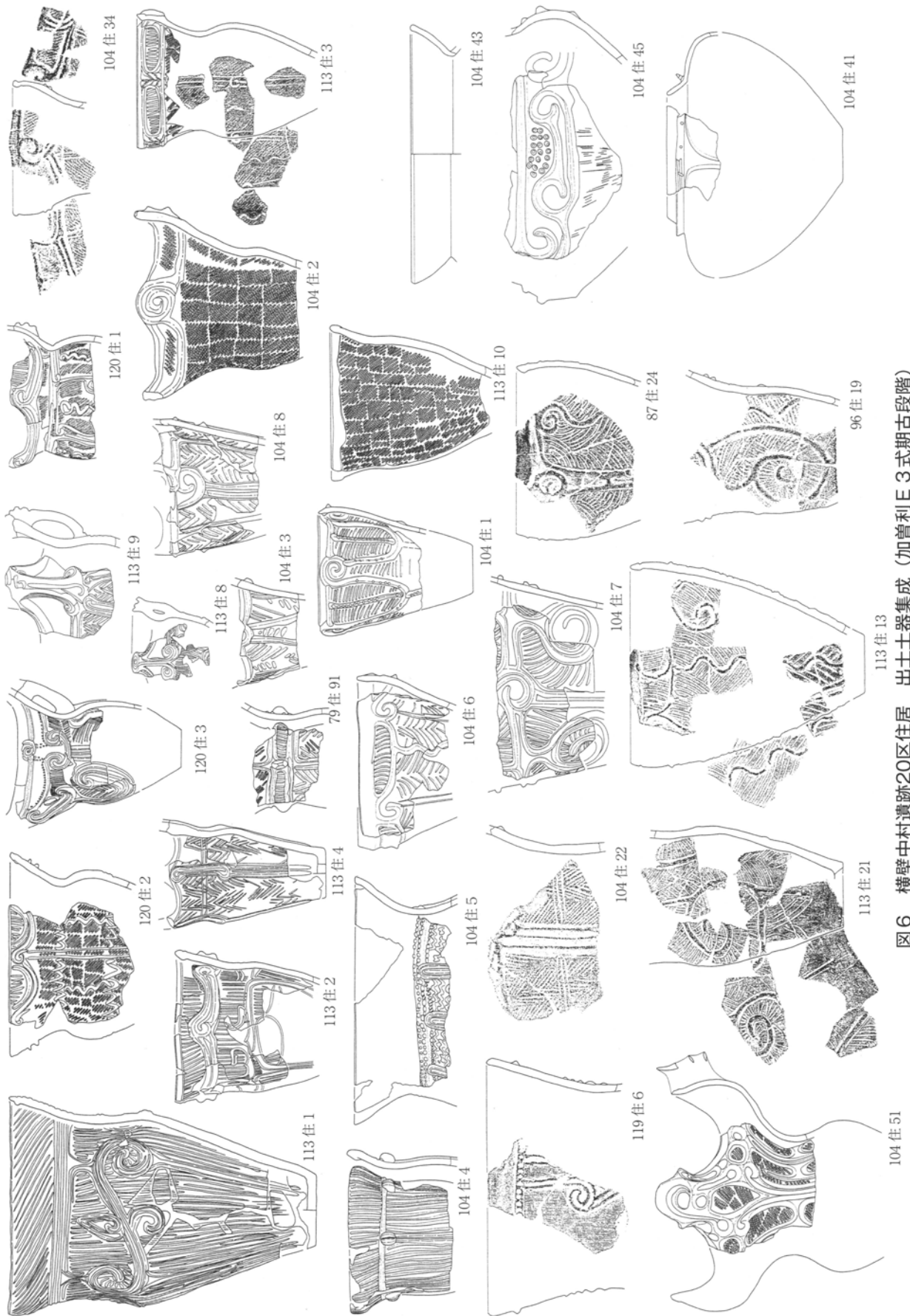


図6 横壁中村遺跡20区住居 出土器集成 (加曾E3式期古段階)

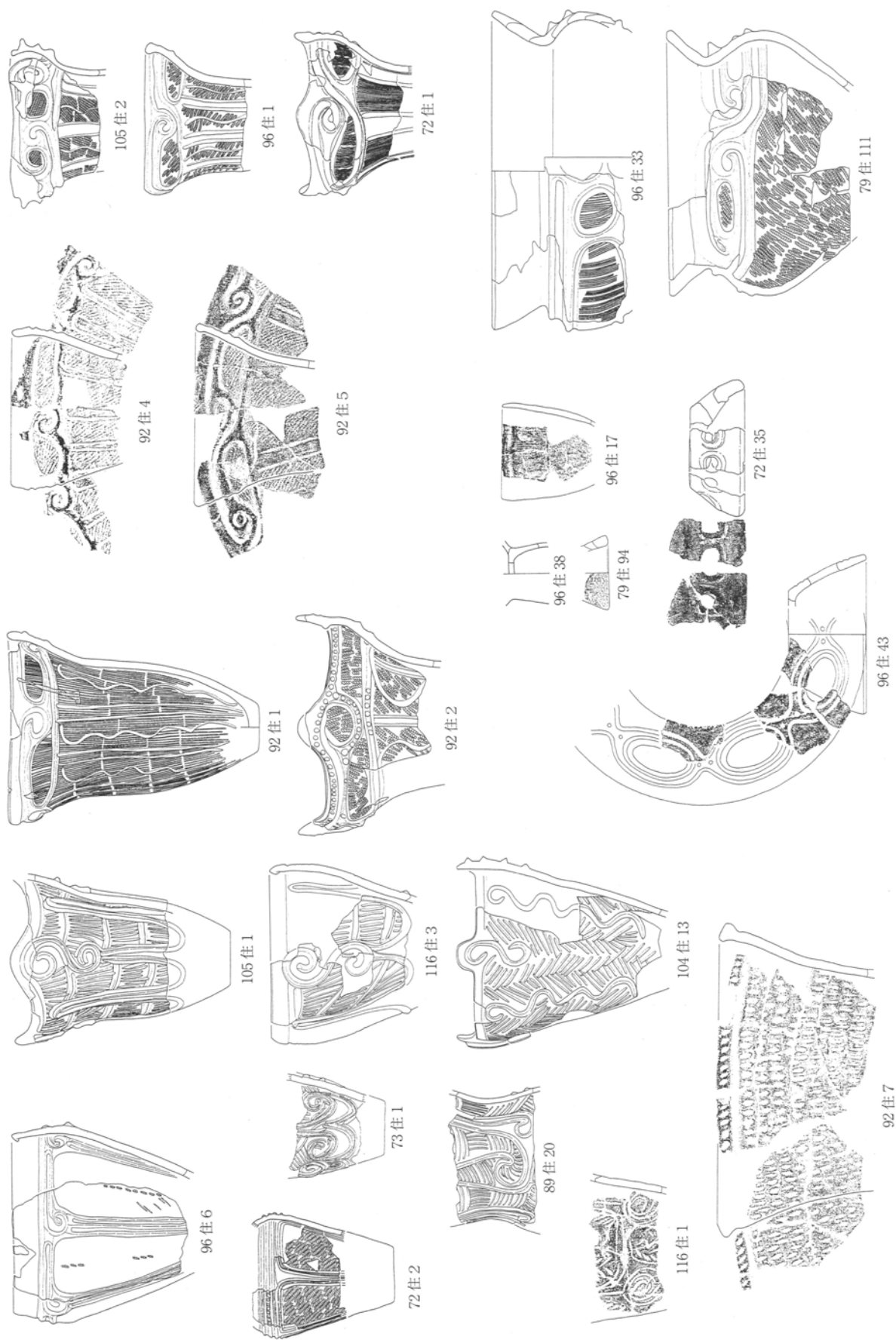


图7 横壁中村遺跡20区住居 出土土器集成 (加普利E3式期中段階)

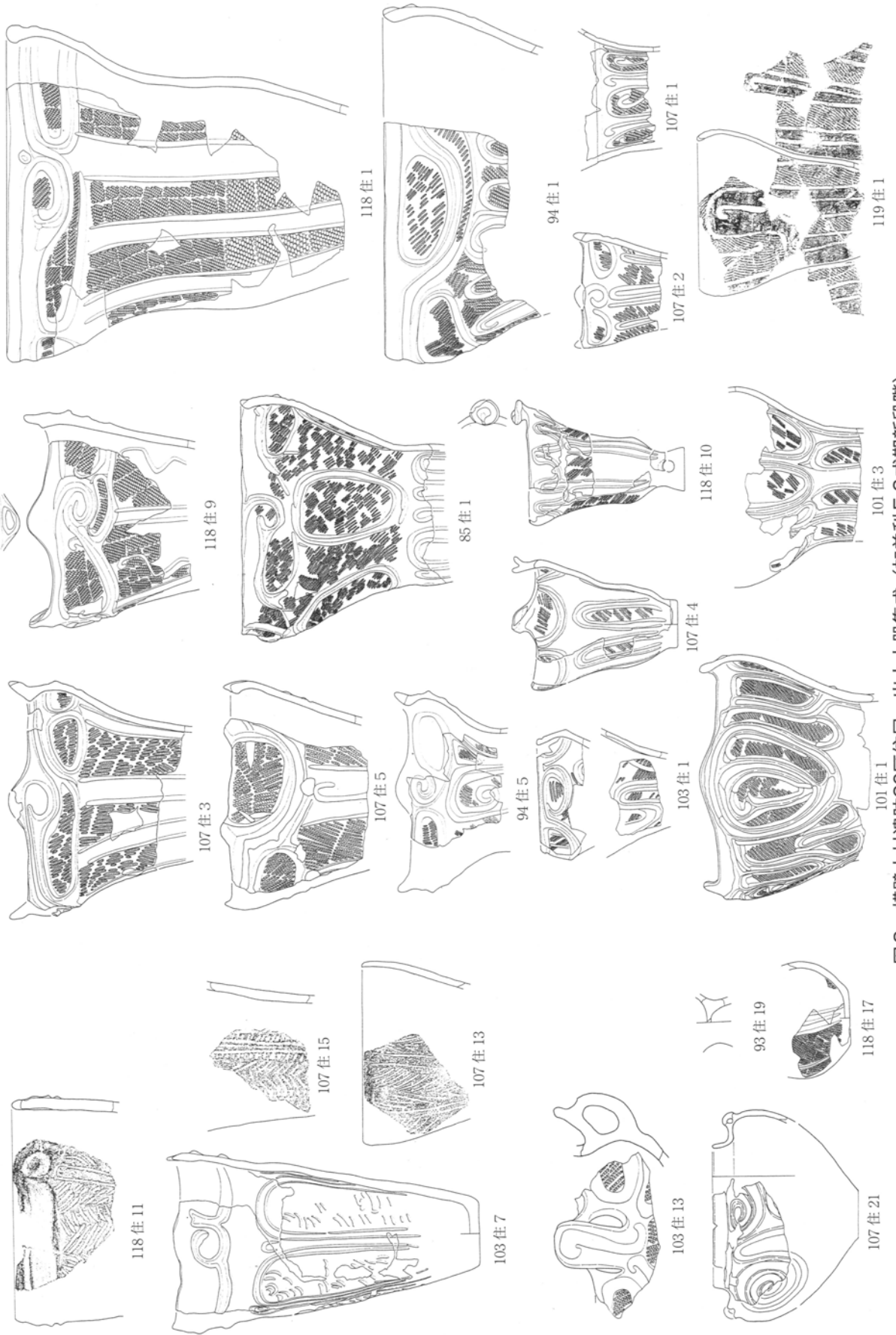


图8 横壁中村遺跡20区住居 出土土器集成 (加普利E3式期新段階)

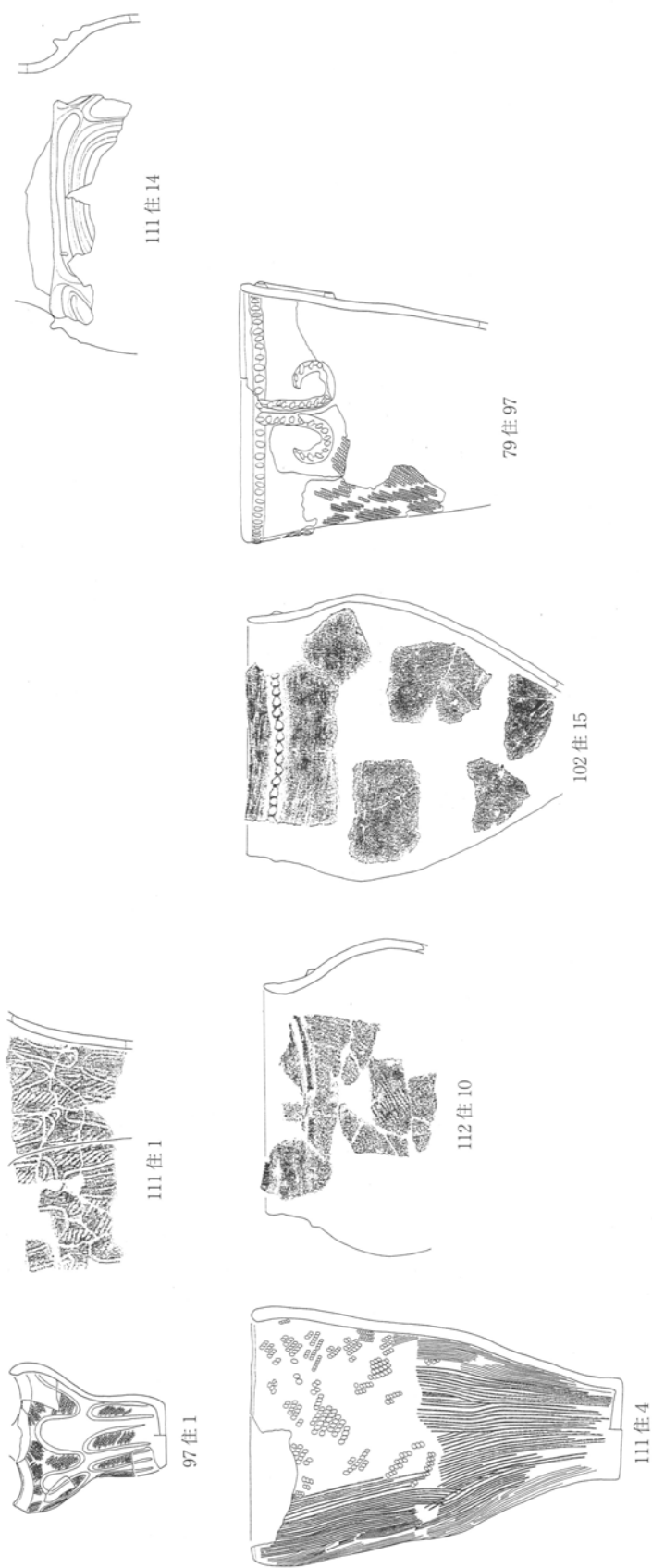


図9 横壁中村遺跡20区住居 出土土器集成 (加普利E 4 式期)



第4章 まとめ

加曽利 E 2 式段階になると、地元の唐草文系古段階の土器が主体を占めるようになり、これに南信地方の曾利式（78 住 2・5、92 住 3）と関東の加曽利 E 2 式（104 住 24・87 住 21・73、78 住 1）が加わり、ときおり北信～越後地域の土器群（87 住 1・30・35）が姿を見せる。また、他地域の土器の模倣的あるいは折衷的な土器（78 住 4、87 住 22・25・36）がみられるようになるのも、この時期からであろう。

加曽利 E 3 式古段階では、地元の唐草文系土器が量質ともにピークを迎え、より独自性の強い唐草文系新段階の文様構成が確立する。他地域の土器の模倣的・折衷的な土器（113 住 1・3、104 住 2・4 など）も数多く、代わって南信地方の曾利式はほとんど見られなくなる。また、純粋な加曽利 E 3 式土器（120 住 1、104 住 34）も少なくなる。

このような傾向は加曽利 E 3 式中段階まで続くが、この時期から加曽利 E 式（92 住 1・4・5、105 住 2、96 住 1、72 住 1）が増加しはじめる。浅鉢（96 住 33、79 住 111）も加曽利 E 式系のもが使われる。なお、台形土器（72 住 35、96 住 43）が多いのも、この地域の特徴の 1 つであろう。

加曽利 E 3 式期新段階になると、盛況を誇った地元の唐草文系土器が減少し、代わって関東の加曽利 E 式が主体を占めるようになる。107 号住居 5 や 85 号住居 1 は加曽利 E 式の模倣のようであり、107 号住居 4 や 118 号住居 10 などは連弧文土器の模倣、118 号住居 11 や 103 号住居 7 は口縁部が加曽利 E 式で胴部が曾利式、107 号住居 13 はほとんど曾利式である。

続く加曽利 E 4 式期は良好な資料が提示できないが、E 3 式期新段階を引き継いでいるものと思

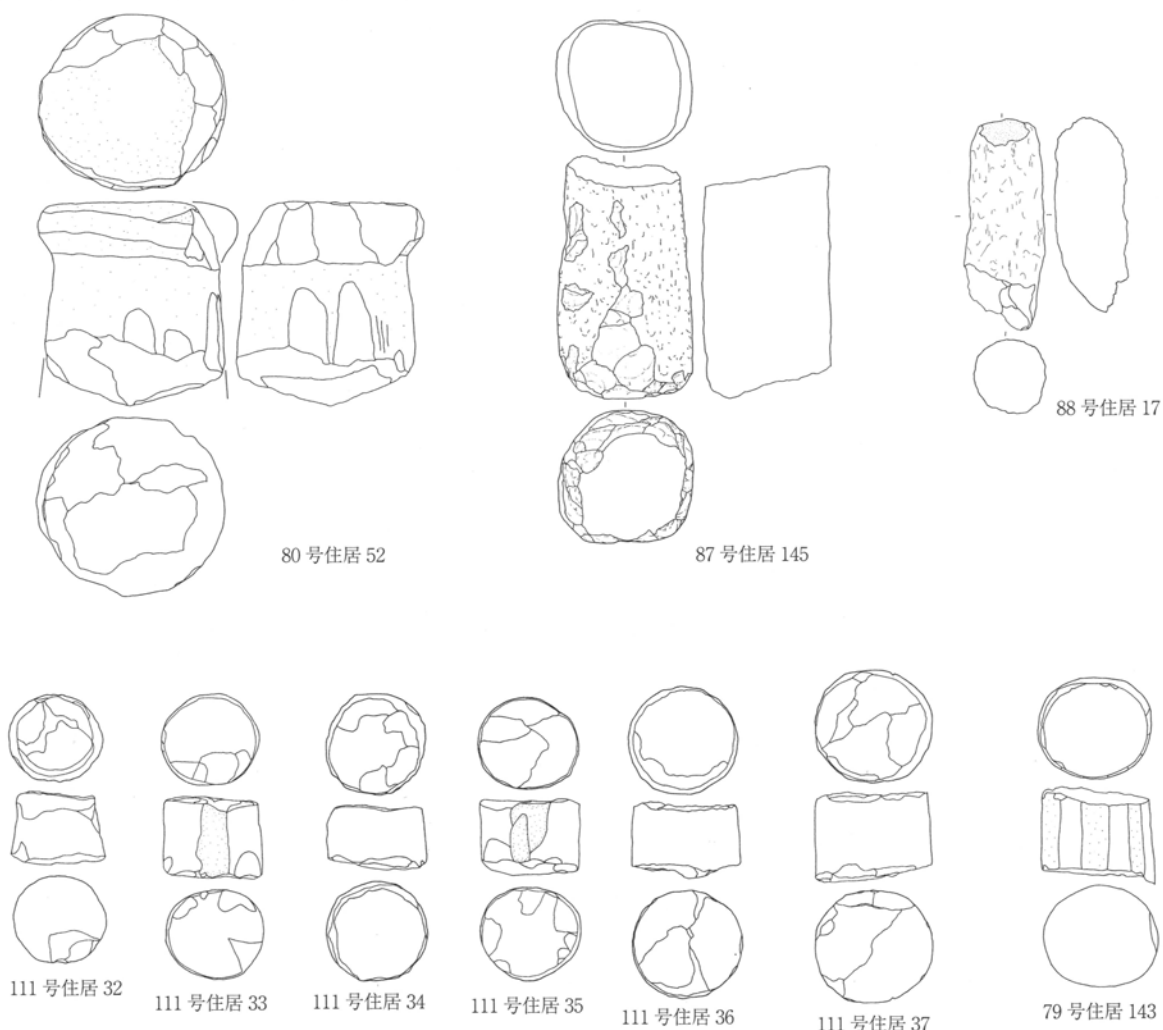


図10 横壁中村遺跡20区住居出土の石棒

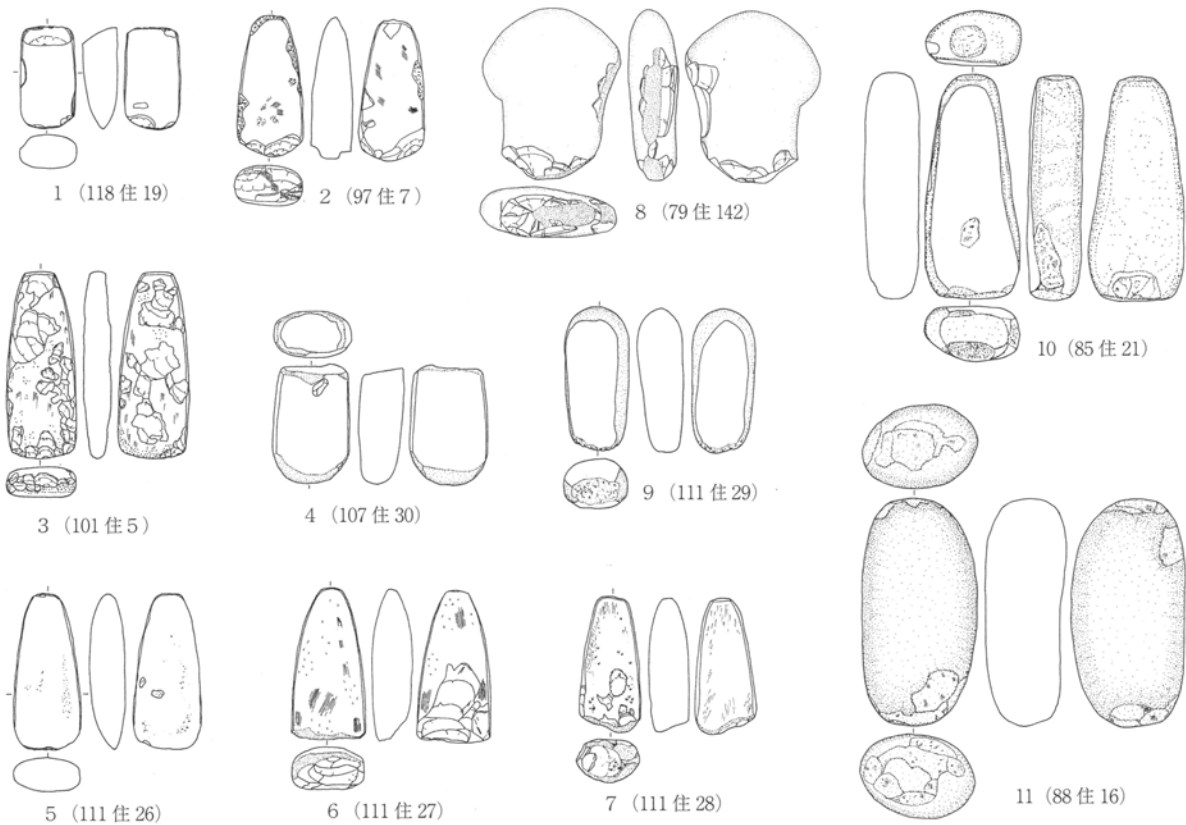


図11 横壁中村遺跡20区住居出土の敲石

われる。主体となる加曾利E式のほかに、北信から本地域にかけて分布する圧痕隆帯文土器（111住15、79住97）が認められる。

以上が今回の報告で扱った住居から出土した土器の概要である。表5と図3からも同様の傾向が読み取れる。時期によって資料の粗密はあるが、本遺跡出土土器のおおまかな傾向は変わらないであろう。ここでは概要を記すにとどめ、詳細については今後を期したい。

### 第3節 出土石器について

今回の報告対象住居から出土した石器は、表6のとおりである。ここでは、これらの石器のなかから、気になる点をいくつか書き留めておきたい。

まず石棒であるが、図10に今回扱った全てを掲載した。

80号住居52は有頭石棒の頭部で、体部の直径が19cmあり、長さは1m前後の大型石棒であったと思われる。欠損部は打ち欠いて調整しており、体部

に凹面の研磨痕が認められる。おそらく砥石として転用されたものと思われる。打ち欠き調整は研磨面を切っており、その後廃棄されたようだ。被熱痕跡は認められない。時期は加曾利E 2式期古段階である。

87号住居151と88号住居88は製作途中の未製品で、荒割り後の敲打調整段階で中止している。共に欠損品であり、その後投棄されている。被熱痕跡は認められない。この2例は、本遺跡内で石棒を製作していたことを明示する事例である。時期は、87号住居が加曾利E 2式期新段階、88号住居が加曾利E 3式期新段階である。

111号住居32～37および79号住居143は、いずれも石棒の欠損品で、住居内に廃棄されたと考えられるものである。32～37は、完成品と見られる1本の石棒を長さ7～8cmで等分に分割したもので、いずれも分割面を平坦に調整している。また、いずれも平坦面も含めて被熱痕跡が認められることから、分割後に被熱していることになる。いったい

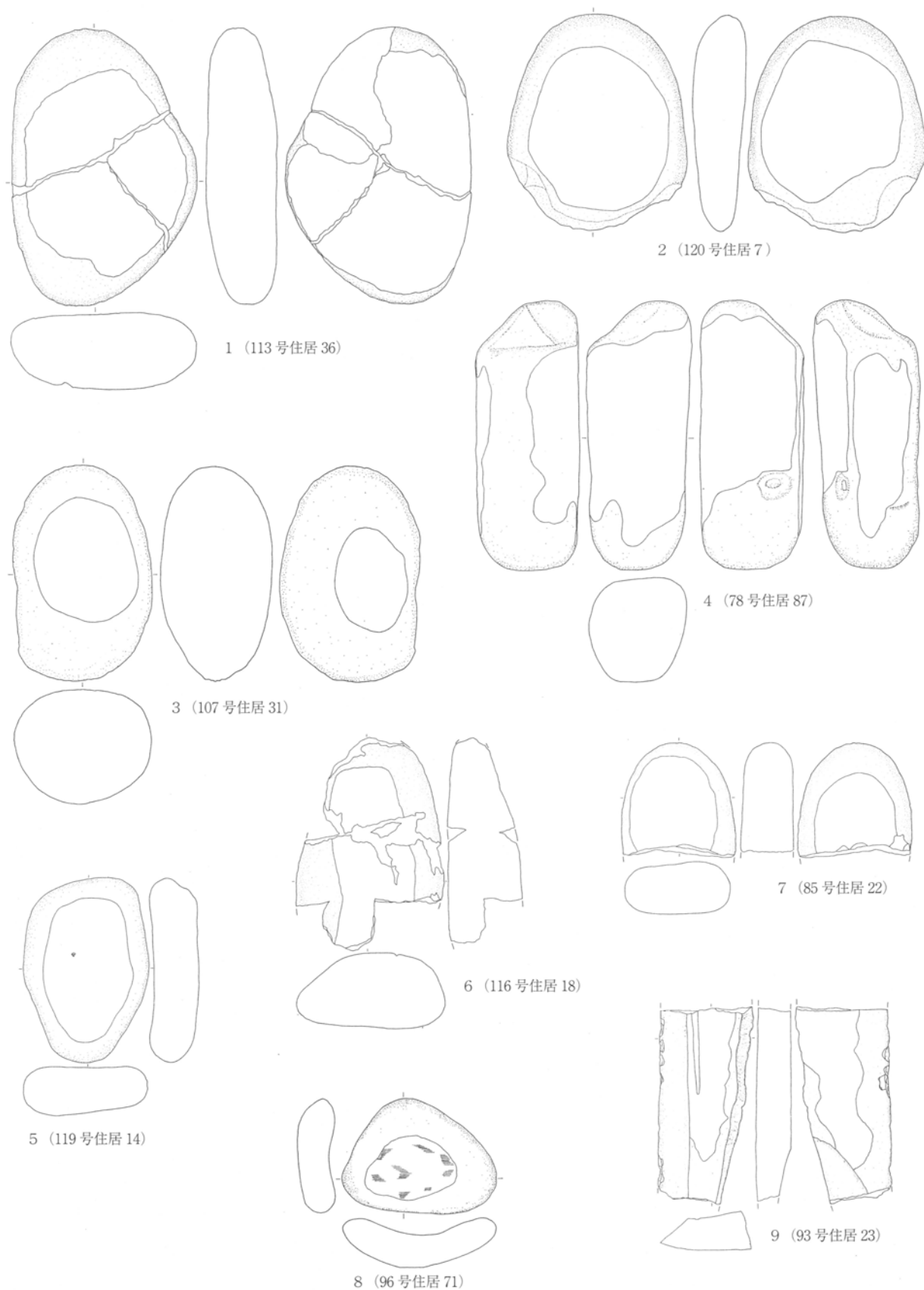


図12 横壁中村遺跡20区住居出土の大型砥石

何に使ったのであろうか。143は敲打調整後の研磨段階で製作が中止されたものだが、前者と同様に長さ8cmほどで輪切り状に打ち割られている。打ち欠き面に調整は認められないが、偶然の一致とは思われない。被熱痕跡が認められないことから、使用されなかったのかもしれない。時期は、111号住居が加曽利E4式期、79号住居が加曽利E1式期古段階である。

なお、79号住居143は、本遺跡内で石棒を製作していたことを明示する事例でもある。

次に、敲石と大型砥石を紹介したい。図11に主な敲石11点を示した。このうち、7点は磨製石斧の転用品であり、出土した磨製石斧のほとんどは敲石に転用されていた。硬質で割れにくい磨製石斧は、敲石として最適だったと思われる。なお、3は未製品の転用事例である。残る4点は棒状の円磔を使用したもので、石質はいずれも重量感のある安山岩である。以上のうち、敲打専用なのは2と3の2点のみで、そのほかは使用面が平坦化しており、敲打しつつ磨り潰すような使用方法が考えられる。時期は、8が加曽利E1式期古段階、5・6・7・9が加曽利E4式期、その他は加曽利E3式期新段階である。

図12は大型砥石を集成した。円磔や扁平磔に明瞭な研磨面をもつものを、本報告では砥石として扱った。30cmを超える大型品も多く、自然面をそのまま使用しているため、発掘中に現地で水洗いし、触れてみなければ見過ごしてしまうものである。発掘調査時から気になっていたものの1つで、平野部の調査ではあまり見かけない石器ではないだろうか。当初は石皿の代わりに円磔を使用しているものと考えていたが、自然面をそのまま使用しているので、面が凸面となるものが多く、4のように棒状のタイプもあり、一様ではない。また、何らかの作業に伴う台石とも考えたが、それにしては研磨痕が明瞭すぎる。なお、9は両面に研磨面をもち、片面に幅8ミリの断面形が凹面の溝状研磨面が付くもので、特殊な事例となる。

整理作業を通じて、想定していた以上にこの種の砥石の数が多いことに気づかされた。まだ用途を云々できる段階ではないが、本遺跡では磨製石斧や石棒も製作していたことから、先の敲石と大型砥石はそれらの製作に関わる可能性もでてきたことになる。これまでに報告した住居からも、研磨面をもつ20cm以上の磔は数多く出土しており、今後の発掘調査および整理作業のなかで注視していきたい。時期は、4が加曽利E2式期新段階、1・2が加曽利E3式期古段階、6・8が加曽利E3式期中段階、3・5・7・9が加曽利E3式期新段階である。

表6 横壁中村遺跡20区住居 出土石器総量一覧 \*表中の完・欠は、完存品・欠損品を示す。

区	石鏃	石鏃未製品	石鏃	石器	加工痕	使用痕	打穿	礫器	磨石	磨り石	石皿	台石	砥石	石棒	多孔石	石核	剥片	砕片	その他																							
72号住	1	1		2			4 完1			5 完1						3	44	17	尖頭器1																							
73号住																																										
78号住	6			4		2	19 完1	1		3			2			4	139	80	円礫2																							
79号住	8 完2 欠6	13	1	5 完2 欠3	2	8	18 完2 欠16 (未1)			5 完4 欠1						267	44		円礫1(欠1)軽石製品1(完1) 礫11(完2)																							
80号住	1 欠1	1 欠1	1 欠1	1 欠1 3	6	3 完1	7 完2 欠5			1 欠1						103	61		礫片1(欠1)																							
84号住							2 完1 欠1			1 完1						1	11	8	ホトツツガキ+1(完1)																							
85号住	5 完1	2			7 完1	8	1 欠1	1 欠1		1 完1			2			184	78		礫5(完1)円礫6(完1・欠1) 丸石1(完1)石鏃片1原石1 礫1																							
86号住		1														4																										
87号住	2	11	2	5 欠1	7		10 完2 欠4	1 欠1		7 完7		1	4 完3 欠1	1 欠1		3	188	442	円礫3(完1)炭片1母岩1																							
88号住	1 欠1	1				2				1 完1						1	10	18	(未) 欠1 (未)																							
89号住	1	1																																								
92号住		2 欠2		2 完1 欠1	3		4 完1 欠3			3 完2 欠1						1	36	58	骨片2																							
93号住							1 欠1			1 完1			1			5	4		丸石1(完1)																							
94号住			1(未1)	1 完1	3		1 欠1			2 完1		1 完1	1 欠1			24	18		軽石製品1																							
96号住	1	9		1 完1	4	4	4 欠4	3 欠1		6 完4 欠1	1 完1	2 完1				3	119	104	円礫4(完3)																							
97号住							1 完1			4 完2 欠2			1 欠1			1	14	3	礫1円礫1(完1)礫片1丸石1																							
101号住		1						1 完1		1						16	10																									
102号住				1	2		3 欠3	1 完1		4 完4	1 欠1					1	30	14	丸石1(完1)																							
103号住	1 完1	1 欠1	3 完1	欠2		1 完1					1					2	10																									
104号住	3 完2	10	1	1 完1	2	1 完1	5 欠5			1						131	130		丸石2																							
105号住		6			7		1 欠1			1 完1						42	37																									
107号住		6		1 欠1	4		2 完1 欠1					1				2	19	8	円礫1																							
111号住	2	4 欠1		1	1	1	1 欠1	1 欠1		4				6 欠5	2	3	18	14	ビス?1礫1円礫6																							
112号住		1		1	2					1			1			1	15	8																								
113号住	2				2		1																																			
116号住	1			2								1 欠1	1			1	11		円礫2(欠2)																							
118号住																4	7		原石1(欠1)																							
119号住	1	欠1											2			1	12	10	円礫2																							
120号住						1						1				6	4		円礫1																							
122号住	2			1		2	2 完1 欠1			2						2	40	7	円礫1																							
計	38	6	9	72	511	2	4	30	6	6	56	1	33	3	87	13	48	1	9	2	4	13	4	51	30	8	2	1	5	2	1	19	4	3	10	0	8	7	1	29	1498	1199

# 遺物観察表

## 20区72号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 推定口径 22 残存高 16.5	長石を含む砂粒を多く含む。 良好。橙色。	口縁は波状を呈し、隆帯で文様帯を区画する。区画内は蛇行する短沈線を施文する。胴部は、平行沈線・沈線・磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
2	深鉢	口縁～胴部 推定口径 14 残存高 12.0	長石や小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部に横位の3条の隆帯を貼付する。真ん中の隆帯には押圧文を施文する。胴部には方形に隆帯を巡らせて文様帯を区画する。区画内に原体LRの単節斜縄文を充填する。	唐草文系
3	深鉢	口縁部片	小礫を少量含む。良好。暗褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式 12と同一個体
4	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁下部に横位の突帯を貼付し、胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線による「∩」字状の区画と磨消文を施文する。	加曾利E3式
5	深鉢	口縁～胴部	長石を含む砂粒を多量に含む。普通。橙色。	波状口縁を呈する。口縁部内側は、隆帯を貼付して肥厚させる。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	加曾利E3式
6	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	4単位と思われる波状口縁を呈する。低い隆帯で口縁部に楕円形の文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を施文する。胴部には、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E3式
7	深鉢	口縁部片	長石を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤橙色。	浅い沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利E3式
8	深鉢	口縁部片	長石や赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	地文に原体RLの単節斜縄文を羽状に施し、半円状の沈線を施文する。	加曾利E3式
9	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は内彎し、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E3式
10	深鉢	口縁部片	長石を含む砂粒をやや多く含む。良好。黄橙色。	浅い沈線で楕円形の文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を横位に施文する。	加曾利E3式
11	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。褐色。	低い隆帯で文様帯を区画する。区画内には原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	加曾利E3式
12	深鉢	口縁部片	小礫を少量含む。良好。暗褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式 3と同一個体
13	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	地文に原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
14	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	地文に原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
15	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
16	深鉢	胴部片	長石や小礫を含む砂粒を多く含む。良好。黄橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には、原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
17	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を縦位に充填する。	加曾利E3式
18	深鉢	胴部片	石英・長石・片岩・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	端部が蕨手状の隆帯や楕円状の隆帯で文様帯を区画する。胴部と区画内は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E3式
19	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多く含む。普通。にぶい黄橙色。	縦位の平行沈線を施文した後、沈線で文様を描く。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
20	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。普通。赤褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、平行沈線・蛇行する沈線・隆帯を垂下させる。	加曾利E式系
21	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。橙色。	地文に原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
22	深鉢	胴部片	石英や長石を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	地文に原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、半円状沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
23	深鉢	口縁部片	石英や金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁は緩やかな波状を呈する。口縁部内側は横位の隆帯を貼付して肥厚させる。口縁部文様帯は、「〇」字状に隆帯を貼付した後、横位の平行沈線を施文する。	唐草文系
24	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁下部に横位の隆帯を貼付した後、その上部に縦位の短沈線を施文する。口縁部の内外に横位の隆帯を貼付する。	唐草文系
25	深鉢	口縁部片	細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	口縁部は内側に肥厚し、外面は隆帯で文様帯を区画する。区画内には短沈線を施文する。	唐草文系
26	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は肥厚し、胴部には「〇」字状の隆帯を貼付する。縦位の平行沈線を施文した後、横位の沈線を施文する。	唐草文系
27	深鉢	口縁部片	長石や白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部は波状を呈する。彎曲する沈線や斜位の沈線などで文様を描いた後、低い隆帯を貼付して文様帯を構成する。	唐草文系
28	深鉢	口縁部片	石英・片岩・礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	口縁はやや内彎し、低い隆帯を貼付して文様帯を区画する。	加曾利E式系
29	深鉢	口縁部片	細砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	口縁は波状を呈する。波頂部は環状を呈する。口縁部内側は口縁部に沿って隆帯を貼付して肥厚させる。口縁部文様帯は、隆帯を貼付した後、斜位の平行沈線を施文する。	唐草文系
30	鉢	口縁部片	小礫や赤色粒子を含む砂粒を含む。良好。橙色。	口縁部はやや外反し、横位の隆帯を貼付する。	
31	深鉢	胴部片	長石を含む砂粒を多量に含む。普通。赤褐色。	蛇行する沈線を垂下させる。	唐草文系
32	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	口縁に円筒状の突起が付き、波状口縁を呈する。半円や横位、斜位の沈線で文様帯を構成する。	唐草文系
33	深鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は肥厚する。口縁部には横位の隆帯を貼付し、頂部に刺突を施す。隆帯の下部にも押圧文を施す。	唐草文系
34	浅鉢	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	突帯を貼付した後、突帯に孔を穿つ。表面赤彩。	
35	台形土器	口縁～胴部 推定口径11 推定底径17 残存高7.5	赤色粒子を含む細砂粒を若干含む。良好。橙色。	体部に円孔がめぐる。	
36	鉢	把手	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	橋状把手。円形状の隆帯を貼付して、端部を肥厚させる。	

20区72号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
37	加工痕	完形	22 12 5 1	黒曜石	
38	加工痕	完形	15 5 19 1.3	黒曜石	
39	先尖器	半分	(70) 31 9 19.4	細粒輝石安山岩	
40	打製石斧	ほぼ完	120 51 120 106.7	細粒輝石安山岩	
41	磨石	完形	110 80 51 669.4	粗粒輝石安山岩	
42	磨石	ほぼ完	135 81.5 44 821.2	粗粒輝石安山岩	

20区73号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部片 残存高 10.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	端部が蕨手状の隆帯、半円状の隆帯と沈線、斜位と横位の沈線で文様帯を構成する。	唐草文系

20区78号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁部 口径 20.4 残存高 10.9	石英や長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁端部に横位の隆帯を貼付した後、その上部に沈線を巡らす。瘤状突起を持つ2条の隆帯で文様帯を区画する。区画内には横位の綾杉文を充填する。胴部はLRの単節斜縄文を縦位に施文した後、2条の平行沈線を施文する。	加曾利E2式新
2	深鉢	口縁～胴部 口径 16.6 残存高 12.1	長石を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁が内彎するキャリバー形の器形。口縁端部に粘土紐を貼付する。口縁部は斜位の沈線を施文した後、クロスする斜位の隆帯を貼付する。胴部には沈線を垂下させた後、頭部に瘤状突起を持つ隆帯を貼付する。その後、横位の波状文を施文する。	曾利II式
3	深鉢	胴部片 残存高 6.4	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	斜位の沈線を施文した後、3条1単位の端部が蕨手状の隆帯を垂下させ、それに連結させて2条1単位の隆帯を横位に貼付する。その後、隆帯に沿って刺突文を施文する。	唐草文系
4	深鉢	胴部片	長石を含む細砂粒を多量に含む。普通。明赤褐色。	隆帯を垂下させた後、縦位の綾杉文を施文する。隆帯上には、平行沈線を垂下させる。	曾利系
5	深鉢	胴部片	長石を含む細砂粒を多量に含む。普通。明赤褐色。	腕骨文を垂下させた後、それに連結する2条1単位の隆帯を横位に貼付して文様帯を構成する。地文は平行沈線を垂下させた後、部分的に横位の沈線を施文する。	唐草文系
6	深鉢	胴部～底部 残存高 3.8 推定底径 5	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	蛇行する隆帯を垂下させる。	
7	深鉢	口縁部 口径 18.0 残存高 4.8	砂粒を多量に含む。普通。にぶい褐色。	外面には広い横位の隆帯を貼付し、内面には細い横位の隆帯を貼付する。	
8	深鉢	胴部～底部 残存高 16.9	石英や小礫を含む砂粒を多量に含む。普通。橙色。	3条の低い隆帯と2本の沈線を垂下させた後、平行沈線を垂下させる。	曾利II式
9	浅鉢	胴部片	長石・雲母・片岩を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	横位の隆帯を貼付した後、蕨手文、半円刺突文、円形区画内に斜位の沈線を施す。表面赤彩。	
10	浅鉢	口縁 口径 37.0 残存高 8.4	石英・長石・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	内側に肥厚し、外側に稜を持つ。外面と内面を丁寧に磨く。表裏赤彩。	
11	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部には渦巻文を持つ2条の隆帯で半円状の区画をなす。区画内には斜沈線を充填する。胴部は原体LRの単節斜縄文を施文した後、平行沈線を垂下させる。	加曾利E3式古
12	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む細砂粒を多く含む。普通。赤褐色。	端部が蕨手状の隆帯と横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E2式
13	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁下部に2条の横位の隆帯を貼付する。	加曾利E2式
14	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁は内彎し、1条と2条の隆帯で文様帯を区画する。区画内には斜位の沈線を充填する。	加曾利E2式
15	鉢	胴部片	白色粒子を含む細砂粒を含む。良好。橙色。	低い隆帯と横位の沈線で文様帯を区画した後、区画内に原体LRの単節斜縄文を充填する。表面赤彩。	
16	鉢	胴部片	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	2条の隆帯で「T」字状に文様帯を区画した後、隆帯の中心に押圧文を施文する。区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。表面赤彩。	
17	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と沈線を施文して文様帯を構成する。	加曾利E2式



番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
18	深鉢	口縁部片	石英や雲母を含む細砂粒を多量に含む。普通。暗赤褐色。	口縁は波状を呈し、口縁に沿って隆帯を貼付して、その上に短沈線を垂下させる。「U」字状の隆帯の中に、端部が蕨手状の隆帯を貼付した後、それに接続する2条1単位の隆帯を垂下させる。「八」字状の隆帯を垂下させた後、横位の沈線を施文する。	唐草文系
19	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む細砂粒を多量に含む。普通。明黄褐色。	口縁はやや内側に肥厚し、斜位の隆帯を貼付する。頸部に横位の隆帯を貼付した後、隆帯上に刺突文を施文する。	曾利Ⅱ式
20	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	細い隆帯を斜位に施文した後、横位の沈線を施す。	曾利Ⅱ式
21	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	横位の沈線を施文した後、十字形に隆帯を貼付する。	唐草文系
22	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円形の隆帯を格子状に貼付した後、腕骨文と蛇行する隆帯を横位に貼付する。	唐草文系
23	深鉢	胴部片	雲母や白色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	蛇行する隆帯と2条1単位の隆帯を垂下させた後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系
24	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	楕円状に隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を充填する。	唐草文系
25	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	斜位の沈線を施文した後、低い隆帯と橋状把手で文様帯を区画する。	唐草文系
26	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む砂粒を多量に含む。普通。明赤褐色。	口縁部内面に低い横位の隆帯を貼付する。断面半円形の隆帯で文様帯を区画する。隆帯上には斜位の沈線を施文する。胴部には肋骨文を施文する。	唐草文系
27	深鉢	口縁部	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁はやや内彎する。口縁部外面は、蕨手状の隆帯と沈線、横位の綾杉文で文様帯を構成する。口縁部内面は、蕨手状の隆帯と沈線、横位の隆帯で文様帯を構成する。	唐草文系
28	浅鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁部は波状を呈し、円形の孔を穿つ。斜位の沈線を施文する。	唐草文系
29	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は低い隆帯で文様帯を区画する。区画内には横位の綾杉文を充填する。	唐草文系
30	深鉢	口縁部片	細砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	渦巻状の隆帯を上下の隆帯で挟み込んで文様帯を区画する。区画内には、斜位の沈線を充填する。	唐草文系
31	鉢形土器	口縁部片	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口唇部が内側に屈曲し、上面が平らになる。	唐草文系
32	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。橙色。	波状口縁部に貼付する突起。太い隆帯を貼付した後、その上に2条1単位の隆帯による腕骨文を垂下させ、隆帯側面に棒状工具による刺突を施す。	唐草文系
33	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁は内彎する。口縁部は横位の沈線を施文した後、沈線を垂下させる。	越後馬高式系
34	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む砂粒を多量に含む。良好。黄褐色。	口縁は外反し、口縁部内側に横位の隆帯を貼付する。	唐草文系
35	深鉢	胴部片	長石を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	横位の沈線と押圧文を施文する。	
36	深鉢	口縁部片	細砂粒を多く含む。普通。暗赤褐色。	口縁はやや外反し、「八」字状の隆帯を貼付する。	唐草文系
37	深鉢	胴部片	石英や長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	斜位や弧状の平行沈線を縦位に施文後、沈線と磨消文を垂下させる。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
38	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	2条の隆帯を垂下させた後、綾杉文を施文する。	唐草文系
39	深鉢	口縁部片	礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁は内側に肥厚する。外面は「冂」字状の沈線を施文する。	唐草文系
40	浅鉢	胴部片	長石を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐灰色。	隆帯を横位に貼付した後、隆帯側面に刺突文を施文する。	唐草文系
41	深鉢	胴部片	長石を含む砂粒を多量に含む。普通。にぶい赤褐色。	横位の隆帯と2条の隆帯を垂下させた後、縦位と横位の沈線を施文する。	唐草文系
42	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	2条1単位の隆帯による腕骨文を垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	唐草文系
43	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	横位の隆帯を貼付した後、断面半円の2条1単位の隆帯を垂下させる。胴部は縦位の沈線を垂下させた後、横位の沈線を施文する。	唐草文系
44	深鉢	胴部片	石英や金雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	沈線を垂下させた後、渦巻状の隆帯を貼付する。	曾利系
45	浅鉢	口縁部片	礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁は内彎し、外面に磨きと削りを施す。表裏赤彩。	
46	浅鉢	口縁部片	長石を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁に断面三角の横位の隆帯を貼付して外面を肥厚させる。	
47	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁に断面三角の横位の隆帯を貼付して外面を肥厚させ、口縁端部を平坦にする。	
48	浅鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黄橙色。	端部が蕨手状の流水文と斜位の沈線を横位に施文する。	
49	浅鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁はやや外反する。	
50	浅鉢	口縁部片	長石や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。普通。黄橙色。	口縁に断面三角の横位の隆帯を貼付して外面を肥厚させ、口縁端部を平坦にする。	
51	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部は外反し、口縁下部に爪形文を施文する。胴部は弧状の隆帯を貼付した後、隆帯に沿って爪形文を前後に施文する。	
52	深鉢	胴部片	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。文様帯には原体RLの単節斜縄文を充填する。表面隆帯にのみ赤彩。	
53	浅鉢	口縁部片	片岩や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁内面がやや肥厚する。	
54	浅鉢	口縁部片	片岩や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁外面はやや肥厚する。	
55	浅鉢	口縁部片	石英や長石を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁に断面三角の横位の隆帯を貼付して外面を肥厚させ、口縁端部を平坦にする。	
56	浅鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	無文である。表面赤彩。	
57	浅鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁内面がやや肥厚する。	
58	土製円盤	完形	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	無文で、土器片の転用。	

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
59	浅鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。明褐色。	口縁はやや内彎し、断面三角の横位の隆帯を貼付して内面を肥厚させる。	
60	浅鉢	口縁部片	石英・長石・片岩を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁に横位の隆帯を貼付して内外面を肥厚させ、口縁端部を平坦にする。表裏赤彩。内面に赤彩塗り分けの大柄渦巻文を施す。	

#### 20区78号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
61	石鏃	半分	(13)	(10)	3.5	0.3	黒曜石	
62	石鏃	70%	(14.5)	(14)	4.5	0.3	珪質変質岩(流紋岩質)	
63	石鏃	半分	(14)	(8)	3.5	0.2	黒曜石	
64	石鏃	90%	19	(17)	4	0.8	黒曜石	
65	石鏃	半分	(11)	17.5	3.5	0.6	黒曜石	
66	石鏃	60%	19	(11)	6	0.9	黒曜石	
67	削器	完形	31.5	(39.5)	7.5	7.2	珪質変質岩流紋岩質	
68	使用痕		14	22	5	1.1	黒曜石	
69	使用痕		23	17	5	1.3	黒曜石	
70	削器	完形	(109.5)	(50)	18	79.3	細粒輝石安山岩	
71	削器	完形	86	65	20.5	87	黒色安山岩	
72	削器	完形	62	89	16	65.1	細粒輝石安山岩	
73	打製石斧	40%	(73)	46	20	88.6	細粒輝石安山岩	
74	打製石斧	20%	(61)	(44)	24	51.1	細粒輝石安山岩	
75	打製石斧	90%	114	41	25	140.2	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
76	打製石斧	70%	(105)	50	(24)	155.3	細粒輝石安山岩	
77	打製石斧	完形	129	46	21	162.5	細粒輝石安山岩	
78	打製石斧	30%	77	54	22	80.2	細粒輝石安山岩	
79	打製石斧	20%	(43)	47	18	51.3	細粒輝石安山岩	
80	礫器	完形	136	149	79	1607.5	細粒輝石安山岩	
81	石核		42	43	31	58.1	流紋岩	
82	石核		64	59	42	204	細粒輝石安山岩	
83	磨石	完形	78	56	46	279.8	粗粒輝石安山岩	
84	磨石	完形	115	89	48	667.3	粗粒輝石安山岩	
85	磨石	80%	(105)	88	47	718.1	粗粒輝石安山岩	
86	砥石	90%	140	89	58	853.9	細粒輝石安山岩	
87	砥石	完形	376	144	147	12,650	粗粒輝石安山岩	

#### 20区79号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 口径13.4 残存高15.0	石英や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部に4単位の「U」字状突起が付く。胴部は沈線で文様帯を描出した後、刻みと爪形文で区画する。	勝坂3式
2	深鉢	胴部片	石英・長石・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	端部が環状の蛇行する隆帯と弧状の沈線を施文する。	勝坂3式
3	深鉢	口縁部片	長石・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内に半円状の沈線を施文する。隆帯に沿って爪形文を施文する。	勝坂3式
4	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は「く」の字状に屈曲して内傾し、波状を呈する。口縁部には隆帯を貼付し、その上に沈線を施文する。	勝坂3式
5	深鉢	口縁部片	石英・長石・金雲母・赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は小波状を呈し、口縁部内面に隆帯を貼付して肥厚させる。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には刺突文と沈線を充填する。	勝坂3式
6	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	口縁はやや外反し、口縁部に「∩」字状の隆帯を貼付する。	勝坂3式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
7	深鉢	口縁部片	金雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁は小波状を呈し、口縁部内面が肥厚する。横位の平行爪形文を施文する。	
8	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	環状の孔を持つ橋状把手が付く。	勝坂3式
9	深鉢	口縁～胴部 口径 23.5 残存高 23.5	石英・長石・小礫・赤色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部に瘤状の突起を貼付し、外側にやや肥厚する。胴部は断面台形の幅広の隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には、渦巻文や横位や斜位などの短沈線、刺突文を充填する。隆帯上には押圧文、刺突文、沈線を施文する。	勝坂3式
10	深鉢	胴部片	小礫や片岩を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には沈線を充填する。隆帯上に沈線を施文する。	勝坂3式
11	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	横位の隆帯を貼付した後、横位の爪形文を施文する。	勝坂3式
12	深鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	隆帯を貼付した後、隆帯上に沈線を施文する。	焼町土器
13	深鉢	胴部片	石英・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	隆帯を貼付した後、隆帯上に渦巻文を施文する。	焼町土器
14	浅鉢	口縁部片	石英や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯と沈線で文様帯を描出する。口唇部に刻みを施す。	越後系
15	深鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。明褐色。	横位や弧状の隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内は斜位や縦位の沈線を充填する。隆帯上には押圧文を施文する。	勝坂3式
16	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。暗褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には刺突文と沈線を垂下させる。隆帯上には刻みを施す。	勝坂3式
17	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	渦巻文と弧状の隆帯を貼付した後、部分的に押圧文を垂下させる。	焼町土器
18	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	横位の沈線を施文し、沈線間に刺突文と刻みを施す。	
19	深鉢	口縁～胴部 口径 30.9 残存高 40.0	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部に2対の2等辺三角形の突起が付く。頂部から隆帯が垂下し、環状突起が続く。口縁部は無文で、胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、胴上部に隆帯と沈線で文様帯を描出する。	加曾利E1式古
20	深鉢	口縁部片	石英・長石・金雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	口縁部は小波状を呈し、横位の平行沈線を施文する。地文は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E1式古
21	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む砂粒を多量に含む。良好。褐色。	口縁部は波状を呈し、口縁部内面に隆帯を貼付して肥厚させる。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E1式古
22	深鉢	胴部片	石英や長石を含む小礫を多量に含む。普通。橙色。	メガネ形の橋状突起を貼付した後、その形に沿って隆帯を貼付して形を縁取る。胴部は横位の沈線を施文する。	加曾利E1式古
23	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	平行沈線で長方形に文様帯を区画し、区画内には弧状の沈線や原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E1式古
24	深鉢	口縁部片	長石を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部はやや外反し、橋状把手が付く。口縁部は、隆帯・蛇行する沈線・沈線を横位に施文する。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E1式古
25	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	隆帯を楕円形に貼付して文様帯を区画する。隆帯に沿って楕円状に押圧文を施文する。文様帯上部側面に隆帯を貼付する。	加曾利E1式古

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
26	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	隆帯を楕円形に貼付して文様帯を区画する。隆帯に沿って楕円状に押圧文を施文する。文様帯上部側面に隆帯を貼付する。	加曾利E1式古
27	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の隆帯を貼付した後、沈線を垂下させる。	加曾利E1式古
28	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。橙色。	隆帯とそれに沿う沈線で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を充填する。	焼町土器
29	深鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部内面がやや肥厚する。口縁は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には刺突文を充填する。口縁部文様帯下部は、爪形文・刺突文・蛇行する沈線を順番号に施文する。	勝坂2式
30	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁は外反する。口縁部文様帯は、斜位の沈線を施文した後、交差する隆帯を貼付する。その後、楕円形の隆帯を貼付した後、半截竹管文を施文する。	唐草文系
31	深鉢	胴部片	石英・雲母・小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、横位の隆帯と平行沈線を施文する。	加曾利E1式古
32	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。明赤褐色。	口縁は内彎する。口縁部は、斜位・横位・縦位の沈線で文様帯を描く。	
33	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は三叉文と斜位と横位の沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	焼町土器
34	深鉢	口縁部片	石英・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、横位の沈線を施文する。	唐草文系
35	深鉢	口縁部片	石英・雲母・片岩・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈する。文様は三叉文を貼付した後、刺突文を施文する。	唐草文系
36	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E1式古
37	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	隆帯を楕円形に貼付して文様帯を区画し、区画内は半截竹管文を用いた刺突文を施文する。	加曾利E1式古
38	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、横位の平行沈線を施文する。	加曾利E1式古
39	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	口縁部内面は肥厚する。口縁部文様帯は、「八」字状の隆帯と沈線で文様帯を構成する。	加曾利E1式古
40	深鉢	胴部片	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	横位の隆帯を貼付した後、隆帯上に刺突文を施す。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位の平行沈線と刺突文を施す。	加曾利E1式古
41	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E1式古
42	深鉢	口縁～胴部	石英・長石・小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部には、横位の隆帯、2条の沈線、蛇行する隆帯、2条の沈線を施文する。胴部は、2条の隆帯と瘤状突起を貼付して文様帯を区画する。区画内には原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。突起上に渦巻文・沈線・三日月文を施文する。	加曾利E1式古

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
43	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母・小礫を含む砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	隆帯を貼付した後、縦位と横位の沈線を施文する。	加曾利E1式古
44	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、横位・縦位の平行沈線を施文する。	加曾利E1式古
45	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	横位の平行沈線を施文する。	加曾利E1式古
46	深鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	沈線を施した隆帯を垂下させる。	加曾利E1式古
47	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E1式古
48	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母・小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。暗褐色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、隆帯と平行沈線を施文する。	加曾利E1式古
49	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、横位の平行沈線を施文する。	加曾利E1式古
50	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、「 $\square$ 」字状の沈線を施文する。	加曾利E1式古
51	深鉢	口縁部片	石英や小礫を含む砂粒を多量に含む。普通。にぶい赤褐色。	口縁部内外面に隆帯を貼付してやや肥厚させる。口縁部文様帯は、横位の平行沈線を施文した後、隆帯を貼付する。	
52	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。明褐色。	口縁部内外面に隆帯を貼付して肥厚させる。口縁部に爪形文を施文する。胴部は平行沈線を垂下させる。	
53	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。明褐色。	口縁部内外面に隆帯を貼付して肥厚させる。口縁部に爪形文を施文する。胴部は平行沈線を垂下させる。	
54	深鉢	口縁～胴部 口径 11.5 残存高 10.6	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。明赤褐色。	口縁部外面は肥厚する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
55	深鉢	口縁部片	石英や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部に刺突文を施す。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
56	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口唇部に刻みを施文した後、口縁部外面には原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
57	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部内面がやや肥厚する。口縁部は2条1単位の隆帯を横位に貼付した後、その上に刺突文を施文する。	
58	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付して文様帯を区画する。	加曾利E1式新
59	深鉢	口縁～胴部	雲母や赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。明黄褐色。	口縁が内彎するキャリバー形を呈する。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を充填する。胴部は横位の平行沈線を施文する。	加曾利E1式新
60	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は内彎し、口唇部は平坦を呈する。口縁部は渦巻文を持つ隆帯と沈線で加飾された舌状突起が付く。それに連続する隆帯と沈線で文様帯を区画する。区画内には斜沈線を施文する。	唐草文系
61	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	口縁部に隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E1式新
62	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む砂粒を多量に含む。普通。にぶい褐色。	口縁部内面は肥厚する。口縁に隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には横位の綾杉文を充填する。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
63	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は斜位の単沈線を施文した後、その下部に隆帯を横位に貼付する。	加曾利E1式新
64	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部内外面に隆帯を貼付する。地文は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E1式新
65	深鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	口縁は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を充填する。	加曾利E1式新
66	深鉢	胴部片	石英や長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E1式新
67	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母・小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。暗褐色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、隆帯と蛇行する沈線を垂下させる。	加曾利E1式新
68	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	端部が勾玉状の隆帯を貼付した後、それに連結する2条1単位の隆帯を貼付する。	唐草文系
69	深鉢	胴部片	石英・長石・金雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。褐色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、端部が蕨手状の隆帯と2条1単位の隆帯を交差させて貼付する。	加曾利E1式新
70	深鉢	胴部片	石英・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E1式新
71	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。明褐色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、沈線と隆帯を垂下させる。	加曾利E1式新
72	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、蛇行する沈線と隆帯を垂下させる。	加曾利E1式新
73	深鉢	胴部片	石英・長石・金雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、平行沈線と蛇行する沈線を垂下させる。	加曾利E1式新
74	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁下部に横位の沈線を施文した後、縦位の沈線と2重の楕円形文を施文する。	唐草文系
75	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	2重の円形文を施文した後、沈線間に刺突文を施す。	唐草文系
76	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	横位の蛇行する沈線を施文した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系
77	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	2条1単位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	唐草文系
78	深鉢	胴部片	長石や小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	2条1単位の隆帯を垂下させた後、縦位と横位の沈線を施文する。	唐草文系
79	深鉢	胴部片	石英・長石・小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。暗褐色。	2条1単位の隆帯を垂下させた後、縦位と横位の沈線を施文する。	唐草文系
80	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁は内側に屈曲し、口縁部には斜位の沈線を施文する。	曾利式
81	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。褐色。	口縁部内面は肥厚する。口縁部に斜位の沈線を垂下させた後、斜位・横位・蛇行する隆帯を貼付する。横位の隆帯には刺突文を施文する。	曾利式
82	深鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	縦位と横位の沈線を施文した後、隆帯を貼付する。	曾利式
83	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	3条1単位の隆帯と磨消文を垂下させた後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
84	深鉢	胴部片	長石・雲母・小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	横位の沈線を施文した後、端部が獣手状の隆帯を貼付して文様帯を描く。	唐草文系
85	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯を垂下させる。隆帯上には刻みを施す。	唐草文系
86	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	綾杉文を垂下させた後、2条1単位の隆帯を垂下させる。	唐草文系
87	深鉢	胴部片	石英・長石・金雲母・小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。暗褐色。	綾杉文を垂下させた後、2条1単位の隆帯と沈線を垂下させる。	唐草文系
88	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母・赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁部は「く」の字状に屈曲する。胴部には横位の沈線を施文する。	唐草文系
89	深鉢	口縁部片	小礫や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁は内彎し、無文である。	唐草文系
90	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部内面に横位の隆帯を貼付して肥厚させる。	唐草文系
91	深鉢	胴部	長石や小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	胴部中央は断面半円状の隆帯で文様帯を区画し、区画の交点に瘤状突起を貼付する。区画内には短沈線を垂下させる。文様帯の上下部も「コ」の字状の隆帯で文様帯を区画する。地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文し、突帯下部には綾杉文を垂下させる。	唐草文系
92	深鉢	口縁部片	石英・長石・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁は内彎し、無文である。	唐草文系
93	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	横位の隆帯と沈線を施文する。	唐草文系
94	台形土器	脚部片 残存高 3.3 推定底径 10	石英・長石・雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。口縁部に孔を穿つ。	唐草文系
95	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母・赤色粒子を含む砂粒を多量に含む。良好。橙色。	口縁部はやや肥厚し、無文である。	唐草文系
96	深鉢	胴部～底部 残存高 7.8 底径 13.6	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	無文である。	唐草文系
97	深鉢	口縁～胴部 推定口径 29 残存高 27.4	石英・長石・雲母を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は横位の隆帯を貼付した後、4単位の端部が獣手状の隆帯を貼付する。隆帯上には押圧文を施文する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	北信系
98	深鉢	口縁部片	石英や雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は横位の隆帯を貼付した後、隆帯上に斜位の沈線を施文する。	北信系
99	深鉢 94住出土	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	原体LRの単節斜縄文を施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
100	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。暗褐色。	沈線を施文した後、原体LRの単節斜縄文を充填する。	後期堀之内2式 101と同一個体
101	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	沈線を施文した後、原体RLの単節斜縄文を充填する。	後期堀之内2式 100と同一個体
102	深鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を施文する。	加曾利E1式
103	浅鉢	口縁部	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部は内彎し、口唇部を平坦にする。口縁外面に瘤状の粘土を貼付して、渦巻文・流水文・短沈線を施文する。隆帯にのみ赤彩。	勝坂3式



番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
104	浅鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は内彎し、口縁内側は肥厚する。口縁外面には瘤状突起を貼付して、その上に麻手文や沈線、隆帯を貼付して文様を描く。表裏赤彩。	勝坂3式
105	浅鉢	口縁部片	長石や小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁端部に断面台形の隆帯を貼付して肥厚させる。無文である。	
106	浅鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には沈線を充填する。隆帯上に押圧文と沈線を施文する。	
107	浅鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。黄橙色。	麻手文・縦位や弧状の沈線を施文する。	
108	浅鉢	胴部片	小礫や片岩を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	横位の隆帯と沈線で文様帯を構成する。隆帯上には刻みを施す。	越後系
109	浅鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤橙色。	斜位の隆帯と沈線で文様帯を描出する。隆帯上には刻みを施す。	越後系
110	鉢	口縁部片	長石や小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。明褐色。	口縁はやや外反する。地文は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
111	鉢	口縁～胴部 推定口径 36 残存高 25.6	石英・雲母・赤色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁は外反し、口縁部文様帯は、太い隆帯で区画する。区画内には、RLの単節斜縄文を充填する。胴部は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	
112	浅鉢	口縁部片	石英・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁は内彎し、横位の沈線を施文する。	
113	鉢	胴部～底部 残存高 14.7 底径 11.0	雲母や赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	胴部は無文である。	

20区79号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
114	石鏃	完形	18	13	3.5	0.6	黒曜石	
115	石鏃	完形	19.5	15.5	2.5	0.5	黒曜石	
116	石鏃	80%	(15)	(13)	(2.5)	0.4	黒曜石	
117	石鏃	ほぼ完	17	(14.5)	2.5	0.5	黒曜石	
118	石鏃	60%	(20.5)	(13.5)	3	0.6	黒曜石	
119	石鏃	60%	(24)	(13)	(4)	0.9	黒曜石	
120	石鏃未製品	ほぼ完	17	18	5	1.2	黒曜石	
121	石鏃未製品	ほぼ完	(17)	15	3	0.7	黒曜石	
122	石鏃未製品	ほぼ完	22	18	6	2	黒曜石	
123	石鏃	30%	(12)	7	4	0.3	黒曜石	
124	加工痕		(28)	21	(7)	5	黒曜石	
125	加工痕		30	16	6	1.8	黒曜石	
126	使用痕		22	(16)	8	2.2	黒曜石	
127	使用痕		24	30	7	2.8	黒曜石	
128	使用痕		22	25	5	1.8	黒曜石	
129	削器	40%	63	(64)	(17)	50.2	細粒輝石安山岩	
130	削器	完形	74	93	27.5	181.3	細粒輝石安山岩	
131	磨製石斧	60%	(62)	40	16	74.2	蛇紋岩	
132	軽石製品	完形	44	33	21	6.6	軽石	
133	打製石斧	80%	103	51	22	127.4	細粒輝石安山岩	
134	打製石斧	80%	107	52	17	96.9	細粒輝石安山岩	
135	打製石斧	80%	100	50	18	82.4	細粒輝石安山岩	
136	打製石斧	80%	(131)	54	23	169.4	細粒輝石安山岩	
137	打製石斧	70%	(89)	57	(19)	105.1	細粒輝石安山岩	
138	打製石斧	70%	(86)	52	16	102.6	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
139	打製石斧	60%	(82)	55	17	85.7	細粒輝石安山岩	
140	打製石斧	20%	(36)	42	10	20.3	細粒輝石安山岩	

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
141	打製石斧	30%	(65)	50	10	48.5	珪質変質岩	
142	敲石	完形	136	109	40	710.3	粗粒輝石安山岩	
143	石棒	破片	106	121	109	1,984.5	粗粒輝石安山岩	
144	磨石	完形	117	76	42	572.1	粗粒輝石安山岩	
145	敲石	完形	148	75	53	919.2	粗粒輝石安山岩	
146	磨石	完形	133	72	46	617.5	粗粒輝石安山岩	
147	磨石	70%	(106)	68	49	436	流紋岩質凝灰岩	

20区80号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部 残存高 12.7	長石や金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は刺突文と沈線で「V」字状を描く。胴部は渦巻文を持つ突起が付く横位の隆帯を貼付した後、「∩」字状の沈線と蛇行する沈線を垂下させる。地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	唐草文系
2	深鉢	口縁～胴部	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい赤褐色。	頸部は隆帯を貼付して突出させた後、隆帯と刺突文を施文する。胴部は沈線と刺突文で文様帯を描出した後、端部が獣手状の隆帯を垂下させる。	唐草文系
3	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、弧状の隆帯を貼付する。	加曾利E1式
4	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	横位の隆帯を貼付した後、縦位に綾杉文を施文する。	唐草文系
5	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	沈線を縦位に施文した後、口縁下部に刺突文を施文した横位の隆帯を貼付する。	唐草文系
6	深鉢	胴部片	石英・長石・小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。明赤褐色。	胴部は綾杉文を施文した後、3条の隆帯を垂下させる。	唐草文系
7	浅鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	渦巻状の沈線を施文する。	唐草文系
8	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体Lの捺糸文を縦位に施文した後、蛇行する沈線と半月文を垂下させる。	加曾利E2式系
9	深鉢	胴部片	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	沈線を縦位に垂下させた後、横位の隆帯と沈線を施文する。	加曾利E2式系
10	深鉢	胴部片	小礫や赤色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内に斜位の沈線を施文する。	唐草文系
11	深鉢	胴部片	長石や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	横位の沈線を施文した後、縦位に沈線を施文する。	唐草文系
12	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。褐色。	横位の沈線と隆帯を施文した後、半截竹管文と沈線を垂下させる。	唐草文系
13	深鉢	胴部片	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	斜位と弧状の沈線を縦位に施文した後、蛇行する隆帯と縦位の隆帯を垂下させる。	唐草文系
14	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、2条1単位の沈線を垂下させる。	唐草文系
15	深鉢	胴部片	砂粒を多量に含む。普通。橙色。	隆帯を貼付して文様帯を描出した後、原体LRの単節斜縄文を充填する。	唐草文系
16	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口唇部は平坦を呈する。無文である。	唐草文系
17	深鉢	口縁 推定口径 42 残存高 11.5	石英・長石・小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。明赤褐色。	口縁部内面に横位の隆帯を貼付する。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
18	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む砂粒を多量に含む。良好。褐色。	口縁部内外面に横位の隆帯を貼付した後、綾杉文を垂下させる。	唐草文系
19	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黄橙色。	胴部は斜位の沈線を縦位に施文する。	唐草文系
20	深鉢	口縁部片	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部内面に横位の隆帯を貼付して肥厚させる。口縁部外面はやや肥厚する。	唐草文系
21	深鉢	口縁部片	石英・長石・小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	無文である。	唐草文系
22	深鉢	突起	石英や長石を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	橋状突起にメガネ状の円形透しを造形する。内外面に隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
23	深鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	蕨手状の隆帯を貼付した後、連続する横位の沈線を施文する。	加曾利E1式古
24	深鉢	口縁部片	石英・長石・小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。明褐色。	口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内は斜位の短沈線を充填する。	加曾利E1式新
25	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部に隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E2式
26	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内は原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E2式
27	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁部に横位の隆帯を貼付する。	加曾利E2式
28	深鉢	胴部片	長石・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	加曾利E2式
29	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部内面は肥厚する。口縁部外面は隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内は横位の沈線を施文するが、基本的には無文である。隆帯上には沈線と押圧文を施文する。	
30	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。暗褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と隆帯を交互に垂下させる。	加曾利E2式
31	深鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	地文は斜位の沈線を縦位に施文した後、弧状の隆帯と沈線で文様帯を描出する。	
32	深鉢	胴部片	長石や小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様帯を描出する。	加曾利E2式
33	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する隆帯を貼付する。	加曾利E2式
34	浅鉢	口縁部 口径28.0 残存高6.7	雲母・片岩・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁部はやや肥厚し、表裏赤彩。	加曾利E2式
35	浅鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯と刻みで文様帯を構成する。	?
36	深鉢	胴部片	石英・長石・小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	斜位の沈線を縦位に施文する。	加曾利E2式
37	浅鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	隆帯と沈線と縦位の刺突文で文様を描出する。表裏赤彩。	

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
38	浅鉢	胴下部～底部 残存高 4.7 底径 9.1	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	無文である。	
39	浅鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。黄橙色。	無文である。	

#### 20区 80号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
40	石鏃	70%	(15.5) (17) (4) 1.2	黒色安山岩	
41	石鏃未製品	30%	(13) (11) 4 0.3	黒曜石	
42	石錐	完形	(55) 10.5 9 4.2	黒色安山岩	
43	削器	20%	(10) (32) 7 1.7	黒色安山岩	
44	削器	完形	80 87 22 142	細粒輝石安山岩	
45	削器	30%	(47) (53.5) (15) 32	細粒輝石安山岩	
46	打製石斧	完形	117 45 22 97.7	細粒輝石安山岩	
47	打製石斧	80%	(108) (48) 23 148	細粒輝石安山岩	
48	打製石斧	70%	129 50 30 193.7	細粒輝石安山岩	
49	打製石斧	完形	93 41 22 99.3	黒色頁岩	
50	打製石斧	70%	(75) 59 15 73.2	細粒輝石安山岩	
51	磨石	半分	(68) 80 41 311.1	粗粒輝石安山岩	
52	石棒		215 204 187 10,600	粗粒輝石安山岩	

#### 20区 84号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部 口径 12.5 残存高 12.0	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、横位の平行沈線を施文する。その後、4単位の「S」字状の平行沈線と隆帯で文様帯を描出する。	焼町土器
2	深鉢	胴部 残存高 8.9	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と隆帯で文様帯を描出する。	焼町土器
3	深鉢	口縁部	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈し、透しを持つ突起が付く。口唇部には棒状工具による刻みを施文し、口縁部には横位の平行沈線を施文する。地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と隆帯で文様帯を描出する。	焼町土器
4	深鉢	口縁部	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	口唇部には棒状工具による刻みを施文し、口縁部には横位の平行沈線を施文する。地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と隆帯で文様帯を描出する。	焼町土器
5	深鉢	胴部片	金雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、横位の隆帯を貼付する。	加曾利E1式
6	深鉢	胴部～底部 残存高 20.7 推定底径 9	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、横位の隆帯を貼付する。	加曾利E1式
7	深鉢	口縁部片	長石や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は小波状を呈し、口縁部内面は横位の隆帯を貼付する。口縁部は、隆帯を貼付して文様帯を描出した後、斜位の沈線を施文する。	焼町土器
8	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母・小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	斜位の隆帯と沈線で文様帯を描出する。	焼町土器
9	深鉢	胴部片	石英・雲母・赤色粒子を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	焼町土器
10	深鉢	胴部片	石英・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	斜位の隆帯と沈線で文様帯を構成する。	焼町土器
11	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は小波状を呈し、口縁部内面はやや肥厚する。頂部は環状の隆帯を垂下させる。口縁部は、爪形文と沈線で文様帯を描出する。	勝坂2式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
12	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部はキャリバー状を呈する。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を描出する。	勝坂2式
13	深鉢	口縁部片	金雲母や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は小波状を呈する。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には角押文を施文する。	勝坂2式
14	深鉢	胴部片	長石・小礫・片岩・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	横位に隆帯を貼付した後、沈線と刺突文で文様帯を構成する。	勝坂2式
15	深鉢	口縁部片	石英や金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は横位の隆帯と爪形文で文様帯を区画する。	勝坂2式
16	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	渦巻状の隆帯を貼付した後、横位・縦位の沈線を施文する。隆帯上に綾杉文を施文する。	勝坂3式
17	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には沈線と半截竹管文を施文する。	勝坂3式
18	深鉢	胴部片	金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E1式
19	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	勝坂3式
20	深鉢	胴部片	石英や金雲母を含む砂粒を多量に含む。普通。明褐色。	2条1単位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には波状文を充填する。	
21	浅鉢	口縁部 推定口径40 残存高19.3	雲母や小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は環状突起を持つ隆帯で横位に区画させる。区画内は単沈線を充填する。	
22	深鉢	胴部片	金雲母や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	横位の隆帯を施文した後、隆帯上部に2本単位の角押文を施文する。	
23	浅鉢	口縁部片	細砂粒を多く含む。良好。橙色。	口唇部は平坦で内側に突出する。表面赤彩。	

#### 20区84号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
24	石錐	完形	17	7	3	0.5	黒曜石	
25	石核	完形	115	72	42	431.7	細粒輝石安山岩	
26	打製石斧	完形	(88)	39	12	54.3	細粒輝石安山岩	
27	打製石斧	完形	(32)	(18)	(8)	4.6	細粒輝石安山岩	
28	ストーンリタ ッチャー	完形	107	39	23	129.4	細粒輝石安山岩	
29	磨石	完形	124	69	34	466.3	粗粒輝石安山岩	

#### 20区85号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁部 推定口径33 残存高27.0	細砂粒を少量含む。良好。黄橙色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、口縁部は隆帯、胴部は沈線で文様帯を描出する。	加曾利E3式新
2	深鉢	口縁部片	小礫や赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、環状の隆帯を貼付する。	加曾利E3式新
3	浅鉢	口縁部片	赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は横位の押圧文を施文する。	後期堀之ノ内1式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
4	深鉢	口縁部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黄橙色。	口縁部は波状を呈する。口縁部外面は、隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。頂部内面には横位の勾玉文を施文する。	加曾利E3式新
5	深鉢	口縁部片	長石を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部は波状を呈する。頂部は、隆帯・沈線・刺突で文様帯を描出する。	後期堀之内1式
6	深鉢	胴部	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、横位の隆帯を貼付する。	後期称名寺式
7	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	外面は2本単位の角押文を垂下させる。内面には隆帯を貼付する。	阿玉台II式
8	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黄橙色。	斜位の隆帯を貼付する。	加曾利E3式新
9	深鉢	把手	砂粒を多量に含む。良好。灰褐色。	橋状把手。頂部に舌状突起が付く。刺突文を施文する。	後期堀之内2式
10	深鉢	胴部片	長石・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	斜位の沈線を垂下させる。	後期堀之内1式

#### 20区85号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
11	石鏃	ほぼ完	(15) (13) (4) 0.5	黒曜石	
12	石鏃	60%	(18) (10) (3.5) 0.5	黒曜石	
13	石鏃	60%	(11) (17) 3 0.6	黒曜石	
14	石鏃	完形	25.5 15 4 1.2	黒曜石	
15	石鏃	30%	(13.5) (8.5) 3.5 0.3	珪質変質岩	
16	加工痕	完形	19 19 4 1	黒曜石	
17	打製石斧	40%	(66) 91 23 176.7	細粒輝石安山岩	
18	磨製石斧	破片	(32) (33) (15) 18.3	緑色片岩	
19	磨石	完形	95 84 58 691.3	粗粒輝石安山岩	
20	砥石	破片	(110) (94) 28 464.3	粗粒輝石安山岩	
21	敲石	完形	177 75 44 948.8	粗粒輝石安山岩	
22	砥石	60%	(158) (159) 74 3.250	石英閃緑岩	

#### 20区86号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	小礫や赤色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は沈線で文様帯を区画し、区画内は原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式新
2	深鉢	胴部片	小礫や赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式新
3	深鉢	胴部片	小礫や赤色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	沈線を施文する。	加曾利E3式新
4	深鉢	胴部片	小礫や赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	沈線を垂下させる。内面に炭化物の痕跡が残存する。	加曾利E3式新

#### 20区86号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
5	石鏃未製品	ほぼ完	17.5 15 6 0.9	黒曜石	

20区87号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 口径18.4 残存高12.5	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	無文の口縁部の下位に、渦巻文・流水文・刺突文で文様帯を描出する。	越後系
2	深鉢	口縁部片	雲母・小礫・赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部に渦巻状の円環状突起が付く。	唐草文系
3	深鉢	口縁部片	石英・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	隆帯を交差させた上に瘤状突起を貼付する。横位の沈線と刺突文を施文する。	唐草文系
4	深鉢	突起	長石や小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	口縁部に付く突起で、橋状を呈する。頂部に渦巻状の隆帯を貼付し、隆帯と刺突文で文様帯を描出する。	唐草文系
5	深鉢	胴部～底部 残存高10.0 底径10.0	片岩・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	沈線を垂下させた後、弧状の隆帯を貼付する。	唐草文系
6	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい橙色。	2本1単位の隆帯で文様帯を描出した後、斜位の短沈線を施文する。隆帯間には半截竹管文を施文する。	唐草文系
7	深鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	2条1単位の隆帯を貼付した後、刺突文を施文する。	唐草文系
8	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、環状の突起が付く。頂部から垂下させた隆帯は両端部が橋状把手へと連続する。口縁部は隆帯と刺突文で文様帯を描出する。隆帯には刺突文が施文される。胴部には集合沈線が施文される。	唐草文系
9	深鉢	胴部片	石英・長石・金雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	胴部に橋状把手が付く。把手には隆帯と沈線で加飾が施される。	唐草文系
10	深鉢	口縁部片	細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は波状を呈し、口唇部を積み上げる。口縁部は条線を施文した後、渦巻文を貼付する。口縁部内面は横位の隆帯を貼付して段を付ける。	唐草文系
11	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	斜位の沈線を施文した後、横位の隆帯を貼付する。	唐草文系
12	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	沈線で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線文を施文する。	唐草文系
13	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	肋骨文を施文した後、隆帯と刺突文を施文する。	唐草文系
14	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	肋骨文を垂下させる。	唐草文系
15	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	地文は斜位の短沈線で、口縁部下部に横位の隆帯を貼付する。	唐草文系
16	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄橙色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
17	深鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	2本1単位の隆帯で文様帯を描出した後、斜位の短沈線を施文する。隆帯間には半截竹管文と斜位の短沈線を施文する。	唐草文系
18	深鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	横位の隆帯と沈線を施文した後、隆帯下部に綾杉文と沈線を垂下させる。	唐草文系
19	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含める細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	渦巻文・肋骨文・斜位の隆帯を用いて文様帯を描出する。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
20	深鉢	胴部 残存高 12.2	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。普通。にぶい赤褐色。	蕨手状の隆帯を貼付した後、斜位の短沈線を充填する。	唐草文系
21	深鉢	口縁 推定口径 36 残存高 14.0	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は沈線と隆帯で文様帯を区画し、区画内に斜位の短沈線を充填する。地文は原体 R L の単節斜縄文である。	唐草文系
22	深鉢	口縁 口径 24.0 残存高 7.7	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	上下に横位の隆帯を貼付した後、区画内に楕円の隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には短沈線を施文する。	唐草文系
23	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には短沈線と蕨手文を施文する。	唐草文系
24	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	胴部は弧状の平行沈線を施文した後、端部が蕨手状の隆帯とそれに連続する隆帯を貼付する。	唐草文系
25	深鉢	胴部	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。普通。にぶい赤褐色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には綾杉文を充填する。胴部文様帯は端部が蕨手状の隆帯を垂下させた後、それに連結する 2 本の隆帯で文様帯を区画する。区画内は、綾杉文と平行沈線を交互に垂下させる。	唐草文系
26	深鉢	胴部片	雲母や片岩を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	綾杉文を垂下させた後、隆帯と沈線を施文する。	唐草文系
27	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	瘤状の粘土を貼付し、それに連結する横位の隆帯で文様帯を区画する。区画内は斜位の隆帯と綾杉文を施文する。	唐草文系
28	深鉢	胴部片	砂粒を多量に含む。良好。にぶい赤褐色。	地文は原体 L R の単節斜縄文で、爪形文を施した横位の隆帯を貼付する。	
29	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
30	深鉢	胴部	長石や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体 L R の単節斜縄文を充填する。	越後系
31	深鉢	胴部片	赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	隆帯を貼付した後、沈線を垂下させる。	唐草文系
32	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
33	深鉢	口縁部片	長石や金雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	口縁部に隆帯を貼付した後、横位の沈線を施文する。	唐草文系
34	深鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部内面は横位の隆帯を貼付して肥厚させる。斜位の沈線を施文した後、刺突文を施文する。	唐草文系
35	深鉢	胴部片	石英や長石を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面台形の太い隆帯で文様帯を区画し、区画内には楕円刺突文と円形刺突文を充填する。隆帯上には斜位の刺突文を施文する。	越後系
36	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	2 本 1 単位の隆帯で文様帯を描出した後、斜位の短沈線を施文する。	唐草文系
37	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯を貼付した後、斜位の短沈線を施文する。	唐草文系
38	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	綾杉文を垂下させた後、「H」字状の隆帯を貼付する。	唐草文系



番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
39	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	綾杉文を垂下させる。	唐草文系
40	深鉢	胴部片	長石を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、部分的に刺突文を施文する。	唐草文系
41	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。良好。橙色。	端部が蕨手状の隆帯を貼付した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系
42	深鉢	胴部片	片岩・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	縦位の隆帯と沈線を垂下させた後、綾杉文を垂下させる。	唐草文系
43	深鉢	胴部片	石英・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	斜位の沈線を施文した後、隆帯を貼付する。	唐草文系
44	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母・赤色粒子を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、透しを持つ突起が付く。口縁部文様帯は、刻みを持つ隆帯と沈線を垂下させる。口縁部内面は、屈曲部に横位の隆帯を貼付して突出させる。	焼町土器
45	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	口縁部は沈線で文様帯を描出する。	曾利Ⅰ式
46	深鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部に端部が渦巻状の隆帯を貼付する。	勝坂Ⅲ式
47	深鉢	胴部	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。橙色。	地文は原体LRの単節斜縄文である。胴部は横位の平行沈線を施文した後、平行沈線と蛇行する隆帯・沈線・磨消文を垂下させる。	五領ヶ台Ⅱ式
48	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	蛇行する幅広の隆帯を貼付する。	
49	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	瘤状の粘土を貼付し、それに連結する横位の沈線と隆帯を貼付する。	
50	浅鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口唇部は平坦で、内側に突出する。屈曲部に刻みを施した横位の隆帯を貼付する。	
51	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は小波状を呈する。頂部から隆帯と沈線を垂下させて文様帯を描出する。口縁部内面は隆帯を貼付して文様帯を描出する。	
52	浅鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	口縁部内面は、粘土帯を貼り付けて折り返し口縁を呈する。	
53	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を描出する。	加曾利Ⅰ式
54	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。にぶい赤褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、端部が蕨手状の隆帯を垂下させる。	
55	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黄橙色。	口縁部はやや外反し、地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利Ⅰ式
56	深鉢	口縁部片	長石・片岩・小礫・赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部内外面は肥厚する。低い幅広の隆帯を樽状に貼付した後、隆帯上に交互刺突文を施文する。	勝坂Ⅲ式
57	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線を施文する。	加曾利Ⅱ式
58	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯で文様帯を描出する。	加曾利Ⅰ式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
59	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	横位の隆帯で文様帯を区画し、区画内には横位の沈線と刺突文を施文する。	加曾利E1式
60	深鉢	口縁部片	片岩や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は沈線で文様帯を描出する。	加曾利E1式
61	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、横位の沈線と斜位の沈線を施文する。	加曾利E1式
62	深鉢	胴部片	長石・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線で文様帯を描出する。	加曾利E1式
63	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	横位の隆帯と沈線を施文した後、隆帯下部に原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E1式
64	深鉢	胴部片	長石・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	沈線で文様帯を描出する。	加曾利E1式
65	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	地文は原体Rの燃糸文を縦位に施文した後、横位の隆帯と沈線を施文する。	加曾利E1式
66	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、半円状沈線で文様帯を描出する。	加曾利E1式
67	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の隆帯と渦巻文で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を充填する。	加曾利E2式
68	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	横位の隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E2式
69	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、端部が麁手状の隆帯を貼付する。	加曾利E2式
70	浅鉢	胴部片	石英・長石・金雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、「U」字状の沈線、蛇行する沈線、隆帯を垂下させる。	加曾利E2式
71	深鉢	胴部片	長石や赤色粒子を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、隆帯と沈線を施文する。	加曾利E2式
72	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯と沈線を垂下させる。	加曾利E2式
73	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	無文の下位に、2条1単位の隆帯を貼付する。地文は原体LRの単節斜縄文で、蛇行する隆帯と沈線を垂下させる。	加曾利E2式
74	深鉢	胴部片	赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する隆帯を垂下させる。	加曾利E2式
75	深鉢	胴部片	赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する隆帯を垂下させる。	加曾利E2式
76	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E2式
77	深鉢	口縁部片	雲母・小礫・赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	斜位の短沈線を施文した後、横位の隆帯で区画する。	加曾利E2式
78	深鉢	胴部片	長石を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、端部が麁手状の隆帯を垂下させる。	加曾利E2式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
79	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	隆帯で文様帯を区画し、区画内は綾杉文を充填する。	加曾利E2式
80	深鉢	口縁部片	細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁部はやや肥厚し、内彎する。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を充填する。	加曾利E3式
81	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯を垂下させる。	加曾利E3式
82	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部内面は肥厚する。口縁部は隆帯で文様帯を描出する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
83	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	隆帯で文様帯を区画し、区画内は原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
84	深鉢	胴部片	長石や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
85	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部はやや外反し、横位の隆帯を貼付する。口縁下部は沈線で文様帯を描出する。部分的に原体LRの単節斜縄文を施文する。	加曾利E1式
86	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部はやや外反し、横位の隆帯を貼付する。口縁下部は沈線で文様帯を描出する。	加曾利E1式
87	浅鉢	口縁部片	片岩や小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	無文を呈する。表面赤彩。	
88	浅鉢	口縁部片	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部外面は肥厚する。無文を呈する。表裏赤彩。	
89	浅鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	地文は渦巻文で、交互刺突文を施した突帯と2条1単位の隆帯を貼付して文様帯を区画する。突帯下部には半截竹管による斜位の刺突を施す。	
90	浅鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	横位の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	
91	浅鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部外面に断面三角の隆帯を貼付して肥厚させる。表裏赤彩。	
92	浅鉢	口縁部片	石英や長石を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	口縁部外面に断面三角の隆帯を貼付して肥厚させる。表裏赤彩。	
93	浅鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁部外面に断面三角の隆帯を貼付して肥厚させる。表裏赤彩。	
94	浅鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	胴部の最大径に刻みを施した鋤状突起が付く。	
95	浅鉢	口縁部片	長石を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	刻みを施した隆帯と沈線で文様帯を描出する。	
96	浅鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口唇部は平坦で、内側に肥厚する。表面赤彩。	
97	浅鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部内面は肥厚する。無文である。表裏赤彩。	
98	浅鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	無文を呈する。表裏赤彩。	
99	浅鉢	口縁部	赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	無文を呈する。	

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
100	浅鉢	口縁～胴部 残存高 14.8	細砂粒を少量含む。良好。に ぶい黄橙色。	口縁部外面はやや肥厚する。表面赤彩。裏面に赤色で文様を 描く。	
101	浅鉢	口縁部片	長石・雲母・片岩を含む細砂 粒をやや多く含む。良好。橙 色。	口唇部は平坦で、やや肥厚する。	
102	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。に ぶい橙色。	刺突文を施文する。表面赤彩。	
103	浅鉢	口縁部片	片岩や小礫を含む砂粒を多く 含む。良好。橙色。	口縁部はやや外反する。無文である。	
104	浅鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒を多 く含む。良好。橙色。	口縁部内面は肥厚する。口縁部外面は無文である。表裏赤彩。	
105	浅鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多く含む。 良好。にぶい赤褐色。	横位の隆帯と沈線を施文する。表面赤彩。	
106	浅鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。 橙色。	無文を呈する。表裏赤彩。	
107	浅鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒をや や多く含む。良好。にぶい黄 橙色。	無文を呈する。表裏赤彩。	
108	浅鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多く含 む。良好。橙色。	無文を呈する。	
109	浅鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒をや や多く含む。良好。にぶい黄 橙色。	無文で、内面を丁寧に研磨する。表裏赤彩。	
110	浅鉢	胴部片	片岩や小礫を含む細砂粒をや や多く含む。良好。橙色。	無文を呈する。	
111	深鉢	脚部片	小礫や赤色粒子を含む細砂粒 を少量含む。良好。橙色。	刺突文を施文する。	
112	土製円盤	完形	細砂粒をやや多く含む。良好。 橙色。	地文は原体RLの単節斜縄文である。	
113	浅鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒を多 く含む。良好。橙色。	地文は無文で、部分的に斜位の沈線を施文する。表裏赤彩。	

20区87号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
114	石鏃未製品	70%	(19.5)	(15.5)	5	0.8	黒曜石	
115	石鏃	80%	(17.5)	19.5	5.5	1.9	黒色安山岩	
116	石鏃未製品	70%	23.5	(17.5)	6	1.8	黒曜石	
117	石鏃未製品	70%	15.5	(16)	5	0.9	黒曜石	
118	石鏃	80%	18.5	14.5	4	0.8	黒曜石	
119	石鏃	完形	30	31	4	7.7	黒曜石	
120	加工痕		(21)	21	6	2.3	流紋岩	
121	加工痕		16	20	5	5.7	黒曜石	
122	削器	完形	18	41	10	5.4	黒曜石	
123	削器	完形	20.5	31	9	5.7	黒曜石	
124	削器	完形	(55)	33	6	11.2	黒色頁岩	
125	削器	完形	44	65	10	30.9	細粒輝石安山岩	
126	削器	完形	70	55.5	14	49.8	細粒輝石安山岩	
127	打製石斧	完形	97	47	18	88.6	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
128	打製石斧	70%	(82)	48	17	99.8	細粒輝石安山岩	
129	打製石斧	70%	(77)	46	18	91.7	細粒輝石安山岩	
130	打製石斧	80%	(100)	53	15	107.7	細粒輝石安山岩	

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
131	打製石斧	20%	(45)	48	20	54.6	黒色頁岩	
132	打製石斧	半分	77	42	15	54.8	黒色頁岩	
133	磨製石斧	60%	(82)	49	30	195.4	蛇紋岩	
134	砥石	完形	70	46	20	87.2	粗粒輝石安山岩	
135	砥石	完形	108	79	18	143.2	砂岩	
136	砥石	30%	(65)	62	31	180	粗粒輝石安山岩	
137	台石	完形	139	97	28	560.5	粗粒輝石安山岩	
138	磨石	完形	111	72	58	665	粗粒輝石安山岩	
139	磨石	完形	99	84	47	563.1	粗粒輝石安山岩	
140	磨石	完形	125	71	49	659.7	粗粒輝石安山岩	
141	磨石	完形	108	104	53	900.2	粗粒輝石安山岩	
142	磨石	完形	85	64	40	335.9	粗粒輝石安山岩	
143	磨石	完形	116	80	60	805.6	粗粒輝石安山岩	
144	磨石	完形	121	87	54	881.1	粗粒輝石安山岩	
145	石棒未製品		258	144	139	7.980	粗粒輝石安山岩	

### 20区88号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	口縁部外面は、横位の隆帯と渦巻文で文様帯を描出する。口縁部内面は肥厚する。	加曾利E3式
2	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、斜位の沈線を施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
3	深鉢	胴部片	小礫や片岩を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
4	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黄橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
5	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
6	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい橙色。	「コ」の字状の隆帯を貼付した後、その中に沈線を施文する。	唐草文系
7	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい橙色。	条線を垂下させる。	唐草文系
8	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	押圧文を施した低い隆帯を横位に貼付する。	越後系
9	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	押圧文を施した低い隆帯を横位に貼付する。	越後系
10	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	無文の口縁部の下位に断面三角の隆帯を貼付する。地文は原体Rの無節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E4式
11	深鉢	胴部片	雲母・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E4式
12	深鉢	胴部片	雲母・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	五領ヶ台式
13	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	低い隆帯を斜位に貼付する。	
14	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	刺突文を施した横位の隆帯と沈線で文様帯を区画する。区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	後期堀之内2式

## 20区88号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
15	石鏃未製品	完形	(30)	17	6.5	3.6	黒色安山岩	
16	使用痕		26	21	7	2.7	黒曜石	
17	石棒未製品		223	86	76	2,150	粗粒輝石安山岩	
18	敲石	完形	179	91	65	15,723	粗粒輝石安山岩	
19	磨石	完形	117	72	51	713.6	緑色片岩	

## 20区89号住居石器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁部 推定口径21 残存高10.2	長石や小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。地文は原体LRの単節斜縄文である。	加曾利E1式
2	深鉢	口縁～底部 残存高18.3 底径5.8	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。地文は原体LRの単節斜縄文である。	加曾利E1式
3	鉢	口縁部 推定口径14 残存高3.3	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は内彎し、無文である。	
4	深鉢	底部 底径7.7 残存高8.5	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	無文を呈する。	
5	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁部は波状を呈する。口唇部には沈線を施文する。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には単沈線を施文する。	唐草文系

## 20区89号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
6	石鏃	70%	(14.5)	(16.5)	(3)	0.6	珪質変質岩	
7	石錐	完形	(32)	(15)	7	2.6	黒曜石	

## 20区92号住居石器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	ほぼ完形 口径26.8、残存高35.7、底径6.6	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を充填する。胴部は沈線を垂下させた後、幅広の沈線と蛇行する沈線を垂下させる。	加曾利E3式
2	深鉢	口縁～胴部 口径30.6 残存高17.6	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は内彎し、4単位の突起が付く。口縁部文様帯は刺突文を施した隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部の地文は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線や2条1単位の沈線、磨消文などで文様帯を描出する。	加曾利E3式
3	深鉢	口縁～胴部	石英・長石・雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい黄褐色。	斜位の沈線を施文した後、交差する斜位の隆帯を貼付する。その後、隆帯を貼付して文様帯を描出する。隆帯には部分的に刺突文を施す。胴部は綾杉文を垂下させる。	唐草文系
4	深鉢	口縁～胴部 推定口径21 残存高15.0	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
5	小鉢	胴部～底部 推定口径24	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
6	深鉢	底部 底径8.2	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	無文を呈する。	
7	深鉢	口縁～胴部 推定口径43 残存高20.8	片岩や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部内外面に肥厚し、口縁端部に刺突を施す。口縁下部に横位の沈線を施文する。胴部は刺突を施す。	越後系
8	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部外面に横位の隆帯を貼付して肥厚させる。外面は指頭圧痕を施す。	越後系
9	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
10	深鉢	口縁部片	細砂粒を若干含む。良好。橙色。	口縁部は肥厚する。外面は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
11	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	加曾利E3式
12	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む砂粒を多量に含む。普通。にぶい褐色。	口縁部は内彎する。口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
13	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	横位の隆帯を貼付した後、原体L Rの単節斜縄文を縦位に施文する。その後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
14	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
15	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
16	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
17	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
18	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部内面は、横位の隆帯を貼付して肥厚させる。外面は勾玉状の隆帯を貼付した後、弧状と斜位の沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
19	深鉢	突起	石英や雲母を含む細砂粒を若干含む。良好。褐色。	両面に渦巻文を施した突起。	唐草文系
20	深鉢	口縁部片	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を描出する。	唐草文系
21	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	唐草文系
22	深鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯を貼付した後、沈線と刻みで文様帯を描出する。	唐草文系
23	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、沈線と刺突文で文様帯を描出する。	唐草文系
24	深鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	沈線を垂下させた後、横位の沈線を施文する。	唐草文系
25	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	斜位の沈線を施した隆帯を貼付した後、縦位と横位の沈線を施文する。	唐草文系
26	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	沈線を垂下させる。	唐草文系
27	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	綾杉文を垂下させる。	唐草文系
28	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	蛇行する沈線や弧状の沈線を施文する。	唐草文系
29	深鉢	口縁部片	細砂粒を若干含む。良好。灰白色。	無文を呈する。	唐草文系
30	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	条線を垂下させた後、沈線と磨消文を垂下させる。	唐草文系
31	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	条線を垂下させる。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
32	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は「ハ」の字状に開く。頸部に横位の隆帯を貼付する。	唐草文系
33	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	斜位の沈線を施文する。	唐草文系
34	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。	唐草文系
35	浅鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	弧状の沈線を横位に施文した後、屈曲部に刻みを施す。	唐草文系

### 20区92号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
36	石鏃未製品	60%	(18) (13) 3.5 0.5	黒曜石	
37	石鏃未製品	半分	(19) (9) (3.5) 0.4	黒曜石	
38	加工痕		(21) 11 5 0.9	黒曜石	
39	削器	40%	58 (49) 5 19.4	黒色頁岩	
40	削器	完形	54 72.5 18 79.1	細粒輝石安山岩	
41	打製石斧	半分	(76) 53 16 89.9	細粒輝石安山岩	
42	打製石斧	30%	(62) 56 (20) 80.3	細粒輝石安山岩	
43	打製石斧	80%	(90) (42) (15) 48.5	細粒輝石安山岩	
44	打製石斧	完形	90 46 17 93	細粒輝石安山岩	
45	磨石	完形	70 64 44 235.6	粗粒輝石安山岩	
46	磨石	60%	(84) 62 35 312.2	粗粒輝石安山岩	
47	磨石	完形	165 77 46 886.3	粗粒輝石安山岩	

### 20区93号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈し、耳状突起が付く。胴部は幅広の渦巻文を施文する。	加曾利E3式
2	深鉢	口縁部片	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、耳状突起が付く。胴部は幅広の隆帯を垂下させる。	加曾利E3式
3	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は波状を呈する。原体LRの単節斜縄文を施文した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。	加曾利E3式
4	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯と刺突文、沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	唐草文系
5	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、斜位の沈線を施文する。	唐草文系
6	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	橋状突起。隆帯と沈線で加飾する。	唐草文系
7	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
8	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
9	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は小波状を呈し、やや内彎する。地文は原体LRの単節斜縄文で、低い隆帯で文様帯を区画する。	加曾利E3式
10	深鉢	胴部片	長石を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
11	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、低い隆帯を垂下させる。	加曾利E3式
12	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む砂粒を少量含む。普通。橙色。	口縁部は波状を呈し、口縁下部に刻みを施した横位の隆帯を貼付する。	加曾利E3式



番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
13	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	刺突を施した耳状突起に連続する隆帯貼付して文様帯を区画する。区画内には横位の沈線を施文する。隆帯上には隆帯と沈線で加飾を施す。胴部は横位の沈線を施文する。	焼町土器
14	深鉢	胴部片	石英・赤色粒子・小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、幅広の沈線と磨消文で文様帯を描出する。	
15	深鉢	口縁部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁部は波状を呈し、環状突起が付く。原体L Rの単節斜縄文を施文した後、沈線で区画をする。	後期称名寺1式
16	鉢形土器	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部はやや外反し、無文を呈する。	加曾利E3式
17	深鉢	口縁部片	石英・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	橋状把手。隆帯で加飾する。	加曾利E3式
18	小形土器	胴部 残存高 4.6 底径 4.0	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。表裏赤彩。	加曾利E3式
19	台付土器	台部片	石英・赤色粒子・小礫を含む細砂粒多く含む。良好。橙色。	底部に粘土帯を貼付して台部を成形する。	

#### 20区93号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
20	打製石斧	40%	(67) 48 17 76.9	細粒輝石安山岩	
21	多孔石	完形	247 133 113 4,300	粗粒輝石安山岩	
22	磨石	完形	119 74 45 594	粗粒輝石安山岩	
23	砥石	欠損	(272) 134 (50) 2,900	粗粒輝石安山岩	

#### 20区94号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁部 推定口径 48 残存高 22.2	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、「□」字状の沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
2	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	原体L Rの単節斜縄文を施文する。	加曾利E3式
3	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
4	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
5	深鉢	口縁部 推定口径 27.8 残存高 13.4	細砂粒を多量に含む。普通。橙色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、幅広の沈線と磨消文で文様帯を描出する。	加曾利E3式
6	深鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
7	深鉢	胴部片	細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
8	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
9	深鉢	口縁～胴部	小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	加曾利E3式
10	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	肋骨文を垂下させる。	加曾利E3式
11	深鉢	口縁～胴部	小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
12	深鉢	口縁部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は小波状を呈し、隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E 3式
13	深鉢	口縁部片	長石・雲母・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E 3式
14	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E 3式
15	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E 3式
16	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E 3式
17	鉢形土器	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部はやや外反し、無文を呈する。	加曾利E 3式
18	深鉢	底部 底径 9.0 残存高 13.5	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	沈線を垂下させる。	加曾利E 3式
19	深鉢	口縁部片	石英・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は内彎し、条線を垂下させる。	加曾利E 3式
20	深鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	条線を垂下させる。	加曾利E 3式
21	土製円盤	完形	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	浅い沈線を施文する。	加曾利E 3式
22	深鉢	胴部片	石英・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	条線を垂下させる。	加曾利E 3式

#### 20区 94号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
23	石錐未製品	30%	(15.5) 9 6 0.7	黒曜石	
24	加工痕		(15) 16 3.5 1.3	黒曜石	
25	削器	完形	73 49 15 46.4	細粒輝石安山岩	
26	打製石斧	20%	(50) 44 27 61	細粒輝石安山岩	
27	磨石	完形	147 67 42 638.7	粗粒輝石安山岩	
28	磨石	完形	135 57 29 299.3	粗粒輝石安山岩	
29	砥石	40%	(112) (50) (38) 276.5	細粒輝石安山岩	
30	多孔石	完形	209 233 99 6.400	粗粒輝石安山岩	

#### 20区 96号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 推定口径 20 残存高 14.7	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体L Rの単節斜縄文を充填する。胴部は原体L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線・蛇行する沈線・磨消文を垂下させる。	加曾利E 3式 炉体土器
2	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	刺突文を施した横位の隆帯を貼付した後、口縁下部に横位の刺突文を施す。	唐草文系
3	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。浅黄色。	円環状の隆帯を貼付して文様帯を描出する。	唐草文系
4	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部は舌状の突起が付く。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体L Rの単節斜縄文を充填する。	加曾利E 3式
5	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
6	深鉢	口縁～胴部 推定口径 25 残存高 24.8	小礫を含む細砂粒を少量含む。 良好。赤褐色。	胴部は端部が蕨手状の隆帯を横位に貼付した後、それに連結する3本の隆帯を垂下させて文様帯を区画する。区画内には部分的に原体RLの単節斜縄文を施文する。	唐草文系
7	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。浅黄褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。	加曾利E3式
8	深鉢	口縁～胴部 推定口径 41 残存高 24.4	石英・長石・雲母を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部はやや肥厚する。地文は原体RLの単節斜縄文で、口縁部は隆帯・沈線・刺突文で文様帯を描出する。胴部は沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
9	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には綾杉文を施文する。胴部には沈線を垂下させる。	加曾利E3式
10	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は舌状突起が付く。口縁部は刺突文と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は「∩」字状の沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
11	深鉢	口縁部片	石英・長石・雲母・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	加曾利E3式
12	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。	曾利IV式
13	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
14	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
15	深鉢	胴部～底部 推定底径 7.8	礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を施文する。	加曾利E3式
16	深鉢	口縁部片 推定口径 22 残存高 10.0	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁下部に横位の沈線を施文する。	加曾利E3式
17	深鉢	口縁部片 推定口径 13	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	条線を垂下させる。	
18	深鉢	口縁部片 推定口径 11	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	条線を垂下させる。	
19	深鉢	口縁～胴部 残存高 20.8	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。	唐草文系
20	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は円形透しを持つ舌状の突起が付く。	唐草文系
21	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯で文様帯を区画し、区画内には斜位の短沈線を施文する。	唐草文系
22	深鉢	突起	石英や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	環状突起で、両面に蕨手状の隆帯を貼付する。口縁部は刺突文を施す。	唐草文系
23	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は舌状の突起が付く。頂部から端部が蕨手状の隆帯を垂下させた後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系
24	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	端部が蕨手状の隆帯を垂下させた後、綾杉文を垂下させる。	唐草文系
25	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	渦巻状の隆帯を貼付する。	

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
26	深鉢	胴部片	長石・片岩・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	横位の隆帯を貼付した後、沈線を垂下させる。	
27	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	隆帯を貼付して文様帯を描出する。	
28	深鉢	口縁部片	片岩や小礫を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部は内面に蕨手状の隆帯を貼付した舌状の突起が付く。口縁部は隆帯と刺突文で文様帯を描出する。	勝坂2式
29	深鉢	突起	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	平口縁で複数の円環状隆帯で構成された鶏冠状突起が付く。口縁部内面には横位の隆帯を貼付する。突起は沈線と隆帯で加飾される。	焼町土器
30	深鉢	胴部片	石英・雲母・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	縦位の沈線を施文した後、横位の沈線を施文する。	
31	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯を施文する。	
32	浅鉢	口縁部片	石英・長石・雲母・赤色粒子を含む細砂粒を多く含む。良好。黄褐色。	口縁部外面は肥厚し、内面は横位の隆帯を貼付して段を作る。	
33	鉢形土器	口縁部 推定口径 44 残存高 19.0	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。浅黄褐色。	口縁部は外反する。胴部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には条線を充填する。	加曾利E3式
34	浅鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部は端部が蕨手状の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
35	浅鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒を少量多く含む。良好。橙色。	横位の橋状把手が付く。	
36	鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	
37	台付鉢	口縁部片	赤色粒子を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁下部に低い横位の隆帯を貼付する。表裏赤彩。	
38	台付鉢	脚部	小礫を含む細砂粒を若干含む。良好。橙色。	無文を呈する。表裏赤彩。	
39	鉢	口縁部片	細砂粒を多量に含む。良好。暗褐色。	口縁部には隆帯を貼付した舌状突起が付く。口縁部は外反し、口縁部内面は肥厚する。	
40	土製円盤	完形	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	無文を呈する。	
41	土製円盤	完形	長石・片岩・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	条線を垂下させる。	
42	深鉢	口縁部片	石英・長石・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	無文を呈する。	後期堀之内2式
43	台形土器	口縁～底部 推定口径 12 残存高 10.8 推定底径 24	小礫や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	胴部には楕円形の透しを穿ち、それに沿って沈線を施文する。	
44	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部外面に「八」の字状の貼付痕が残る。外面は沈線で文様を描出する。	後期堀之内2式

20区96号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
45	石鏃	80%	(17.5)	18	3	0.8	黒曜石	
46	石鏃未製品	ほぼ完	22	16	8	2.7	黒曜石	
47	石鏃未製品	30%	(11)	12.5	(2.5)	0.3	黒曜石	
48	石鏃未製品	70%	(22)	11	4	0.8	黒曜石	
49	石鏃未製品	ほぼ完	(22)	(16)	5	1.5	黒色安山岩	
50	石鏃未製品	ほぼ完	19	13.5	3	0.7	黒曜石	
51	石鏃未製品	完形	25	18.5	4.5	1.9	黒色安山岩	
52	加工痕		13	28	4	1.5	黒曜石	
53	加工痕		(21)	(12)	3	0.7	黒曜石	
54	使用痕		(24)	11	4	1	黒曜石	
55	使用痕		23	17	3	1.6	黒曜石	
56	削器	完形	78	59	21	88.2	細粒輝石安山岩	
57	石核	完形	80	88	33	217.8	石英閃緑岩	
58	打製石斧	40%	(50)	30	(16)	29.7	黒色頁岩	
59	打製石斧	30%	(47)	53	20	62.8	細粒輝石安山岩	
60	打製石斧	30%	(51)	53	23	82.5	細粒輝石安山岩	
61	磨製石斧	破片	(31)	(25)	(5)	6.1	緑色片岩	
62	磨製石斧	破片	(48)	(28)	(28)	58.6	蛇紋岩	
63	磨製石斧	30%	(74)	(62)	20	130.5	蛇紋岩	
64	磨石	ほぼ完	136	51	42	453.6	石英閃緑岩	
65	磨石	完形	93	76	47	474.5	石英閃緑岩	
66	磨石	完形	112	86	46	686.7	粗粒輝石安山岩	
67	磨石	完形	120	97	37	696.3	粗粒輝石安山岩	
68	磨石	70%	(100)	80	29	253.4	粗粒輝石安山岩	
69	磨石	完形	116	88	44	645.7	粗粒輝石安山岩	
70	砥石	60%	(83)	(71)	49	420	粗粒輝石安山岩	
71	砥石	完形	215	158	70	2,700	凝灰岩	

20区97号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 推定口径16 残存高17.8 推定底径7	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、2対の舌状突起が付く。口縁部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。胴部は、「∩」字状の沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E4式
2	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈し、口縁下部に横位の沈線を施文する。地文原体LRの単節斜縄文で、沈線を垂下させる。	加曾利E3式
3	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈する。地文原体LRの単節斜縄文で、半円状の沈線を施文する。	加曾利E3式
4	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部に小突起が付く。口縁部には渦巻状の沈線を施文する。	唐草文系
5	深鉢	口縁部片	長石を含む砂粒を多量に含む。良好。明赤褐色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	唐草文系
6	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を施文する。	加曾利E3式
7	深鉢	胴部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	「∩」字状の浅い沈線を施文する。	加曾利E4式
8	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい橙色。	口縁部は波状を呈する。地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を施文する。	加曾利E4式 9と同一個体
9	深鉢	胴部片	長石・雲母・赤色粒子を含む細砂粒を多量に含む。良好。にぶい橙色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を施文する。	加曾利E4式 8と同一個体
10	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。橙色。	沈線を垂下させた後、横位の沈線を施文する。	

20区97号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
11	打製石斧	完形	(97)	65	24	164.5	細粒輝石安山岩	
12	敲石	80%	110	53	33	345.5	緑色片岩	
13	磨石	完形	140	90	62	1,183.7	粗粒輝石安山岩	
14	石核	完形	212	154	76	2,000	石英閃緑岩	
15	丸石	完形	171	214	160.5	8,800	粗粒輝石安山岩	

20区101号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 口径31.6 残存高23.8	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	隆帯で文様帯を区画し、区画内は原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式新
2	深鉢	胴部～底部 残存高31.3 底径10.0	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	無文を呈する。	後期?
3	深鉢	口縁～胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。不良。橙色。	隆帯で文様帯を区画し、区画内は原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式新

20区101号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
4	石鏃未製品	ほぼ完	14.5	13	3.5	0.5	黒曜石	
5	敲石	完形	146	55	21	341.3	緑色片岩	

20区102号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は舌状突起を貼付する。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
2	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は舌状突起を貼付する。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
3	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を若干含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
4	浅鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は舌状突起を貼付する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、横位の沈線を施文する。口縁無文部と内面は赤色塗彩を施す。	
5	深鉢	口縁部片	石英や赤色粒子を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部は透しを持つ舌状突起が付く。口縁部は隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
6	深鉢	胴部片	砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	横位の隆帯を貼付した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系
7	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。黒褐色。	綾杉文を垂下させた後、沈線を垂下させる。	唐草文系
8	深鉢	胴部片	長石を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	唐草文系
9	深鉢	胴部	小礫や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	胴部は刺突を施した後、刺突を施した隆帯を垂下させる。	越後系
10	深鉢	胴部片	小礫や片岩を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	沈線で文様帯を描出する。表面赤彩。	
11	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。明黄褐色。	口縁部内面はやや肥厚する。口縁下部に横位の隆帯を貼付した後、隆帯上に押圧文を施文する。	北信系
12	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	斜位の沈線を施文した後、隆帯を垂下させる。	唐草文系
13	深鉢	胴部～底部 残存高4.3 底径5.4	赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。浅黄褐色。	沈線を垂下させる。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
14	深鉢	胴部～底部 残存高 11.5 底径 7.4	石英・長石・片岩を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	沈線と蛇行する沈線を交互に垂下させる。	唐草文系
15	深鉢	口縁部 推定口径 27 残存高 35.2	小礫や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁下部に横位の隆帯を貼付した後、隆帯上に押圧文を施文する。	北信系
16	深鉢	口縁部片	礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文する。	
17	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	原体 L R の単節斜縄文を縦位に施文する。	
18	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	渦巻状の隆帯と沈線で文様帯を描出する。	焼町土器
19	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	沈線で文様帯を描出する。	焼町土器
20	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	無文を呈する。	
21	鉢形土器	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁部は外反し、胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体 L R の単節斜縄文を充填する。	
22	深鉢	口縁部片	片岩・礫・赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部内側に横位の隆帯を貼付して肥厚させる。裏面赤彩。	

#### 20区 102号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備考
23	加工痕		27	32	7	7.6	黒曜石	
24	削器	?	76	54	19.5	75.2	細粒輝石安山岩	
25	打製石斧	半分	(63)	50	15	68.3	細粒輝石安山岩	
26	打製石斧	20%	(54)	60	24	82.6	細粒輝石安山岩	
27	打製石斧	70%	(113)	51	23	179.1	紫蘇輝石普通輝石安山岩	
28	磨製石斧	ほぼ完	47	19	7	11.3	珪質変質岩	
29	磨石	完形	106	72	38	470	粗粒輝石安山岩	
30	磨石	完形	137	89	45	760.3	粗粒輝石安山岩	
31	磨石	完形	100	58	38	283.9	粗粒輝石安山岩	
32	磨石	完形	121	100	60	1,071	粗粒輝石安山岩	
33	石皿	30%	(164)	(130)	91	1,891.4	粗粒輝石安山岩	
34	多孔石	60%	(144)	(162)	(81)	2,850	粗粒輝石安山岩	

#### 10区 103号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁部 推定口径 16	細砂粒をやや多く含む。良好。浅黄褐色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体 L R の単節斜縄文を充填する。胴部は原体 L R の単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯と沈線で文様帯を描出する。	加曾利 E 3 式
2	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈し、隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には原体 R L の単節斜縄文を充填する。	加曾利 E 3 式
3	深鉢	胴部片	長石や赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。浅黄褐色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
4	浅鉢	口縁～胴部 推定口径 18 残存高 10.4	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	後期堀之内 1 式
5	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
6	深鉢	口縁部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は舌状突起が付き、隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には原体 R L の単節斜縄文を充填する。胴部は原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
7	深鉢	口縁～底部 推定口径 25 残存高 43.0 推定底径 9	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、4 単位の短い舌状突起が付く。口縁部は端部が蕨手状の隆帯を横位に貼付する。胴部は「∩」字状の沈線と斜位の短沈線を施文する。	唐草文系
8	深鉢	胴部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
9	深鉢	胴部片	長石・雲母・小礫を含む砂粒を多く含む。良好。浅黄橙色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
10	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
11	深鉢	口縁～胴部	雲母や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。浅黄橙色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
12	深鉢	胴部片	石英・長石・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
13	鉢形土器	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。明黄褐色。	口縁に橋状把手が付く。口縁部文様帯は隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には原体 R L の単節斜縄文を充填する。	加曾利 E 3 式
14	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	無文を呈する。	
15	深鉢	胴部～底部 残存高 15.5 底径 10.0	小礫や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	無文を呈する。	加曾利 E 3 式

20 区 103 号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考			
16	石鏃	完形	21	13	3	0.6	黒曜石	
17	石鏃	完形	28	15	6	2.1	黒曜石	
18	石鏃	60%	(20)	6	2	0.4	黒曜石	
19	石鏃	80%	(67)	27	8	10.7	細粒輝石安山岩	
20	石皿	60%	(222)	284	128	9.9	粗粒輝石安山岩	

20 区 104 号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 口径 17.0 残存高 15.0	石英や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部内面は肥厚する。地文は原体 L R の単節斜縄文を縦位に施文した後、渦巻文を持つ 2 条の隆帯と 1 条の隆帯を交互に垂下させて文様帯を区画する。	唐草文系
2	深鉢	口縁～胴部 口径 27.0 残存高 23.5	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈し、隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には原体 L R の単節斜縄文を充填する。胴部は原体 L R の単節斜縄文を縦位に施文する。	唐草文系
3	深鉢	胴部 残存高 8.8	石英・長石・雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜沈線を施文する。	唐草文系
4	深鉢	口縁～胴部 口径 21.0 残存高 15.0	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部内面は肥厚する。横位の隆帯を貼付した後、瘤状突起を持つ 2 条の隆帯を垂下させる。その後、条線を垂下させる。	唐草文系
5	深鉢	口縁～胴部 推定口径 35 残存高 13.8	石英や雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は外反し、無文を呈する。胴部は横位の隆帯を貼付した後、隆帯と沈線で文様帯を区画する。その後、横位の隆帯に刺突文を施した後、区画内に波状線を横位に施文する。	唐草文系
6	深鉢	口縁～胴部 推定口径 24 残存高 13.3	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には短沈線を充填する。胴部は綾杉文を施文した後、蛇行する隆帯を垂下させる。	唐草文系
7	深鉢	胴部 残存高 14.2	石英を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。	唐草文系



番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
8	深鉢	口縁～胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁下部に横位の隆帯を貼付した後、渦巻文を持つ2条の隆帯と1条の隆帯を交互に垂下させて文様帯を区画する。区画内には綾杉文を垂下させる。	唐草文系
9	深鉢	口縁部片	石英や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口縁部は、押圧文を施した「L」字状の隆帯を貼付する。	北信系
10	深鉢	口縁部片	石英・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	条線を施文した後、縦位の隆帯を貼付する。口縁部は横位の隆帯を貼付して肥厚させる。	越後系
11	深鉢	口縁部片	小礫や赤色粒子を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部は渦巻状の隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
12	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口唇部は面を持つ。口縁部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。胴部は横位の沈線で文様帯を区画した後、区画内には斜沈線を施文する。	唐草文系
13	深鉢	口縁～胴部 推定口径 24 残存高 29.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部に舌状突起が付く。「S」字文と蛇行する隆帯を垂下させた後、綾杉文を垂下させる。	唐草文系
14	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画する。区画内には斜沈線を施文する。胴部は沈線を垂下させる。	唐草文系
15	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒を多量に含む。良好。暗赤褐色。	地文は斜位の沈線で、隆帯を貼付して文様帯を描出する。	唐草文系
16	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を多量に含む。良好。褐色。	口縁部は波状を呈し、小舌状突起が付く。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜沈線を施文する。	唐草文系
17	深鉢	口縁部片	石英や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	剣先状の突起。内外面ともに隆帯と沈線で加飾される。	唐草文系
18	深鉢	胴部片	石英・雲母・小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を垂下させた後、綾杉文を垂下させる。	唐草文系
19	深鉢	口縁突起	長石・小礫・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	嘴状突起。内面に粘土を貼付して一部開放の袋状のテラスを付ける。	唐草文系
20	深鉢	胴部片	石英や長石を含む細砂粒を多量に含む。良好。褐色。	3条の隆帯を横位に貼付した後、ペン先状工具による刺突文を施す。地文は条線を垂下させる。	唐草文系
21	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を描出する。地文は横位の沈線で、2条の隆帯を垂下させる。	唐草文系
22	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	横位の隆帯を貼付した後、渦巻文を持つ3条の隆帯を垂下させる。地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に垂下させる。	唐草文系
23	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	渦巻文を持つ3条の隆帯を垂下させた後、それに連結する刺突文を施した横位の隆帯を貼付する。胴部は斜位の沈線を施文する。	唐草文系
24	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には斜位の沈線を施文する。胴部は横位の沈線を施文する。	加曾利E2式
25	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁下部に横位の隆帯を貼付する。	加曾利E1式
26	深鉢	口縁部片	石英や長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	口唇部は面を持ち、屈曲する。口縁部は沈線で文様帯を描出する。	加曾利E1式
27	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口唇部は平坦を呈する。口縁部は横位の蛇行する隆帯を貼付する。	

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
28	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を描出する。	加曾利E1式
29	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	3条の隆帯を横位に貼付した後、連結する3条の隆帯による腕骨文を垂下させる。隆帯の交点には渦巻状の隆帯を貼付する橋状把手が付くと思われる。地文は斜沈線と刺突文を施す。	唐草文系
30	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	斜位の隆帯を貼付した後、横位の沈線と刺突文を施す。	唐草文系
31	深鉢	胴部片	石英や雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	2条の隆帯を用いた腕骨文を垂下させた後、綾杉文を垂下させる。	唐草文系
32	深鉢	口縁部片	石英や雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁部は沈線と隆帯で文様帯を区画し、区画内には棒状工具による刺突文を施文する。	唐草文系
33	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は沈線と隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様帯を描出する。	加曾利E3式
34	深鉢	口縁部 推定口径 19 残存高 10.0	小礫や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
35	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。褐色。	渦巻状の隆帯を貼付した後、斜位の短沈線を施文する。	唐草文系
36	深鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	横位の隆帯を貼付した後、蛇行する隆帯を垂下させる。地文は斜沈線を施文する。	唐草文系
37	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯・沈線・磨消文で文様帯を描出する。	唐草文系
38	深鉢	底部 残存高 5.8 底径 7.6	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	部分的に斜位の沈線を垂下させる。	唐草文系
39	深鉢	底部 残存高 5.4 底径 7.0	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	2条1組の隆帯と蛇行する隆帯、沈線を垂下させる。	唐草文系
40	深鉢	底部 残存高 5.5 底径 6.8	石英や長石を含む砂粒を多く含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して文様帯を描出する。	唐草文系
41	有孔罎付土器	口縁部片 推定口径 18	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明黄褐色。	頸部に穿孔を施した罎が付く。胴部は弧状の沈線を施文する。表裏赤彩。	唐草文系
42	鉢形土器	胴部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E3式
43	浅鉢	口縁部片 推定口径 37	細砂粒を多く含む。良好。浅黄橙色。	無文を呈する。表裏赤彩。	
44	浅鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部内面は肥厚し、外面は丁寧な磨きを施す。表裏赤彩。	
45	鉢形土器	胴部片 残存高 16.9	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。浅黄褐色。	蕨手文を持つ隆帯を横位に貼付して文様帯を区画し、区画内には部分的に刺突文を施文する。胴部は条線を垂下させる。	加曾利E3式
46	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部内面は肥厚する。	
47	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は外反する。	

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
48	浅鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	屈曲部に横位の隆帯を貼付する。	
49	深鉢	底部 残存高 7.4 底径 10.0	小礫や赤色粒子を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	無文を呈する。	
50	浅鉢	胴部片 残存高 13.3	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	無文を呈する。表裏赤彩。	
51	深鉢	口縁部 残存高 23.0	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈し、複数の透しの開く橋状把手が付く。地文は原体 R L の単節斜縄文で、橋状把手から連続する隆帯と沈線で文様帯を描出する。その後、文様帯内に部分的に磨消文を施す。	大木系
52	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈し、複数の透しの開く橋状把手が付く。匙状の隆帯を貼付する。部分的に原体 R L の単節斜縄文を充填する。	大木系

### 20 区 104 号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
53	丸石	完形	156	127	117	3.500	安山岩	
54	丸石	完形	146	122	122	3.000	安山岩	
55	石鏃	完形	(27)	14	3	0.8	黒曜石	
56	石鏃	完形	26	19	2.5	0.7	珪質変成岩	
57	石鏃	完形	20	15.5	3	0.6	黒曜石	
58	石鏃未製品	60%	(14)	(15)	3	0.4	黒曜石	
59	石鏃未製品	ほぼ完	(16)	(14)	3.5	0.6	黒曜石	
60	石鏃未製品	ほぼ完	(26)	(19)	6	2.6	黒曜石	
61	石鏃未製品	ほぼ完	19	20	5.5	1.7	黒曜石	
62	石錐	ほぼ完	(29)	8.5	6	1.3	黒曜石	
63	加工痕		32	18	6	1.9	黒曜石	
64	加工痕		77	56	20	68.3	細粒輝石安山岩	
65	使用痕		28	25	5	2.5	黒曜石	
66	削器	完形	72	52	14.5	37.5	黒色安山岩	
67	打製石斧	半分	(88)	62	28	202.3	細粒輝石安山岩	
68	打製石斧	80%	100	48	15	83.2	細粒輝石安山岩	
69	打製石斧	完形	117	54	18	128.2	細粒輝石安山岩	
70	打製石斧	70%	(103)	52	26	121.2	珪質変質岩	
71	磨石	完形	101	65	50	441.7	細粒輝石安山岩	

### 20 区 105 号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部 推定口径 24 残存高 20.4	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈する。端部が蕨手状の隆帯と「∩」字状の隆帯を交互に垂下させた後、2条1単位の横位の沈線で文様帯を区画する。区画内は、短沈線を充填する。	唐草文系
2	深鉢	口縁～胴部 推定口径 20 残存高 12.5	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体 R L の単節斜縄文を充填する。胴部は、原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線・沈線・磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式

### 20 区 107 号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	沈線で文様帯を区画した後、区画内に原体 R L の単節斜縄文を充填する。その後、端部が蕨手状の沈線を垂下させる。	加曾利 E 3 式
2	深鉢	口縁～胴部 推定口径 16 残存高 12.3	小礫や赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	剥離しているが、口縁部に4単位の舌状突起が付く。口縁部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体 R L の単節斜縄文を充填する。胴部は原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
3	深鉢	口縁～胴部 推定口径 33 残存高 24.5	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁部に4単位の舌状突起が付くと思われる。口縁部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
4	深鉢	口縁～胴下部 推定口径 18 残存高 23.4 推定底径 7	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部に耳状突起が付く。口縁部から胴部は沈線で文様帯を区画し、区画内に原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式新
5	深鉢	口縁～胴部 推定口径 30 残存高 20.8	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は舌状突起が付く。口縁は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式新
6	深鉢	口縁～胴部	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は沈線と刺突文で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は、原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	
7	深鉢	口縁部片	砂粒を若干含む。良好。浅黄橙色。	隆帯を貼付して文様帯を描出する。	唐草文系
8	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式新
9	深鉢	底部 残存高 4.7 底径 4.6	長石や雲母を含む砂粒を多量に含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	
10	深鉢	胴部～底部 残存高 9.5 推定底径 7	赤色粒子を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式新
11	深鉢	底部 残存高 9.0 底径 6.0	長石・小礫・赤色粒子を含む砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式新
12	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。浅黄橙色。	口縁部は舌状突起が付く。口縁部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。胴部は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式新
13	深鉢	口縁～胴部	細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	肋骨文と沈線を垂下させる。	唐草文系
14	深鉢	胴部片	小礫や礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	沈線で文様帯を区画した後、区画内に原体RLの単節斜縄文を充填する。その後、区画内に端部が鍵状の沈線を垂下させる。	加曾利E3式新
15	深鉢	胴部片	小礫や赤色粒子を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	肋骨文を垂下させた後、沈線を垂下させる。	唐草文系
16	深鉢	胴部片	石英・長石・赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。明黄橙色。	隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内に原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
17	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体RLの単節斜縄文を施文した後、沈線と磨消文を施文する。	加曾利E3式
18	深鉢	口縁部片	小礫や片岩を含む砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は波状を呈する。口縁部は隆帯で文様帯を区画する。	加曾利E3式新
19	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈する。口縁部は隆帯で文様帯を区画する。	加曾利E3式新
20	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多量に含む。良好。にぶい黄橙色。	隆帯で文様帯を描出する。	唐草文系
21	浅鉢	口縁～胴部 推定口径 20	石英・長石・雲母・赤色粒子を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	無文の口縁部下に、隆帯と沈線で文様帯を描出する。	加曾利E3式新

## 20区107号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
22	石鏃未製品	完形	18	12.5	3	0.4	黒曜石	
23	石鏃未製品	完形	15.5	12	3	0.5	黒曜石	
24	石鏃未製品	ほぼ完	19	16	6	1.8	黒曜石	
25	加工痕	完形	24	23	6	1.7	黒曜石	
26	加工痕	完形	37	15	5	1.2	黒曜石	
27	打製石斧	20%	(60)	(50)	(24)	43.5	細粒輝石安山岩	
28	打製石斧	完形	150	52	28	239.3	黒色安山岩	
29	削器	70%	(122.5)	(48.5)	(17)	83.7	細粒輝石安山岩	
30	敲石	完形	95	62	37	444.7	緑色片岩	磨製石斧転用
31	砥石	完形	298	195	157	13,700	石英閃緑岩	

## 20区111号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	沈線で文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
2	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
3	深鉢	胴部～底部 残存高11.0 底径5.2	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	無文を呈する。	
4	深鉢	ほぼ完形 推定口径28 残存高42.9、底径11.4	石英や小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	地文は条線で、胴部上半部の半分に原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
5	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
6	深鉢	底部 底径6.4	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	条線を垂下させる。	
7	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	横位の隆帯を貼付した後、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E4式
8	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
9	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	斜位の沈線を施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	曾利IV式
10	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は肥厚する。地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線で文様帯を区画する。	加曾利E3式
11	深鉢	胴部～底部 底径11.2	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	条線を垂下させる。	
12	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	斜位の沈線を施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	曾利V式
13	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。浅黄橙色。	沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	唐草文系
14	両耳壺	胴部	小礫や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黄橙色。	無文の口縁下部に沈線と隆帯で文様帯を描出する。	
15	両耳壺	把手	小礫や赤色粒子を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	沈線と隆帯で加飾された橋状把手。	

## 20区111号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
16	石鏃	ほぼ完	19	13	3	0.5	黒曜石	
17	石鏃	ほぼ完	23	14	3	0.6	黒曜石	
18	石鏃未製品	ほぼ完	28	14.5	4	1.4	黒曜石	
19	石鏃未製品	ほぼ完	16	15	4	1	黒曜石	
20	石鏃未製品	ほぼ完	24	18.5	6	1.8	黒曜石	
21	ピエス	完形	18	13	7	1.9	黒曜石	
22	使用痕	完形	(31)	25	12	8.7	黒曜石	
23	石核	?	26	17	12	5.2	黒曜石	

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
24	石核	?	48	37	27	36	黒曜石	
25	打製石斧	20%	(50)	49	(17)	46.6	細粒輝石安山岩	
26	敲石	完形	123	53	28	318.6	緑色片岩	
27	敲石	完形	120	58	33	398	緑色片岩	磨製石斧転用
28	敲石	完形	106	51	33	333.1	緑色片岩	磨製石斧転用
29	敲石	完形	113	51	38	347.3	粗粒輝石安山岩	
30	磨石	完形	107	89	63	912.9	粗粒輝石安山岩	
31	磨石	完形	123	110	66	1,398.3	粗粒輝石安山岩	
32	石棒	破片	(76)	99	91	914.3	デイサイト	
33	石棒	破片	(89)	105	95	1,315.4	デイサイト	
34	石棒	破片	(71)	104	106	1,039.6	デイサイト	
35	石棒	破片	(82)	106	100	1,218.7	デイサイト	
36	石棒	破片	(82)	115	114	1,428.5	デイサイト	
37	石棒	破片	(93)	122	118	2,000	デイサイト	
38	多孔石	20%	(159)	136	104	2,120	粗粒輝石安山岩	
39	多孔石	完形	262	250	136	8,300	粗粒輝石安山岩	

20区112号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。に ぶい橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体LRの単節 斜縄文を充填する。区画内に渦巻状の隆帯と沈線を施文する。	加曾利E4式
2	深鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒をや や多く含む。良好。赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様帯を 描出する。	加曾利E4式
3	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。 橙色。	口縁部は沈線で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節 斜縄文を充填する。	加曾利E3式
4	深鉢	口縁部片	石英や雲母を含む細砂粒をや や多く含む。良好。褐色。	無文の口縁部下に押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、 条線を垂下させる。	唐草文系
5	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。 赤褐色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を 垂下させる。	加曾利E3式
6	深鉢	胴部片	長石を含む細砂粒を少量含む。 良好。橙色。	刺突文を施す。	
7	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く 含む。良好。橙色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線・ 沈線・磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
8	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。に ぶい褐色。	原体Lの無節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様帯を区 画する。表面赤彩。	加曾利E3式
9	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く 含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨消文を垂下さ せる。	加曾利E3式
10	深鉢	胴部～底部	小礫を含む細砂粒を少量含む。 良好。にぶい黄橙色。	無文の口縁部下に横位の隆帯を貼付する。地文は原体RLの 単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E4式
11	深鉢	口縁部片 推定口径40 残存高8.3	細砂粒を少量含む。良好。暗 褐色。	口縁部は肥厚する。内外面に丁寧な磨きを施す。表裏赤彩。	

20区112号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
12	削器	半分	(79)	41.5	8	31	細粒輝石安山岩	
13	砥石	完形	76	52	20	136.6	細粒輝石安山岩	
14	多孔石	半分	240	214	130	6,220	安山岩	

20区113号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁～底部 口径31.0 残存高44.2 底径10.0	雲母を含む細砂粒をやや多く 含む。良好。暗赤褐色。	口縁部内面は横位の隆帯を貼付して段差をつける。口縁部は 斜位の沈線を施文する。胴部は沈線と渦巻文を持つ隆帯で文 様帯を区画した後、沈線を施文する。	曾利Ⅲ式

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
2	深鉢	口縁～胴部 推定口径 21 残存高 19.8	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	渦巻文を持つ隆帯を横位に貼付した後、沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
3	深鉢	口縁～胴部 推定口径 19 残存高 25.0	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には短沈線を充填する。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
4	深鉢	胴部 推定口径 7	長石を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	綾杉文を施文した後、腕骨文を垂下させる。	唐草文系
5	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は刺突文を持つ横位の隆帯を貼付する。胴部は隆帯や沈線、交互刺突文で文様帯を描出する。	唐草文系
6	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	胴上半部は半円状の沈線で文様帯を区画し、区画内に斜位沈線を充填する。胴下半部は条線を垂下させる。	唐草文系
7	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は波状を呈する。剥離しているが、橋状把手が付くと思われる。胴部は渦巻文を持つ隆帯や沈線、交互刺突文などで文様帯を描出する。	唐草文系
8	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部は波状を呈し、渦巻文を持つ隆帯や沈線、刺突文で加飾された橋状把手が頂部に付く。胴部は沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
9	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈し、渦巻文を持つ隆帯や沈線で加飾された端状把手が頂部に付く。胴部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には綾杉文を垂下させる。	唐草文系
10	深鉢	口縁～胴部 推定口径 22 残存高 22.4	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	
11	深鉢	口縁突起	石英・長石・金雲母をふくむ細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	橋状把手で、渦巻文を持つ隆帯と沈線で加飾する。	唐草文系
12	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁部は波状を呈し、舌状突起が付く。外面には渦巻文を持つ隆帯が横位に貼付される。	唐草文系
13	深鉢	口縁～胴部	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部内面はやや肥厚する。渦巻文を持つ隆帯や蛇行する隆帯などを貼付した後、斜位の沈線を施文する。	唐草文系
14	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には短沈線を充填する。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線を垂下させる。	唐草文系
15	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線を垂下させる。	唐草文系
16	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線を垂下させる。	唐草文系
17	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	唐草文系
18	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部内面に段差を持つ。口縁部は横位の隆帯と沈線で文様帯を区画し、区画内には短沈線を充填する。	唐草文系
19	深鉢	口縁部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	斜位の沈線を施文する。	曾利系
20	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	斜位の沈線を施文した後、隆帯を垂下させる。	唐草文系
21	深鉢	胴部～底部	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
22	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。	加曾利E3式
23	深鉢	口縁部	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系
24	深鉢	胴部片	細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体RLの単節斜縄文を充填する。胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文する。	加曾利E3式
25	浅鉢	口縁～胴部 推定口径 48 残存高 12.2	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口唇部は平坦で、口縁部は内外面に肥厚する。丁寧な磨き調整を施す。表面赤彩。裏面は口縁端部のみ赤彩。	

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
26	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
27	深鉢	胴部片	雲母や赤色粒子を含む細砂粒を少量含む。良好。褐灰色。	原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
28	浅鉢	口縁～胴部 推定口径37 残存高35.1	長石・雲母・小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	無文の口縁下部に穿孔を持つ突帯状隆帯を貼付する。表裏赤彩。	加曾利E3式

20区113号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)	石材	備考
29	石鏃	70%	(23) (17) 3.5 0.8	黒曜石	
30	石鏃	30%	15 (11) 3 0.5	黒曜石	
31	加工痕	半分	(16) (15) 5 0.7	黒曜石	
32	加工痕	完形	36 24 6 6.3	黒曜石	
33	打製石斧	完形	(113) 54 13 114.5	黒色安山岩	
34	磨石	完形	92 69 49 451.2	粗粒輝石安山岩	
35	凹み石	完形	88 52 39 241.6	粗粒輝石安山岩	
36	砥石	ほぼ完	384 260 105 15,500	石英閃緑岩	

20区116号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	渦巻文や綾杉文、斜沈線などで文様帯を描出する。	唐草文系
2	深鉢	口縁部片 推定口径24 残存高9.2	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、口縁部は隆帯を貼付して文様帯を描出する。胴部は沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
3	深鉢	口縁～胴部 推定口径23 残存高19.8	細砂粒を若干含む。良好。暗赤褐色。	胴部は蕨手文を持つ隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。	唐草文系
4	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、沈線と磨消文で文様帯を描出する。	加曾利E3式
5	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文で文様帯を描出する。内面に炭化物の痕跡あり。	加曾利E3式
6	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	地文は原体RLの単節斜縄文で、隆帯を貼付して文様帯を描出する。	加曾利E3式
7	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
8	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	胴部は原体RLの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
9	深鉢	胴部片	雲母や小礫を含む細砂粒を若干含む。良好。黒褐色。	条線を施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	曾利系
10	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と刺突文で文様帯を描出する。	加曾利E3式
11	深鉢	胴部片	長石や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	弧状の沈線を施文した後、弧状の隆帯を貼付する。	唐草文系
12	深鉢	口縁～胴部	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部は隆帯と斜沈線で文様帯を描出する。胴部は綾杉文と沈線を垂下させる。	加曾利E3式
13	深鉢	口縁～胴部	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	口縁部は隆帯と斜沈線で文様帯を描出する。胴部は綾杉文と沈線を垂下させる。	曾利系



20区116号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
14	石鏃	ほぼ完	(20)	(14.5)	4	1	珪質変質岩	
15	削器	完形	66	57	20	66.1	細粒輝石安山岩	
16	台石	破片	(152)	(163)	49	1,035	粗粒輝石安山岩	
17	多孔石	半分	(216)	116	86	2,950	石英閃緑岩	
18	砥石	60%	(294)	207	105	6,500	石英閃緑岩	

20区118号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	口縁～胴部 推定口径47 残存高47.4	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
2	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	地文は原体L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、胴部に沈線と磨消文を垂下させる。その後、口縁部に楕円状の隆帯を貼付して文様帯を描出する。	加曾利E3式
3	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口縁部は波状を呈し、蕨手文を持つ沈線を施文する。	加曾利E3式
4	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯と刺突文で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、蕨手状沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
5	深鉢	口縁部片	細砂粒を若干含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、原体L Rの単節斜縄文を施文した後、弧状の隆帯と沈線を施文する。	加曾利E3式
6	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	地文は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を施す。	加曾利E3式
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。橙色	胴部は原体L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E4式
8	深鉢	口縁部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁部は隆帯と蕨手状沈線で文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、蕨手状沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
9	深鉢	口縁部片 推定口径30 残存高23.0	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁部は波状を呈し、舌状突起が付く。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体R Lの単節斜縄文を充填する。胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線、磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
10	深鉢	口縁～底部 推定口径16 残存高21.7	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部にキノコ状突起が付く。口縁部は、波状沈線を施文する。胴部は原体L Rの単節斜縄文を縦位に施文した後、蕨手状沈線と磨消文を垂下させる。底部は台状を呈し、脚部に3孔を持つ。	加曾利E3式
11	深鉢	口縁部片	雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	口縁部は波状を呈し、小舌状突起が付く。口縁部は隆帯を貼付して文様帯を描出する。胴部は「∩」字状の沈線を垂下させた後、綾杉文を垂下させる。	唐草文系
12	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口縁部は波状を呈し、小舌状突起が付く。頂部から蕨手文を施文した橋状把手が付く。胴部は沈線と隆帯を貼付する。内面に炭化物が付着する。	加曾利E3式
13	深鉢	胴部片	雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
14	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部は低い隆帯を貼付した後、条線を垂下させる。	唐草文系
15	浅鉢	胴部片	細砂粒を若干含む。良好。灰黄褐色。	弧状の沈線を施文する。全体的に丁寧な磨き調整を施す。表面赤彩。	加曾利E3式
16	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	隆帯で文様帯を描出した後、斜沈線を施文する。	唐草文系
17	深鉢	胴部～底部 残存高8.2 底径7.4	長石や雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。にぶい黄褐色。	胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
18	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	胴部は原体R Lの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式

20 区 118 号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
19	敲石	完形	80	45	26	177.6	緑色片岩	磨製石斧転用

20 区 119 号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部 推定口径 29 残存高 29.5	雲母や小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、蕨手文・沈線・磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
2	深鉢	口縁部片	長石を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	口縁部には小舌状突起が付く。地文は原体LRの単節斜縄文で、「∩」字状の沈線を施文する。	加曾利E3式
3	深鉢	口縁部片	長石や雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	波状の隆帯を貼付した後、連結する刺突文を持つ隆帯を垂下させる。	唐草文系
4	深鉢	口縁部片	細砂粒を若干含む。良好。赤褐色。	口縁部内面に横位の隆帯を貼付して肥厚させる。口縁部は斜位の短沈線を施文した後、隆帯を貼付して文様帯を描出する。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、3条1組の沈線を垂下させる。	加曾利E3式
5	深鉢	口縁～胴部 推定口径 45 残存高 45.6	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多量に含む。良好。橙色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、口縁部は隆帯で文様帯を描出し、胴部は沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
6	深鉢	口縁部片	石英や金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	無文の口縁下部に押圧文を施した横位の隆帯を貼付した後、蕨手文を持つ2条1組の隆帯を垂下させる。その後、条線を垂下させる。	唐草文系
7	深鉢	口縁部片	長石や小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、弧状の沈線を施文する。	加曾利E3式
8	深鉢	胴部片	長石・雲母・小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	地文は原体LRの単節斜縄文で、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利E3式
9	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	頸部に横位の沈線を施文する。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、連結する半円文を横位に施文する。	加曾利E3式
10	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	波状文の下に、原体LRの単節斜縄文を縦位に施文する。	唐草文系
11	深鉢	胴部片	石英や金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	条線と隆帯を垂下させた後、横位の沈線で施文する。	唐草文系

20 区 119 号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
12	石鏃	半分	(18)	(12)	2.5	0.4	黒曜石	
13	砥石	完形	73	43	20	116.5	変質岩	
14	砥石	完形	268	175	70	5,200	石英閃緑岩	

20 区 120 号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴部	細砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部は隆帯で文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。胴部は原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線・蕨手文を持つ沈線・沈線などで文様帯を描出する。	唐草文系
2	深鉢	口縁～胴部 推定口径 29 残存高 17.2	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部は蕨手文を持つ2重の半円文を横位に貼付して文様帯を区画し、区画内には短沈線を施文する。胴部原体LRの単節斜縄文を縦位に施文した後、波状文・沈線・磨消文を施文する。	唐草文系
3	深鉢	口縁～胴下部	雲母や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。赤褐色。	口縁部は波状を呈し、沈線と隆帯で加飾された橋状把手が2対付く。口縁部内面には横位の隆帯を貼付して段差を作る。口縁部は蕨手文を持つ沈線と刺突文で文様帯を描出する。胴部は綾杉文を施文した後、腕骨文を持つ隆帯と沈線で文様帯を描出する。	唐草文系

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
4	深鉢	底部 底径 11.2	長石や金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	底部に網代痕有り。	
5	深鉢	胴部片	石英や金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。暗褐色。	条線と隆帯を垂下させた後、横位の沈線を施文する。	唐草文系
6	深鉢	胴部片	石英・長石・金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。褐色。	条線を垂下させる。	唐草文系

20 区 120 号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
7	台石	完形	300	249	73	8,500	石英閃緑岩	

20 区 122 号住居土器観察表

番号	器種	残存状態・計測値	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴	時期・備考
1	深鉢	胴～底部 残存高 14.6 底径 6.0	小礫を含む細砂粒を少量含む。普通。橙色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
2	深鉢	口縁部片	石英や小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。橙色。	口縁部は小舌状突起が付く。口縁部は渦巻状の隆帯を貼付して文様帯を描出する。	加曾利 E 3 式
3	深鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
4	深鉢	胴部片	石英や片岩を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体 L R の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
5	深鉢	口縁部片	雲母や小礫を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	口縁部内面はやや肥厚する。口縁部は刻みを持つ横位の隆帯と沈線を施文する。	後期堀之内 2 式
6	深鉢	胴部片	石英・長石・雲母を含む細砂粒を多く含む。良好。黒褐色。	隆帯を貼付して文様帯を描出する。	加曾利 E 3 式
7	深鉢	胴部～底部 残存高 6.3 底径 5.6	小礫を含む細砂粒を少量含む。普通。橙色。	原体 R L の単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式
8	浅鉢	胴部片	小礫を含む細砂粒を多く含む。良好。浅黄橙色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には原体 L R の単節斜縄文を充填する。	加曾利 E 3 式
24	深鉢	胴部～底部 残存高 26.1 推定底径 7	細砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	原体 R L の単節斜縄文を横位に施文した後、沈線と磨消文を垂下させる。	加曾利 E 3 式

20 区 122 号住居石器観察表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)②幅(mm)③厚さ(mm)④重量(g)				石材	備考
9	石鏃	半分	(13)	(15)	4.5	0.6	黒曜石	
10	石鏃	ほぼ完	(22)	13	6	0.9	珪質変質岩	
11	削器	完形	51	31.5	8	9.7	黒色頁岩	
12	石核	完形	49	41	27	59.1	珪質変質岩	
13	剥片		(86)	(58)	21	79.3	黒曜石	
14	剥片		(42)	(53)	24	50.5	黒曜石	
15	剥片		115	90	38	251.7	細粒輝石安山岩	
16	剥片		(63)	40	22	42.3	黒曜石	
17	剥片		84	42	21	64.9	黒曜石	
18	剥片		98	88	40	349.1	細粒輝石安山岩	
19	剥片		(44)	37	28	40	黒曜石	
20	打製石斧	完形	116	52	19	131.4	細粒輝石安山岩	
21	打製石斧	20%	(57)	69	13	57.9	細粒輝石安山岩	
22	磨石	完形	119	108	66	1,271.7	粗粒輝石安山岩	
23	磨石	半分	(117)	75	55	668.1	粗粒輝石安山岩	

## 報告書抄録

書名ふりがな	よこかべなかむらいせきかっこご
書名	横壁中村遺跡（5）
副書名	ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	14
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	406
編著者名	藤巻幸男
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20070323
作成法人ID	21005
郵便番号	377 - 8555
電話番号	0279 - 52 - 2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田 784-2
遺跡名ふりがな	よこかべなかむらいせき
遺跡名	横壁中村遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあぎよこかべ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字横壁
市町村コード	10424
遺跡番号	24
北緯（日本測地系）	363210
東経（日本測地系）	1384025
北緯（世界測地系）	363221
東経（世界測地系）	1384013
調査期間	19960401 - 20051231
調査面積	30000
調査原因	ダム建設
種別	集落
主な時代	縄文
遺跡概要	集落 - 縄文 - 竪穴住居 30 - 縄文土器 + 石器
特記事項	縄文時代中期から後期にかけての拠点集落



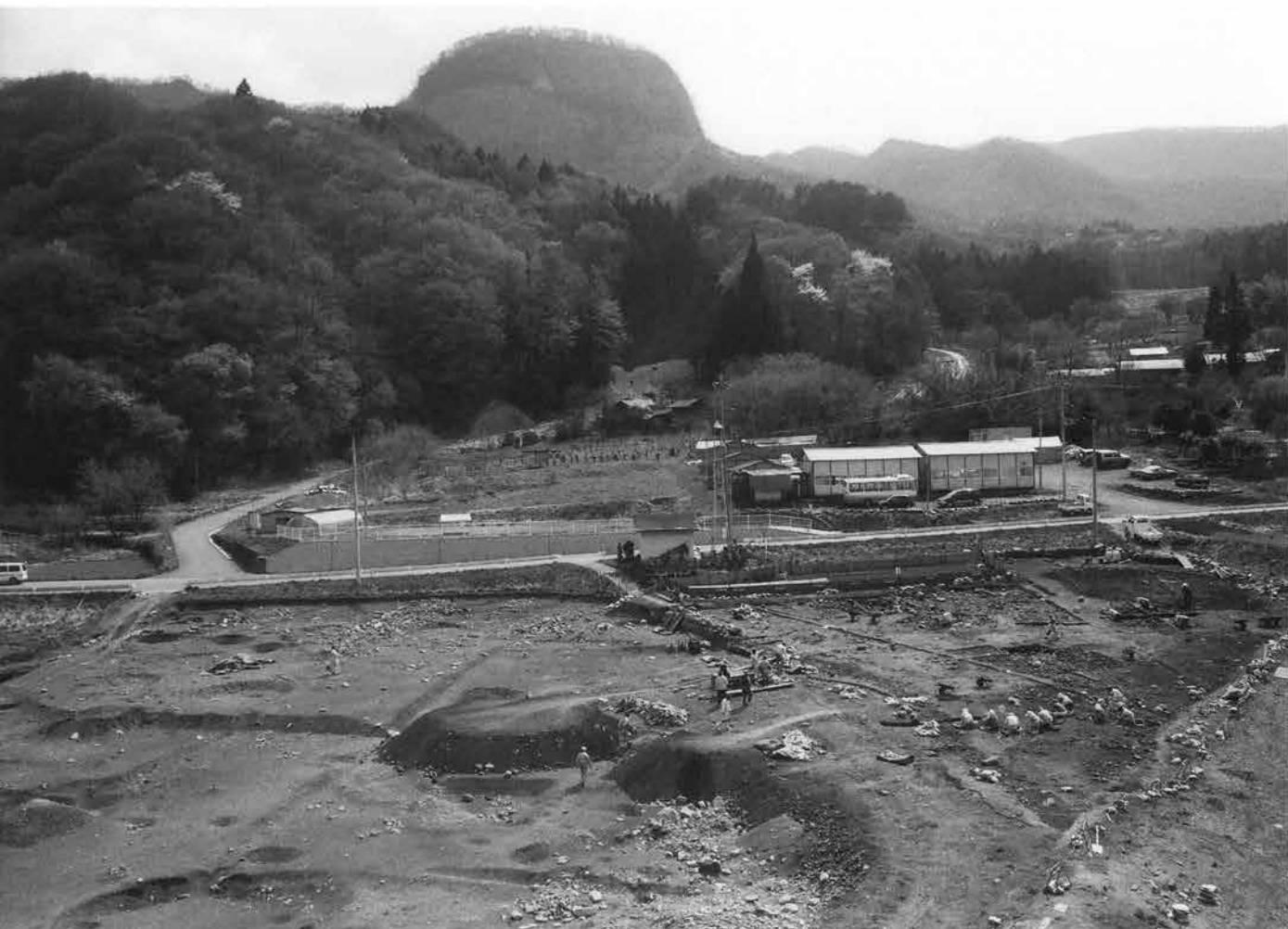
# 写真図版





1 遺跡の位置と周辺の地形





1 報告対象地区と周辺の景観（北から） 上方の丸い山はこの地域のランドマーク「丸岩」



2 報告対象地区の調査状況（北から） 地山礫の多い地点と少ない地点がある。



1 20区72号住居 覆土上層の礫 (西から)



2 20区72号住居 炉検出状況 (東から)



3 20区72号住居 床面確認状況 (西から)



4 20区72号住居 炉全景 (北から)



5 20区72号住居 周囲の状況 (西から)



1 20区72号住居 貼床 (北から)



2 20区72号住居 掘り方全景 (西から)



3 20区72号住居 平成15年度調査区掘り方 (北から)



4 20区73号住居 炉内埋設土器確認状況 (西から)



5 20区78号住居 全景 (北から)



1 20区78号住居 確認状況 (西から)



2 20区78号住居 覆土上層の礫と遺物 (北から)



3 20区78号住居 覆土中層の礫と遺物 (北から)



4 20区78号住居 セクション (南から)



5 20区78号住居 覆土下層の礫と貼り床 (南から)



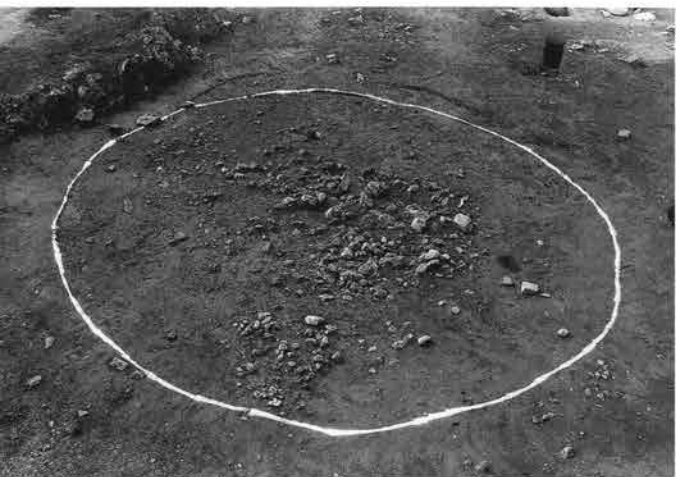
6 20区78号住居 炉確認状況 (南から)



7 20区78号住居 炉全景 (南から)



8 20区78号住居 炉掘り方 (南から)



1 20区79号住居 確認状況 (南東から)



2 20区79号住居 覆土中の礫と遺物 (南東から)



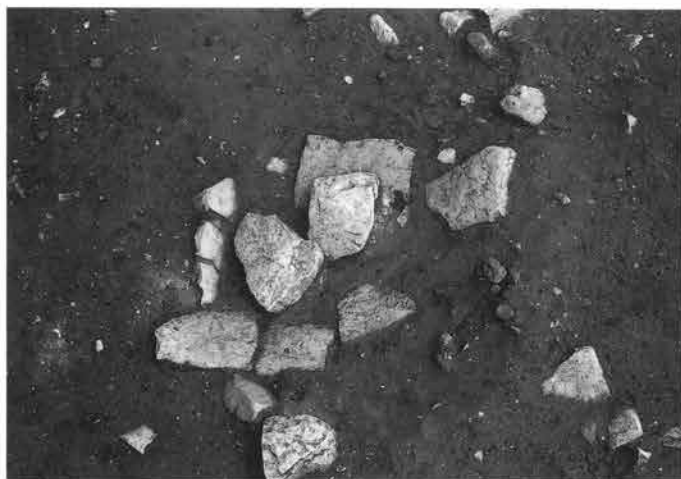
3 20区79号住居 覆土下層の礫 (北から)



4 20区79号住居 床面と遺物出土状況 (北東から)



5 20区79号住居 全景 (東から)



1 20区79号住居 炉確認状況 (南西から)



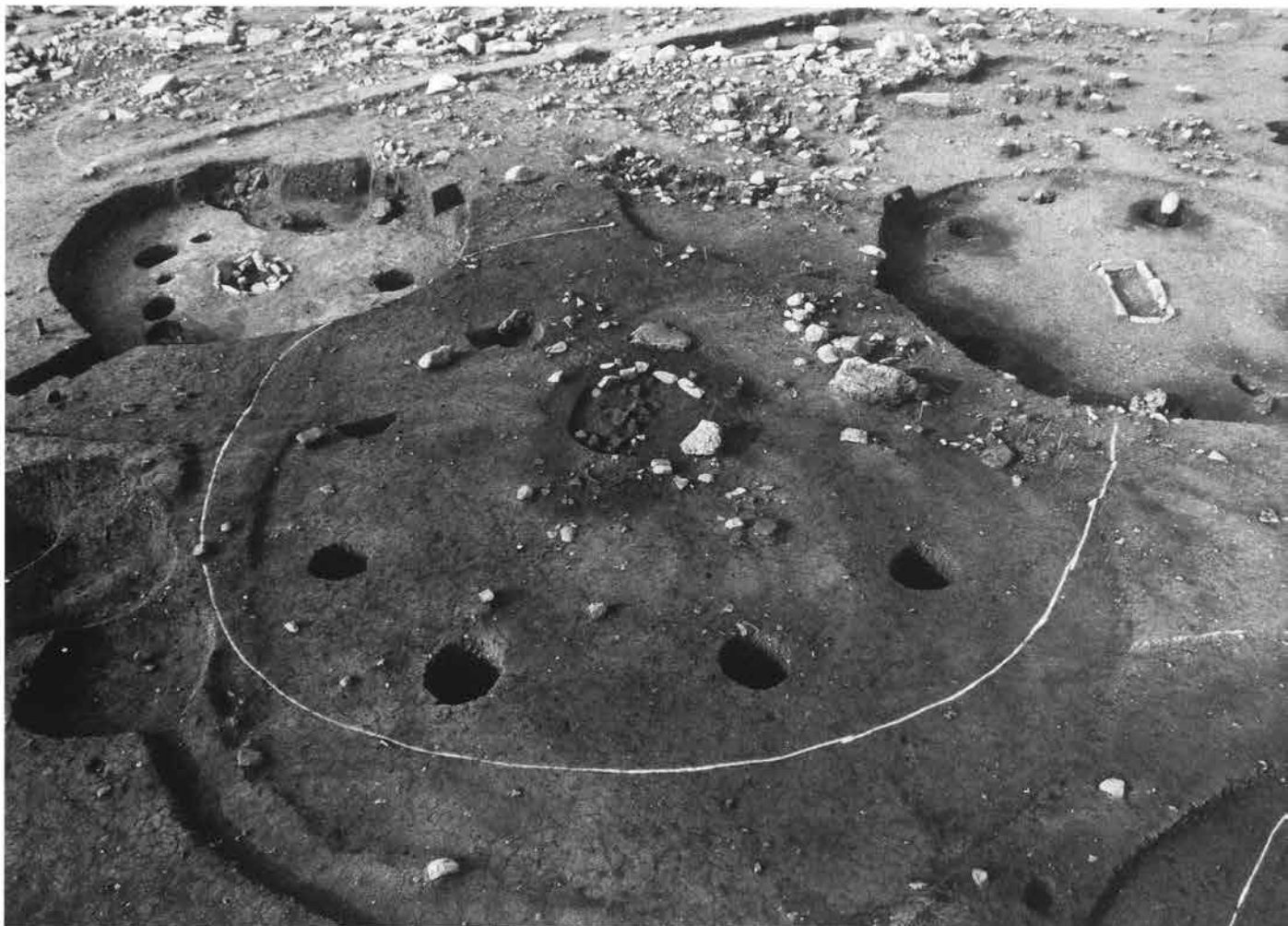
2 20区79号住居 炉セクション (北から)



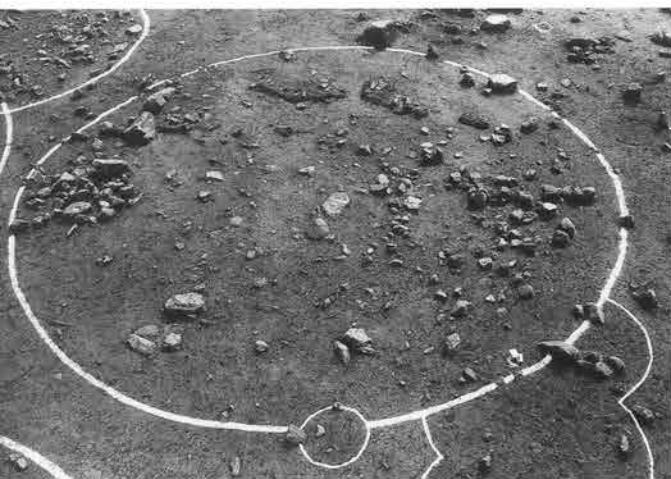
3 20区79号住居 炉内焼土検出状況 (東から)



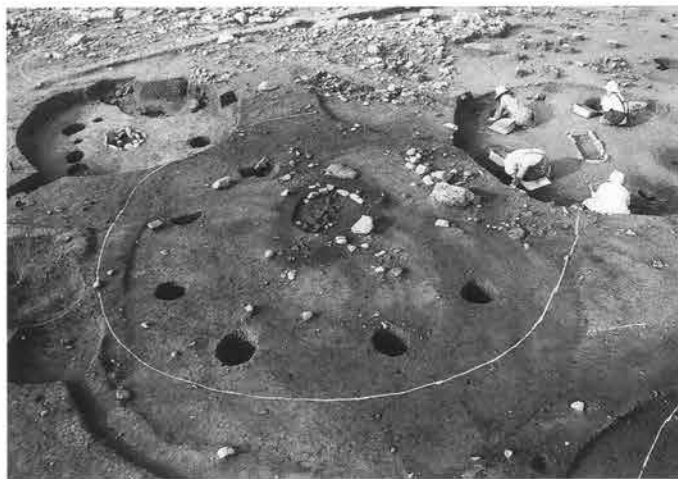
4 20区79号住居 炉掘り方の礫 (南から)



5 20区80号住居 全景 (南西から)



1 20区80号住居 確認状況 (北西から)



2 20区80号住居 全景 (南西から)



3 20区80号住居 石棒出土状況 (南から)



4 20区80号住居 炉確認状況 (南東から)



5 20区80号住居 炉全景 (北東から)



6 20区80号住居 炉内焼土の確認 (南東から)



7 20区80号住居 旧炉の埋設土器 (南東から)



8 20区80号住居 炉の北東床面に置かれた扁平平碟 (南東から)



1 20区84号住居 全景 (南から)



2 20区84号住居 確認状況 (北から)



3 20区84号住居 覆土上面の礫 (北から)



4 20区84号住居 床面と遺物の状況 (南から)

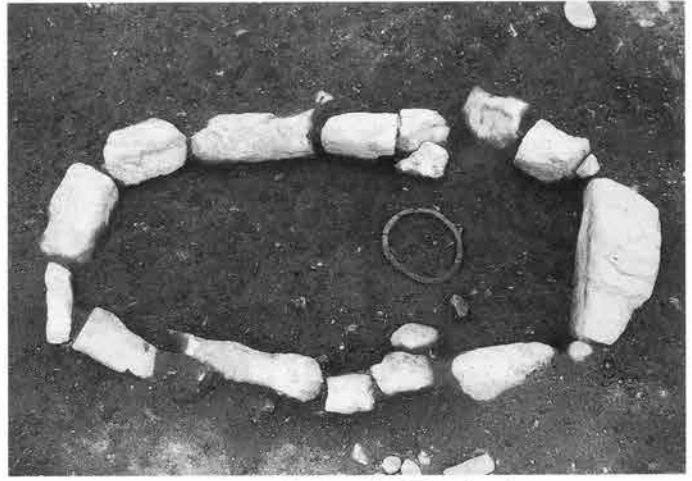


5 20区84号住居 炉周囲の遺物 (南から)





1 20区84号住居 炉の埋没土 (西から)



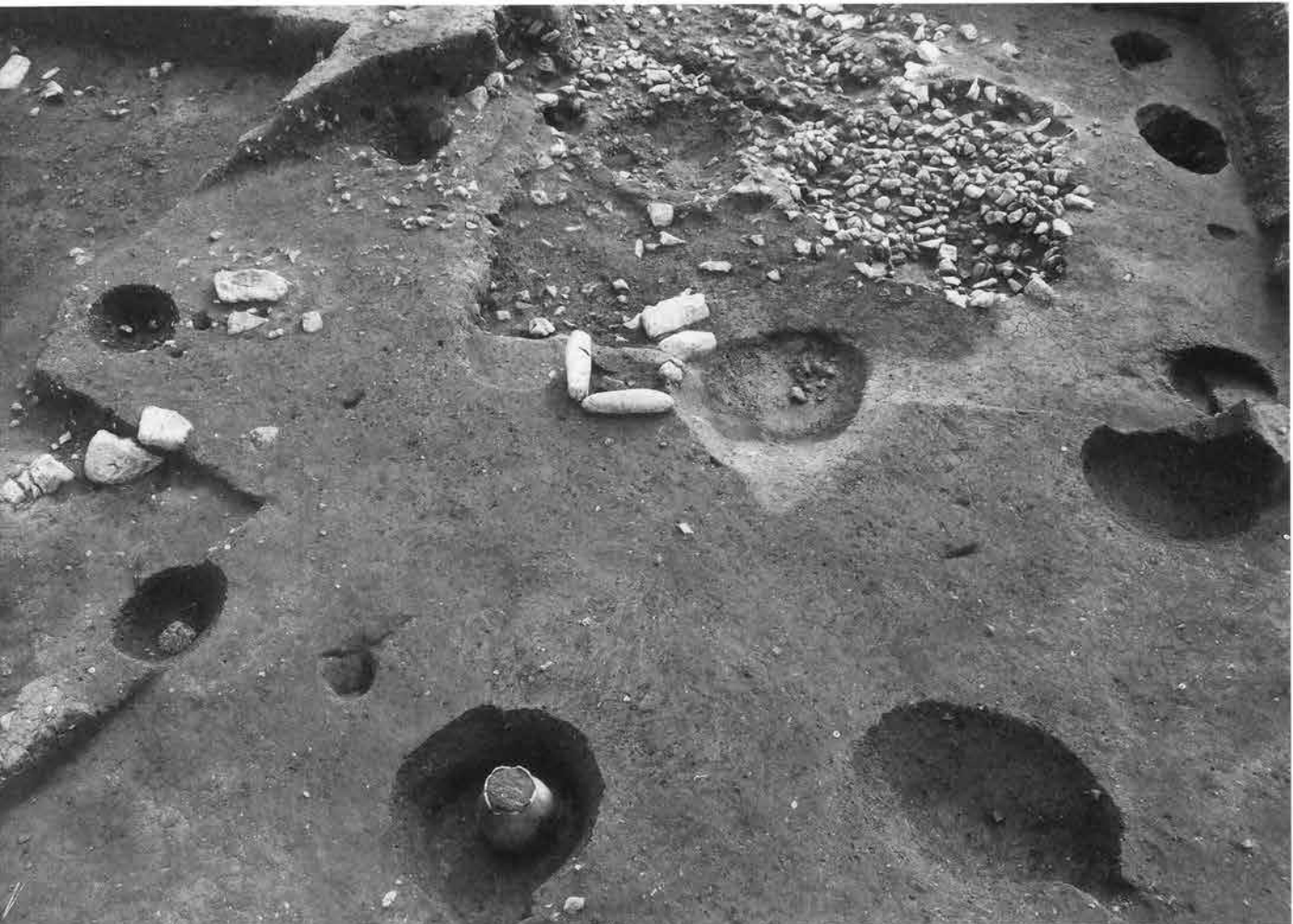
2 20区84号住居 炉全景 (東から)



3 20区84号住居 炉掘り方セクション (東から)



4 20区84号住居 炉石の組み方 (西から)



5 20区85号住居 全景 (北東から)



1 20区85号住居 床面と遺物の出土状況（北から）



2 20区85号住居 埋没土の状況（西から）



3 20区85号住居 炉全景（西から）



4 20区85号住居 炉内埋設土器（南から）



5 20区85号住居 柱6内埋設土器確認状況（西から）



6 20区85号住居 柱6内埋設土器とセクション（東から）



7 20区85号住居 柱6と埋設土器（北から）



8 20区85号住居 柱6内埋設土器上面の礫（南から）



1 20区85号住居 柱6内埋設土器の上面を覆う礫群（東から）



2 20区86号住居 全景（北東から）



1 20区86号住居 炉検出状況 (東から)



2 20区86号住居 炉セクション (南西から)



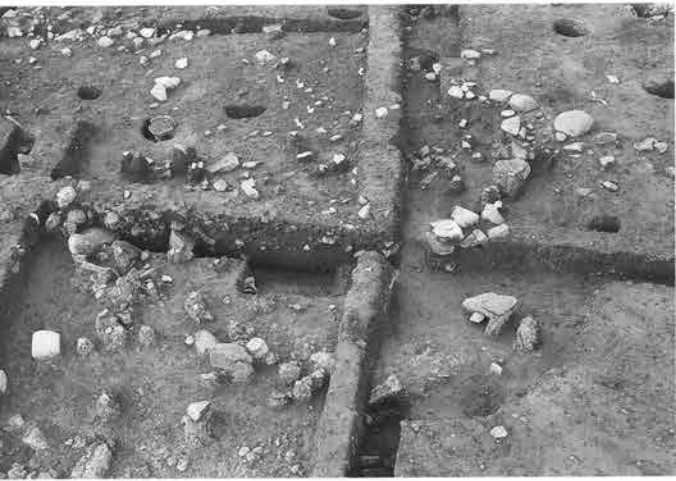
3 20区86号住居 炉使用面全景 (北から)



4 20区86号住居 炉内焼土検出状況 (北から)



5 20区87号住居 全景 (北から)



1 20区87号住居 遺物出土状況 (南から)



2 20区87号住居 遺物出土状況 (南東から)



3 20区87号住居 遺物出土状況近接 (北から)



4 20区87号住居 床面の土器20出土状況 (南東から)



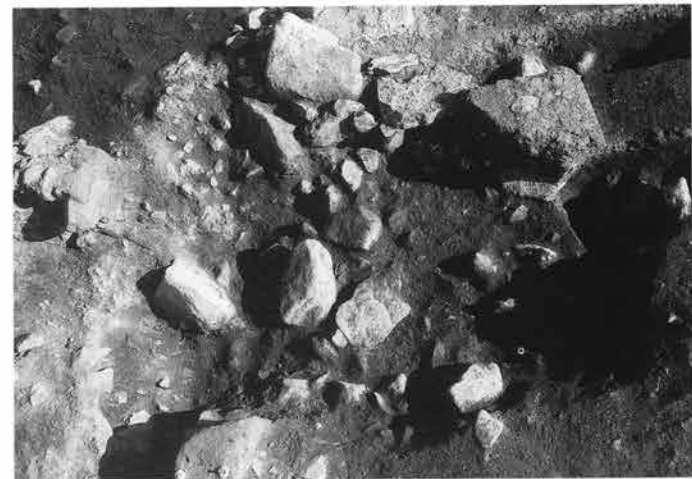
5 20区87号住居 炉埋没土 (南西から)



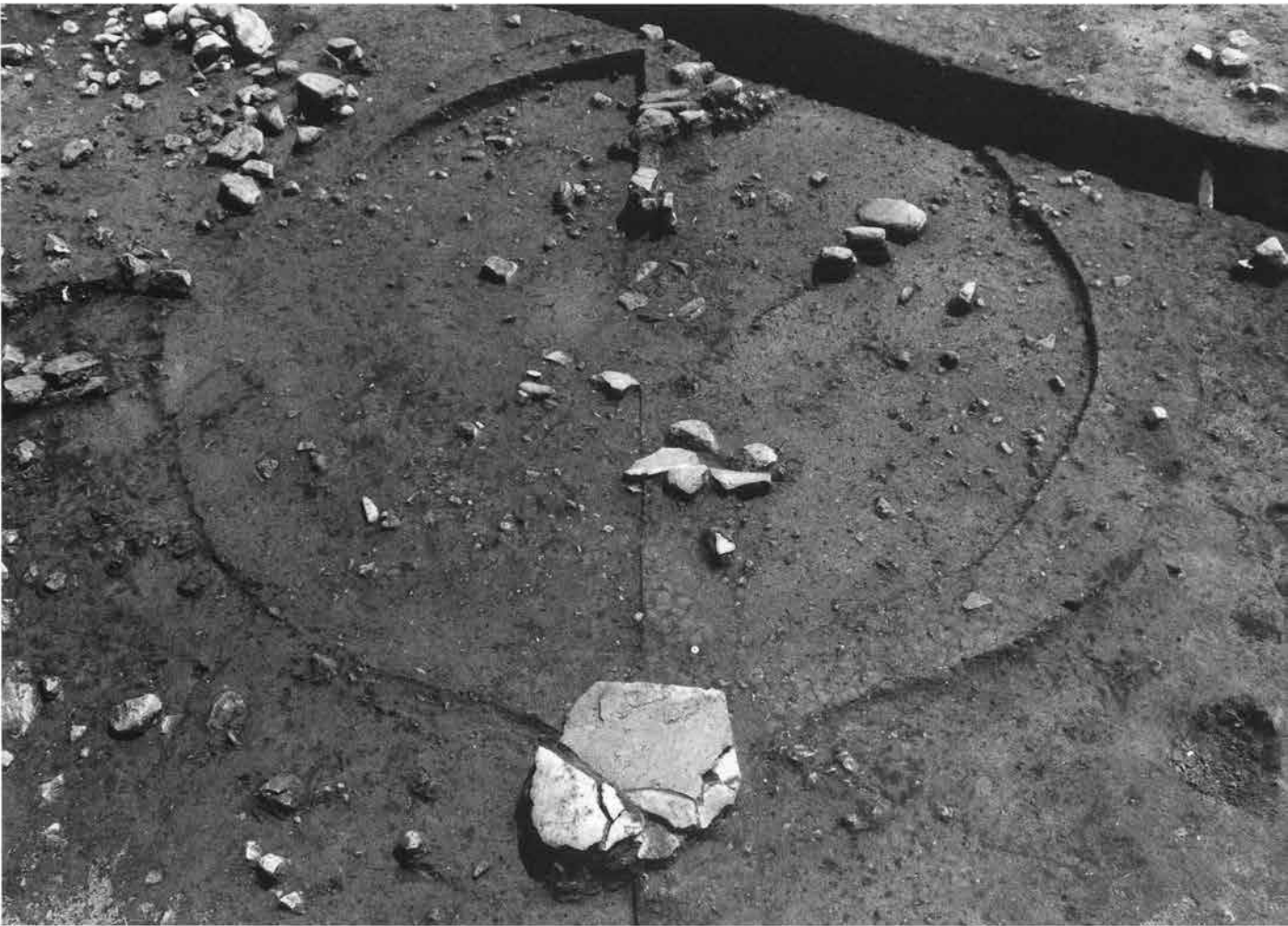
6 20区87号住居 炉内遺物出土状況 (西から)



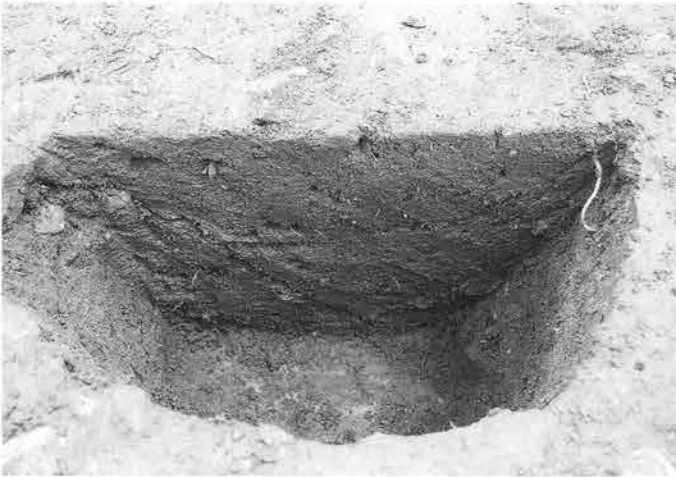
7 20区87号住居 炉全景 (西から)



8 20区87号住居 炉掘り方全景 (西から)



1 20区88号住居 全景 (北から)



2 20区88号住居 柱2埋没土 (南から)



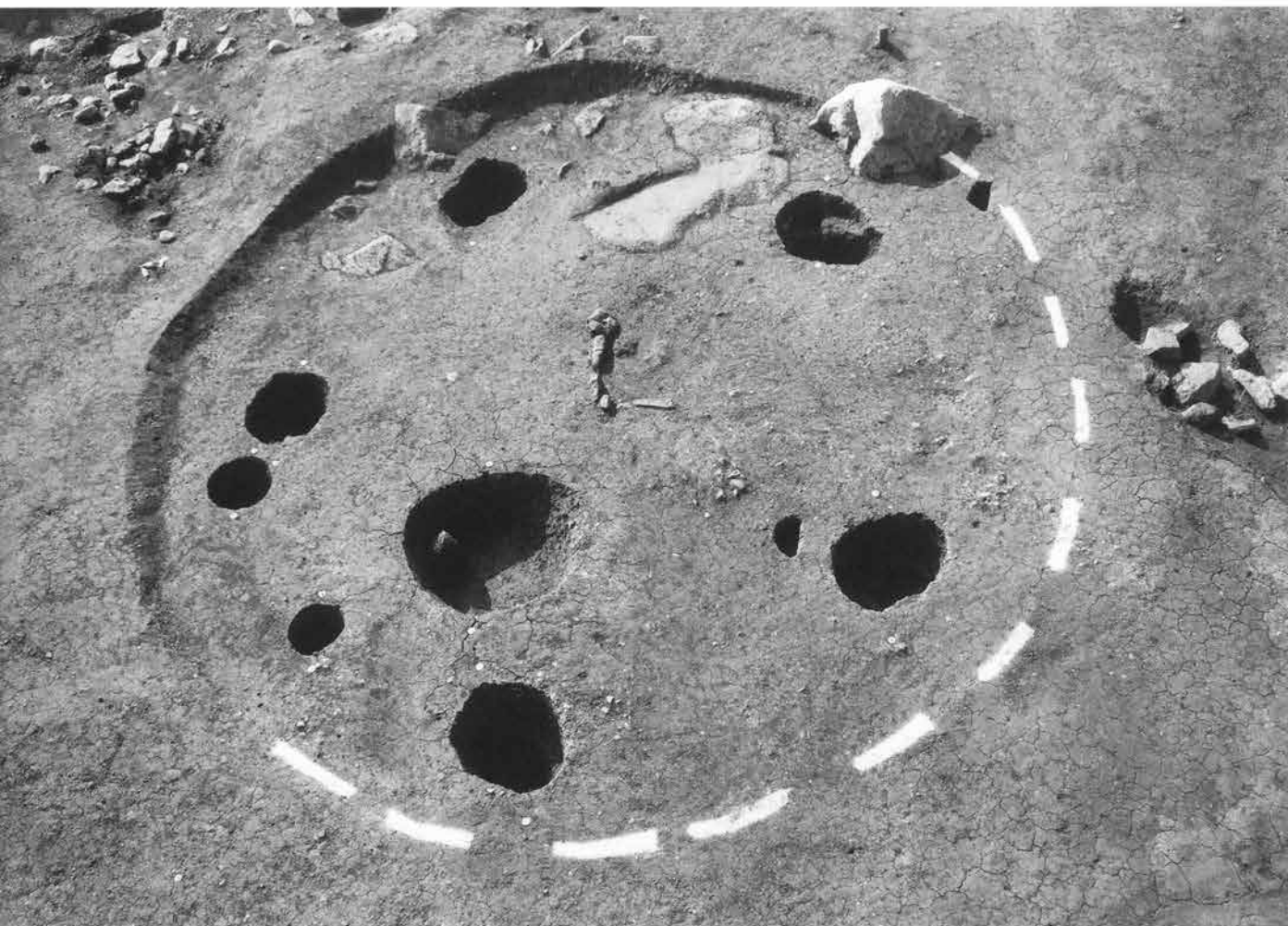
3 20区88号住居 柱3埋没土 (南から)



4 20区88号住居 炉全景 (北から)



5 20区88号住居 炉掘り方 (西から)



1 20区89号住居 全景 (東から)



2 20区89号住居 遺物出土状況 (東から)



3 20区89号住居 炉内焼土と遺物 (北から)



4 20区89号住居 土器2出土状況 (北から)



5 20区89号住居 炉掘り方 (南から)



1 20区92号住居 全景 (東から)



2 20区92号住居 遺物出土状況 (北東から)



3 20区92号住居 遺物出土状況 (東から)



4 20区92号住居 炉埋没土 (南から)



5 20区92号住居 炉全景 (北から)

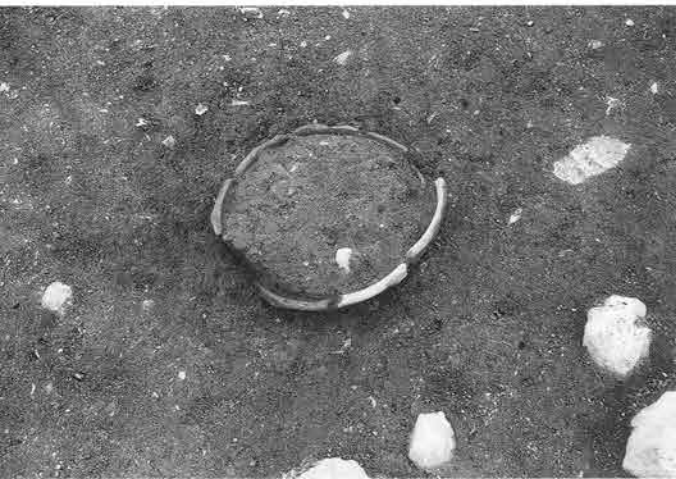




1 20区92号住居 炉全景 (北から)



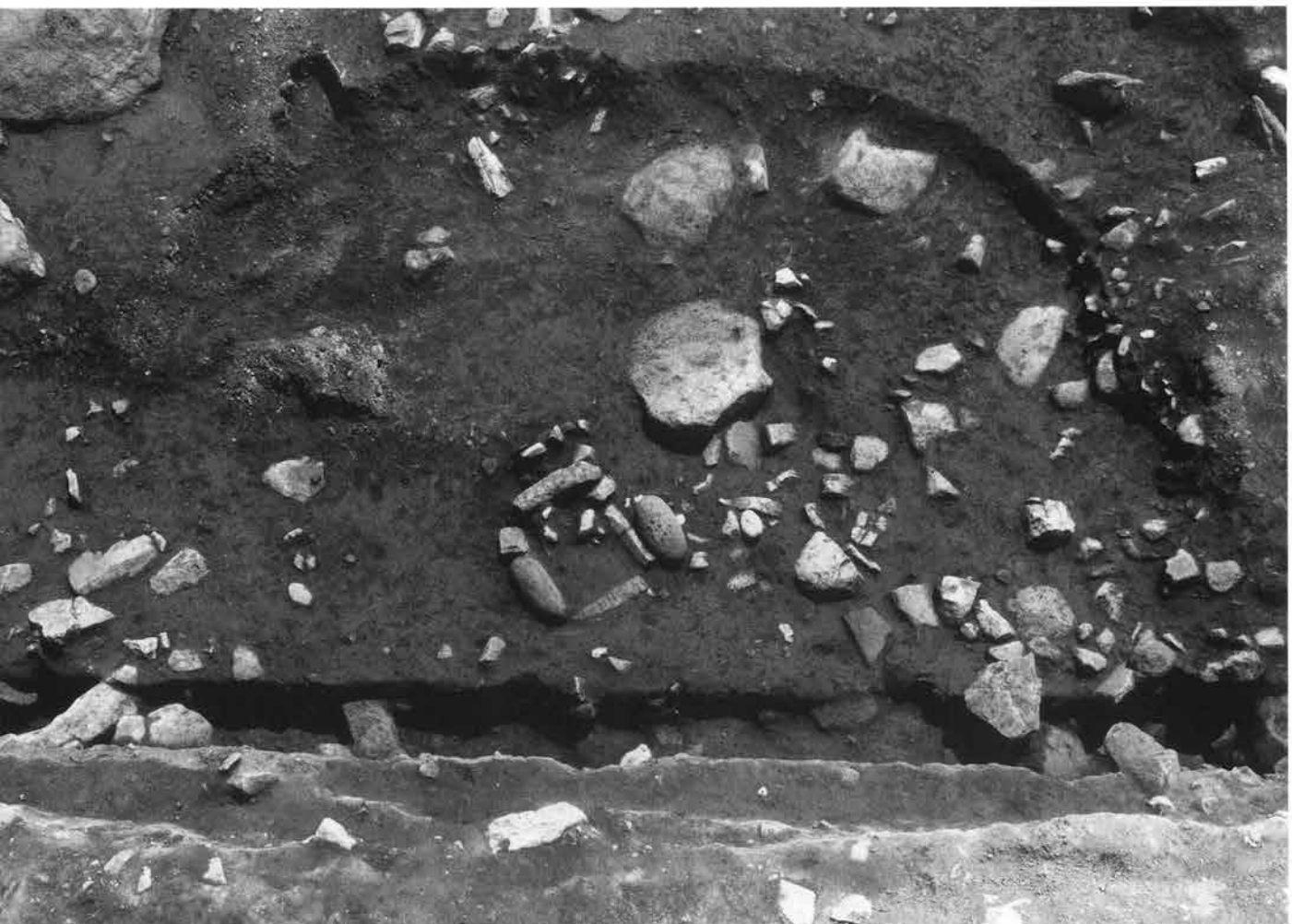
2 20区92号住居 炉掘り方 (北から)



3 20区92号住居 埋甕検出状況 (北から)



4 20区92号住居 埋甕埋設状況 (西から)



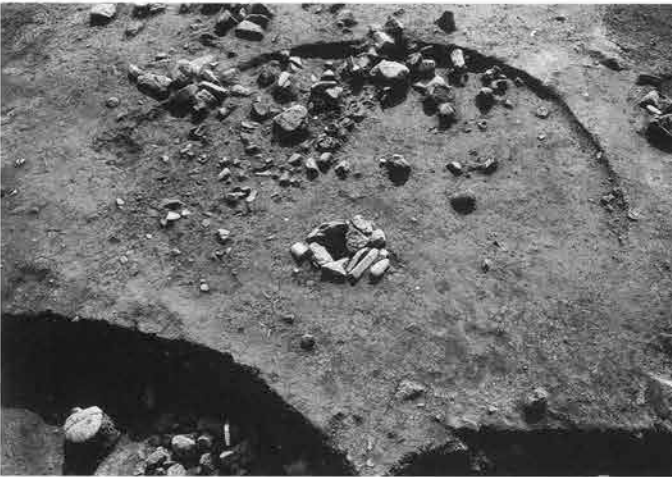
5 20区93号住居 全景 (北西から)



1 20区93号住居 床面付近の礫と遺物 (南東から)



2 20区93号住居 炉全景 (西から)



3 20区94号住居 確認状況 (北東から)



4 20区94号住居 炉と石組み (南から)



5 20区94号住居 炉検出状況 (南から)



6 20区94号住居 炉 (南から)



7 20区94号住居 炉掘り方 (西から)



8 20区94号住居 石組み全景 (東から)



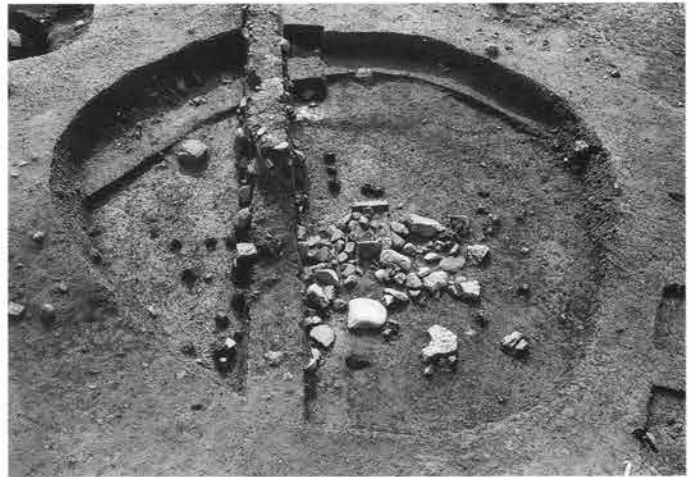
1 20区96号住居 確認状況 (東から)



2 20区96号住居 覆土上層の礫 (東から)



3 20区96号住居 覆土中層の礫 (東から)



4 20区96号住居 覆土下層の礫 (東から)



5 20区96号住居 床面の確認状況 (東から)



6 20区96号住居 埋没土 (北から)



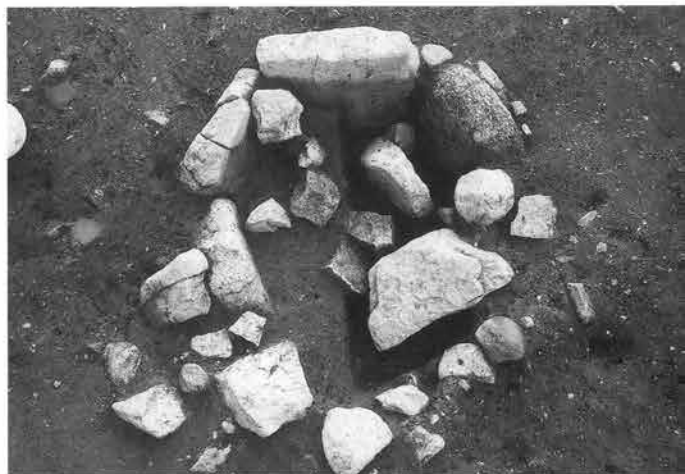
7 20区96号住居 土器6出土状況 (東から)



8 20区96号住居 黒曜石出土状況 (西から)



1 20区96号住居 炉確認状況 (東から)



2 20区96号住居 炉内の状況 (東から)



3 20区96号住居 炉内埋設土器検出状況 (北から)



4 20区96号住居 炉全景 (北から)



5 20区96号住居 全景 (東から)



1 20区97号住居 全景（北から）



2 20区97号住居 遺物出土状況（北から）



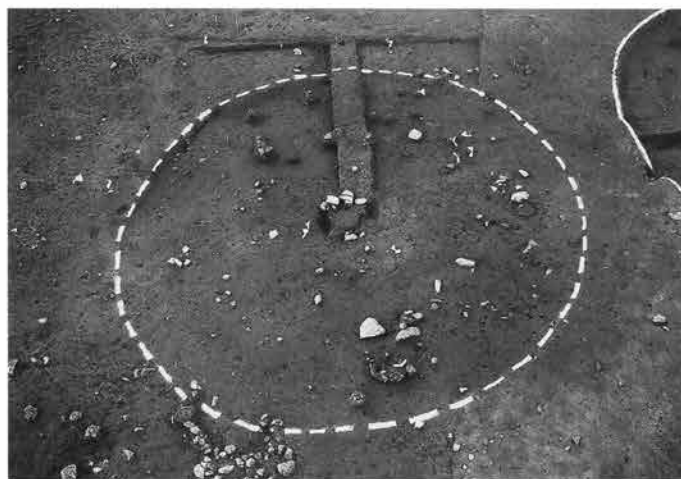
3 20区97号住居 炉検出状況（北から）



4 20区97号住居 炉全景（西から）



5 20区97号住居 全景（北東から）



1 20区101号住居 遺物出土状況 (南東から)



2 20区101号住居 掘り方全景 (南東から)



3 20区101号住居 炉全景 (南東から)



4 20区101号住居 炉断面 (南から)



5 20区101号住居 1号埋甕 (南から)



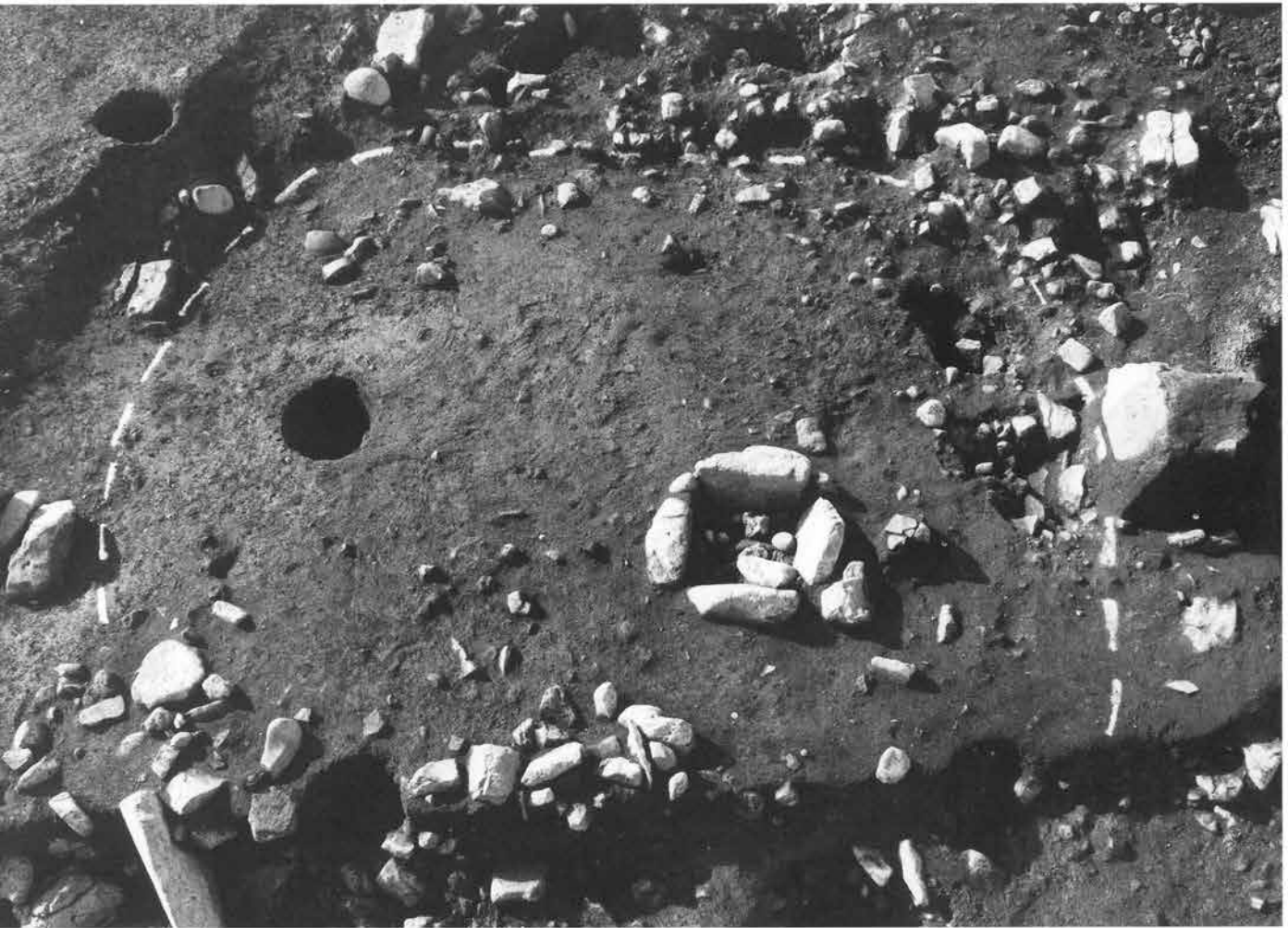
6 20区101号住居 1号埋甕断面 (南から)



7 20区101号住居 2号埋甕 (南東から)



8 20区101号住居 2号埋甕埋設状況 (南東から)



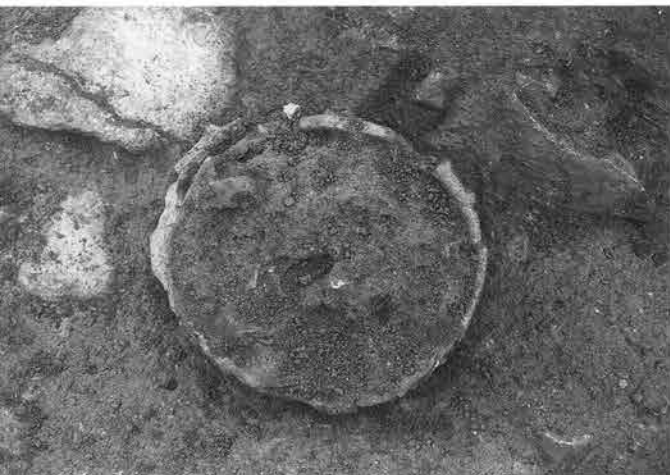
1 20区102号住居 全景 (北から)



2 20区102号住居 確認状況 (北から)



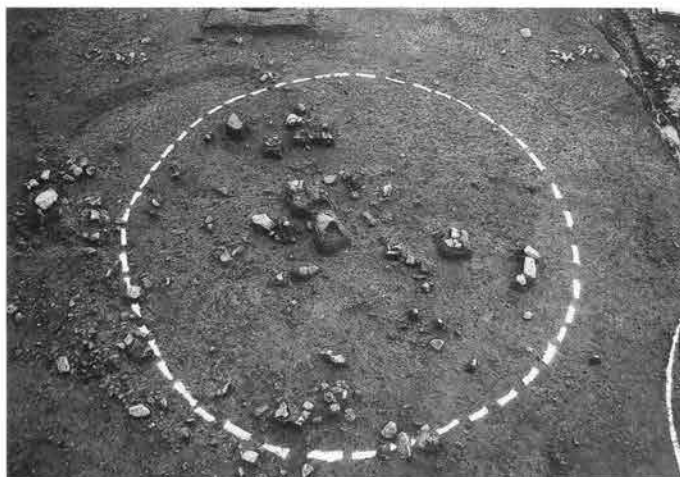
3 20区102号住居 炉全景 (東から)



4 20区105号住居 炉内埋設土器確認状況 (東から)



5 20区105号住居 炉内埋設土器 (南から)



1 20区103号住居 確認状況 (南東から)



2 20区103号住居 埋没土 (南から)



3 20区103号住居 遺物出土状況 (南から)



4 20区103号住居 全景 (南東から)



5 20区103号住居 炉の埋没土 (東から)



6 20区103号住居 炉全景 (北から)

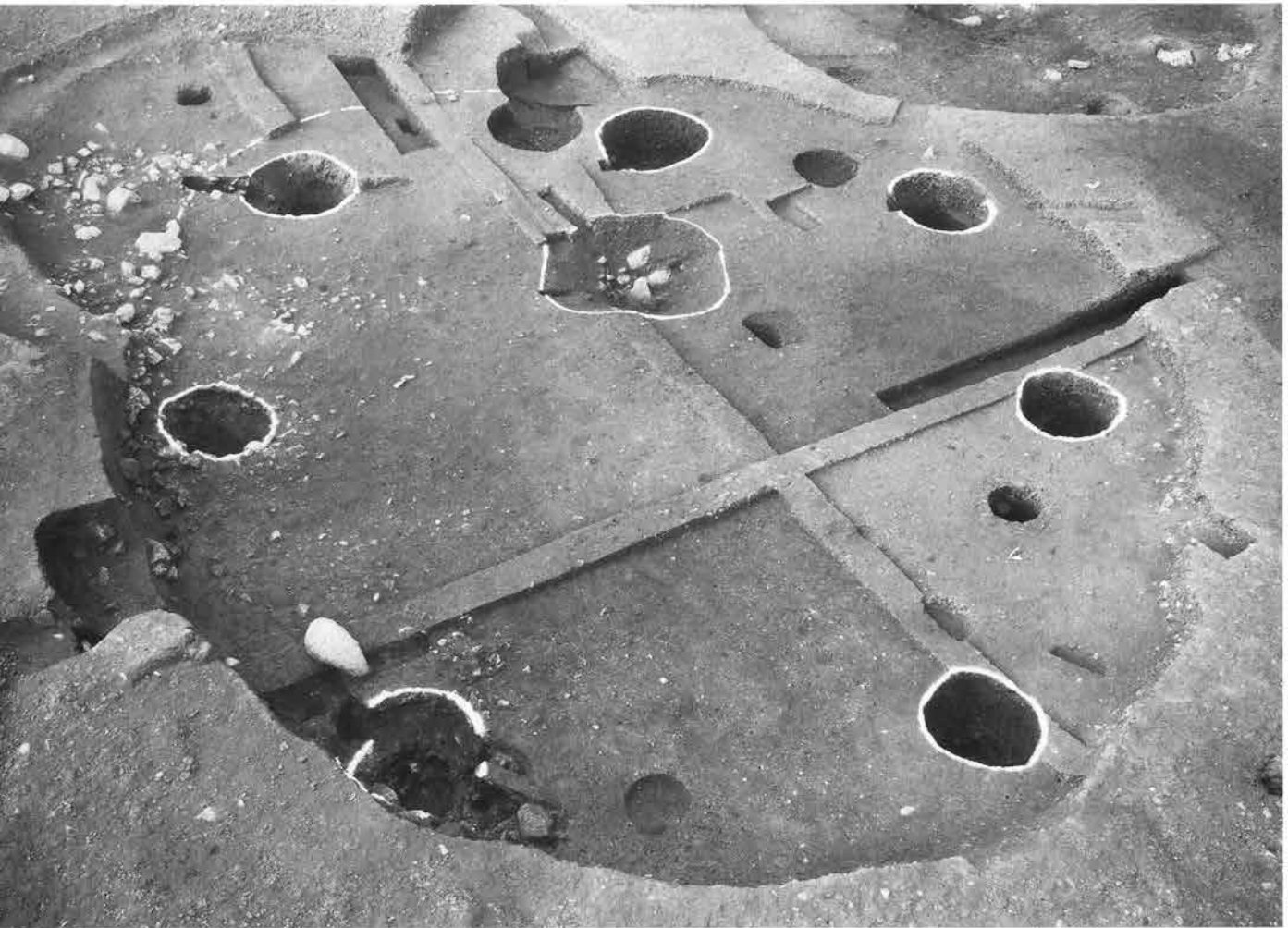


7 20区103号住居 炉内埋設土器 (東から)



8 20区103号住居 炉掘り方 (東から)





1 20区104号住居 全景 (南から)



2 20区104号住居 遺物と埋没土 (西から)



3 20区104号住居 遺物と埋没土 (西から)



4 20区104号住居 遺物出土状況 (東から)



5 20区104号住居 貼り床検出状況 (南から)



1 20区104号住居 炉確認状況 (南から)



2 20区104号住居 炉の調査状況 (北から)



3 20区104号住居 炉の調査状況 (東から)



4 20区104号住居 炉掘り方全景 (東から)



5 20区107号住居 全景 (北から)



1 20区107号住居 周囲の地山礫 (東から)



2 20区107号住居 炉全景 (南から)



3 20区107号住居 土器5の出土状況 (北から)



4 20区107号住居 床面伏甕2の出土状況 (西から)



5 20区107号住居 埋甕確認状況 (西から)



6 20区107号住居 埋甕と蓋石 (西から)



7 20区107号住居 埋甕 (西から)



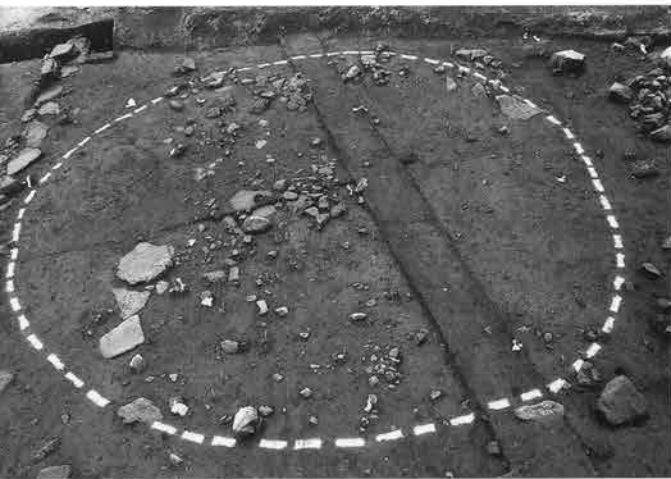
8 20区107号住居 埋甕の埋設状況 (西から)



1 20区111号住居 礫と遺物の出土状況 (北東から)



2 20区111号住居 全景 (北東から)



1 20区111号住居 確認状況 (北から)



2 20区111号住居 敷石面の確認 (北から)



3 20区111号住居 柄部出土の大型多孔石 (東から)



4 20区111号住居 埋甕 (東から)



5 20区111号住居 炉検出状況 (東から)



6 20区111号住居 炉上面の土器14・15 (北から)



7 20区111号住居 炉埋没状況 (西から)



8 20区111号住居 土器3の出土状況 (南から)



1 20区111号住居 炉全景 (東から)



2 20区111号住居 炉内埋設土器1 (東から)



3 20区111号住居 炉掘り方調査 (南東から)



4 20区111号住居 炉掘り方から旧埋設土器を確認 (東から)



5 20区111号住居 全景 (北から)



1 20区112号住居 確認状況（北から）



3 20区112号住居 敷石と周囲の地山礫（北から）



2 20区112号住居 炉と周囲の敷石（東から）



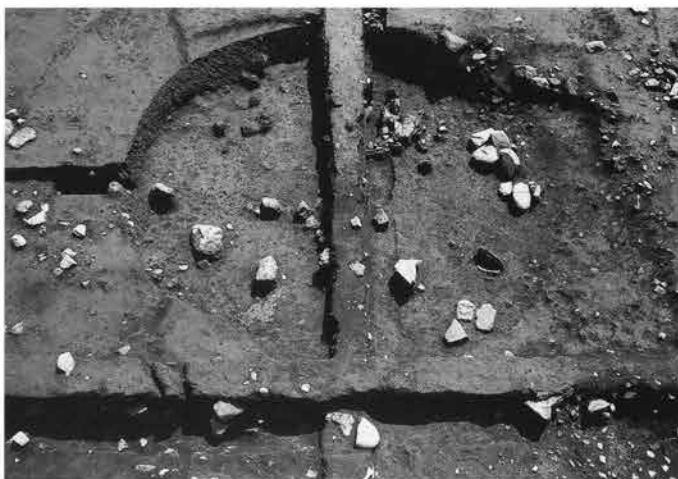
5 20区112号住居 石囲い炉の復元（南東から）



4 20区112号住居 炉内の埋没土（西から）



6 20区113号住居 確認状況（北から）



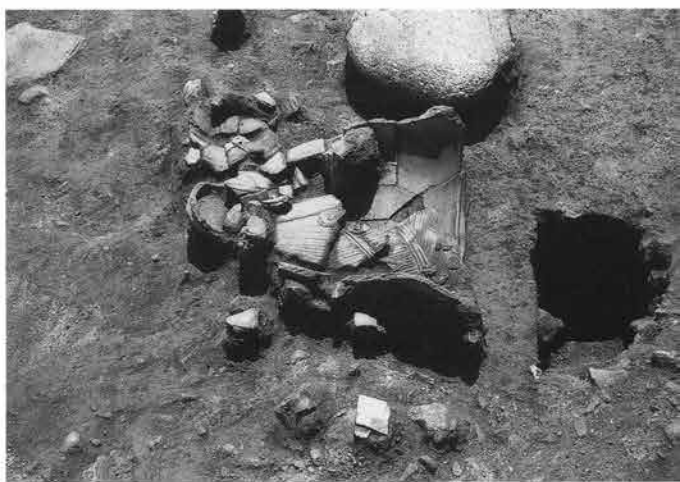
7 20区113号住居 遺物出土状況（北から）



1 20区113号住居 全景（北から）



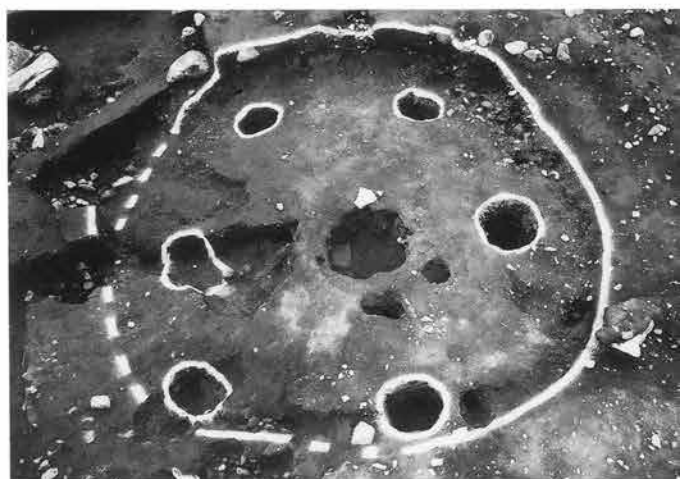
2 20区113号住居 遺物出土状況（東から）



3 20区113号住居 遺物出土状況（西から）



4 20区113号住居 炉内の焼土と埋没状況（北から）



5 20区113号住居 掘り方全景（北東から）





1 20区116号住居 全景（北東から）



2 20区116号住居 確認状況（東から）



3 20区116号住居 炉検出状況（西から）



4 20区116号住居 炉の調査（西から）



5 20区116号住居 炉全景（東から）



1 20区118号住居 全景（北東から）



2 20区118号住居 遺物出土状況（北東から）



3 20区118号住居 遺物出土状況（北東から）



4 20区118号住居 炉全景（北から）



5 20区118号住居 掘り方全景（北東から）



1 20区119号住居 全景 (北から)



2 20区119号住居 遺物出土状況 (北から)



3 20区119号住居 埋没土 (南から)



4 20区119号住居 炉全景 (東から)



5 20区119号住居 旧炉の埋設土器を確認 (西から)



1 20区120号住居 全景 (東から)



2 20区119号住居 埋甕の確認状況 (東から)



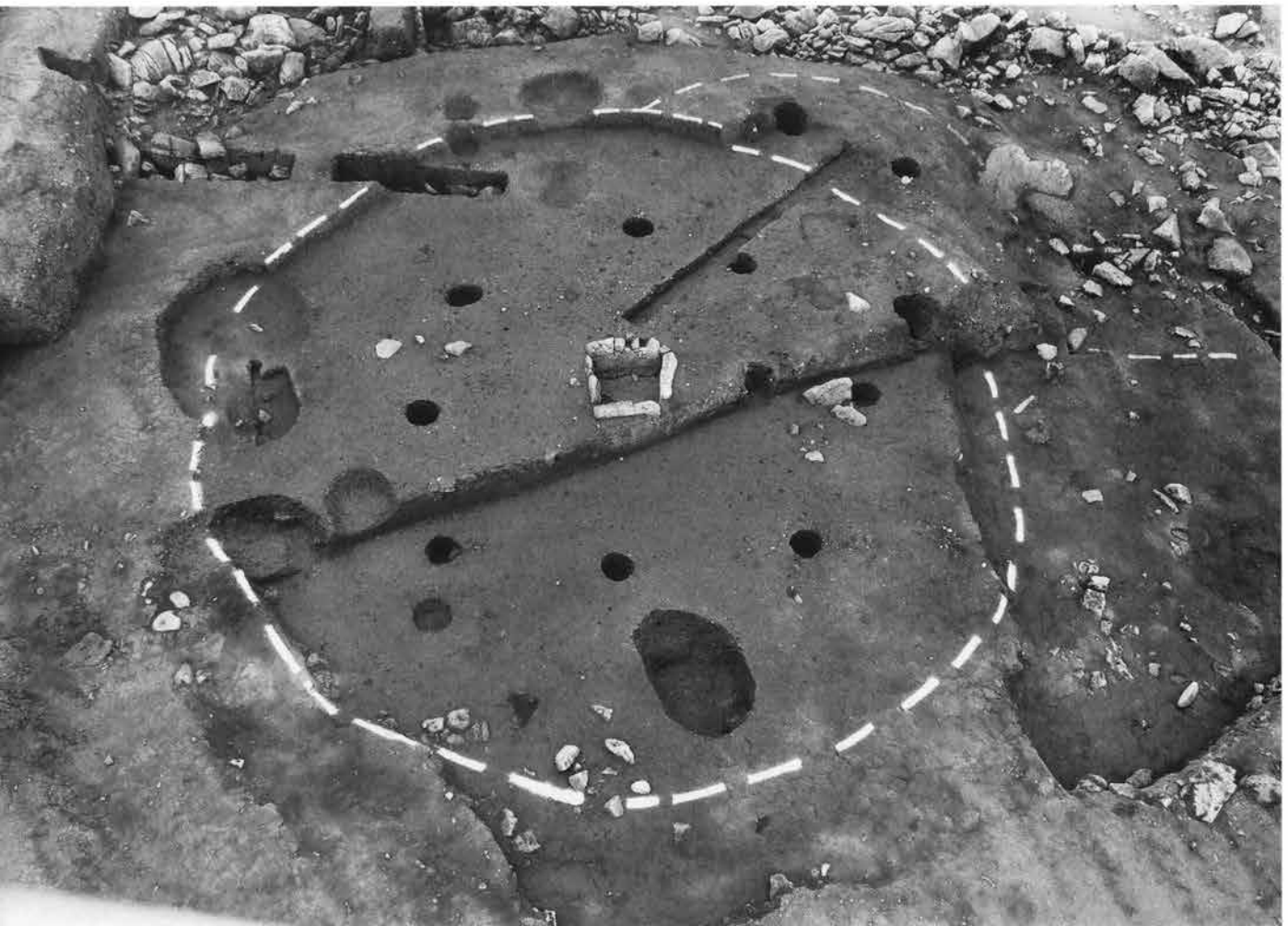
3 20区119号住居 埋甕 (東から)



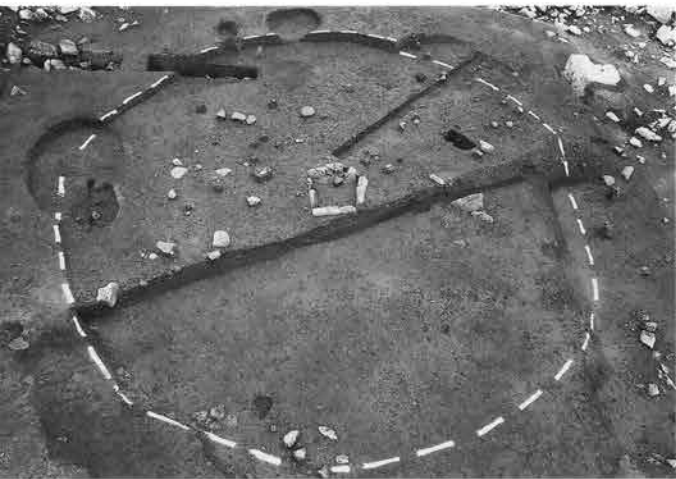
4 20区120号住居 炉検出状況 (北から)



5 20区120号住居 炉全景 (東から)



1 20区122号住居 全景 (東から)



2 20区122号住居 遺物出土状況 (東から)



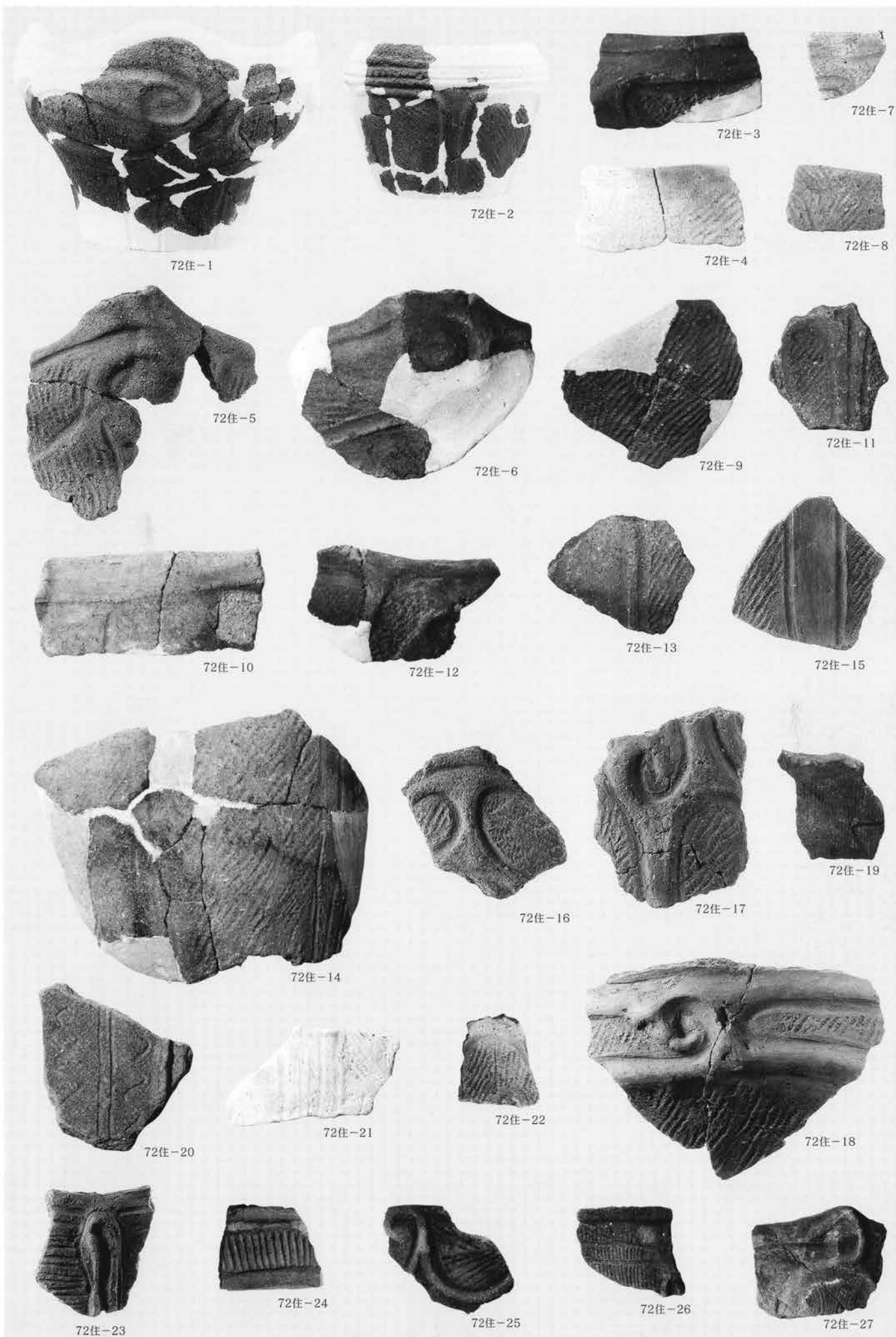
3 20区122号住居 炉全景 (南東から)



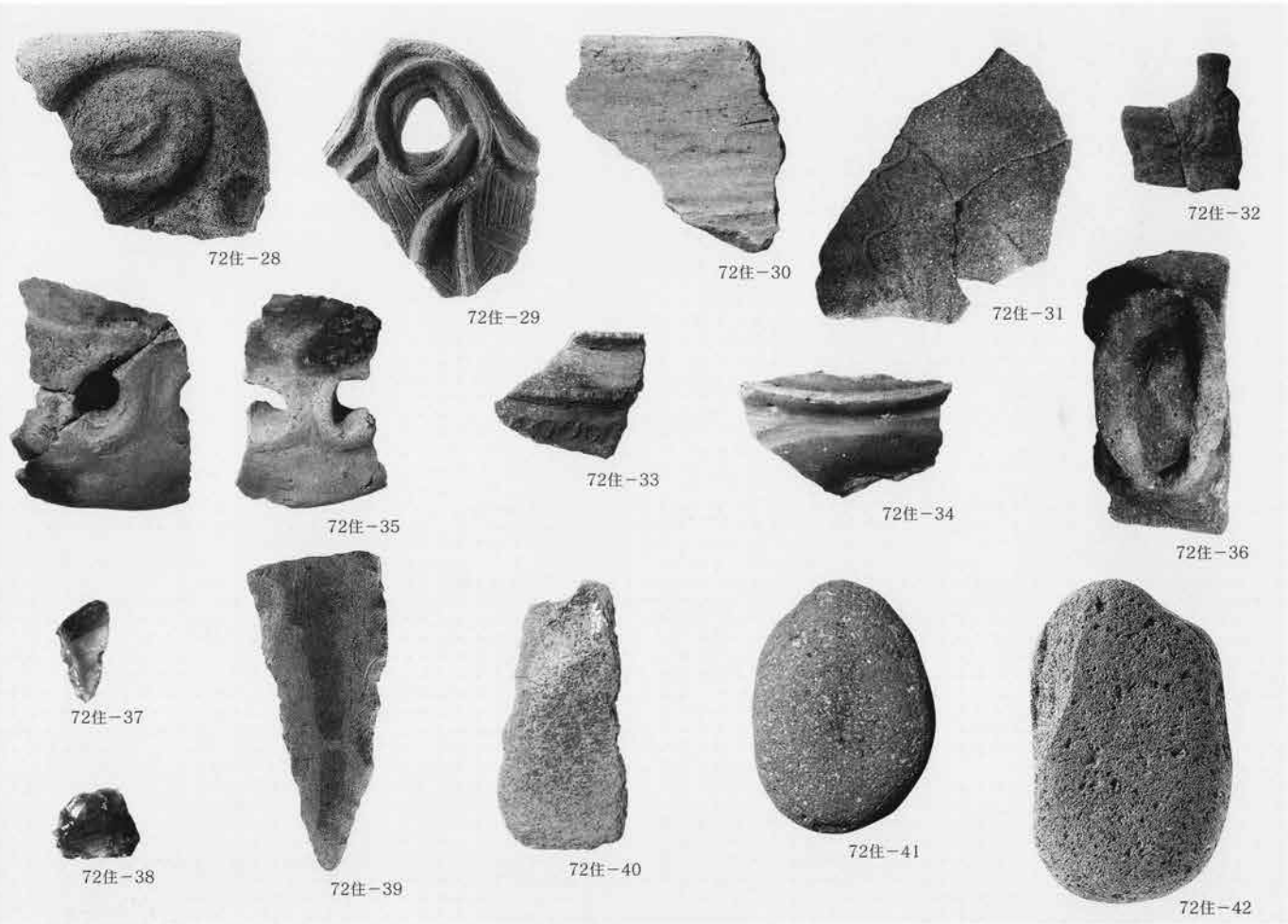
4 20区122号住居 黒曜石大型剥片の出土状況 (南から)



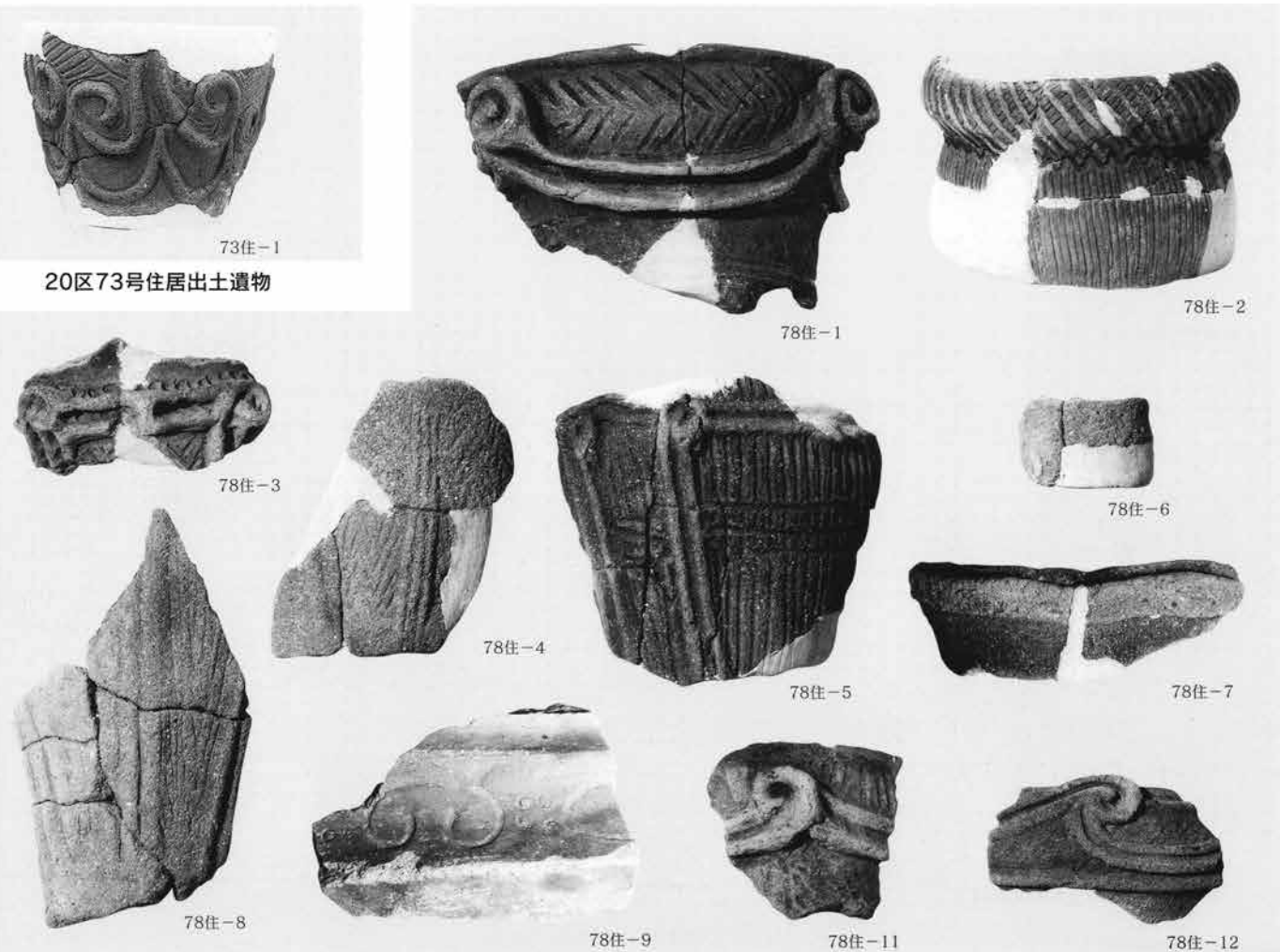
5 20区122号住居 黒曜石大型剥片の出土状況 (南から)



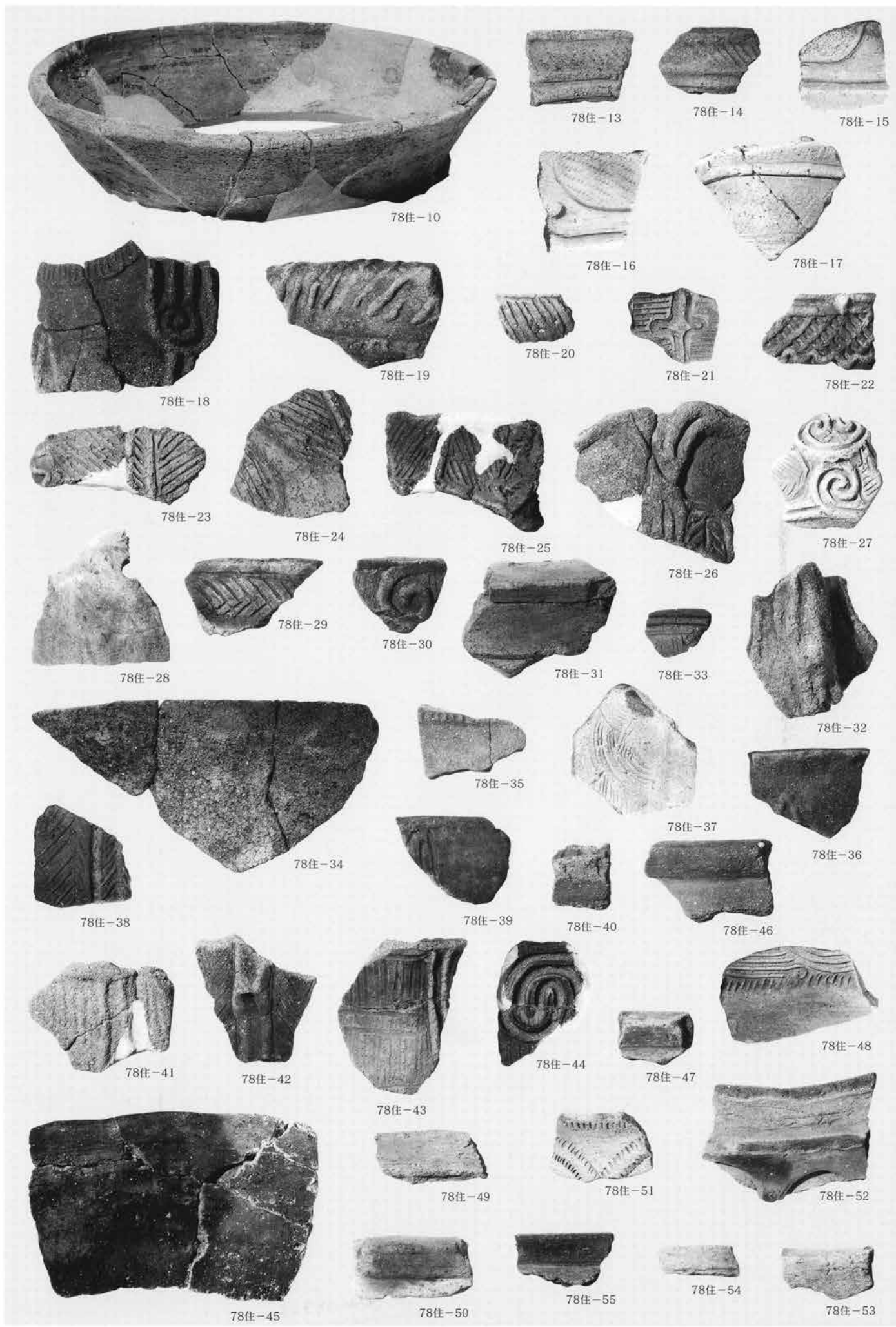
20区72号住居出土遺物 (1)



20区72号住居出土遺物 (2)

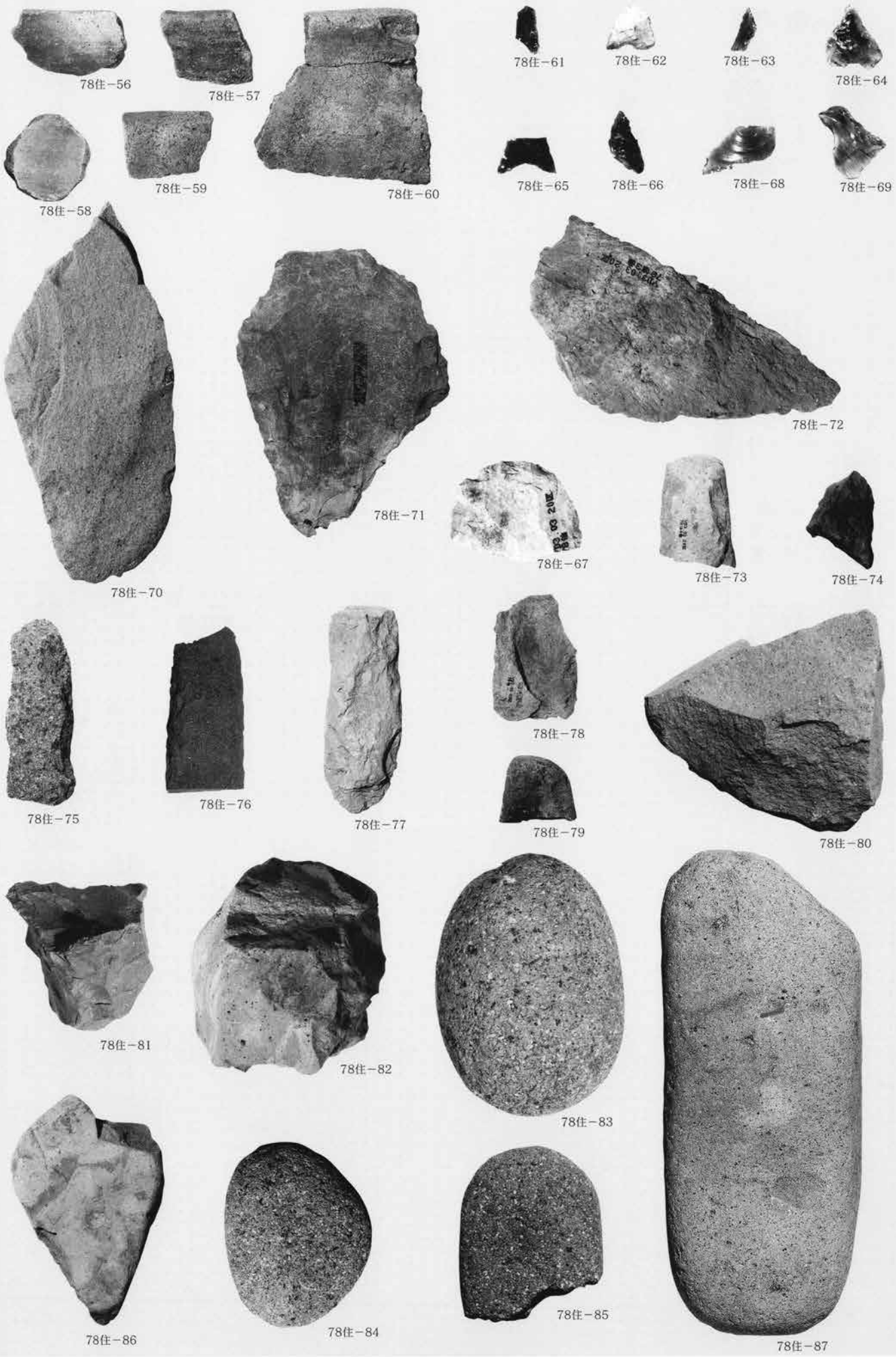


20区78号住居出土遺物 (1)

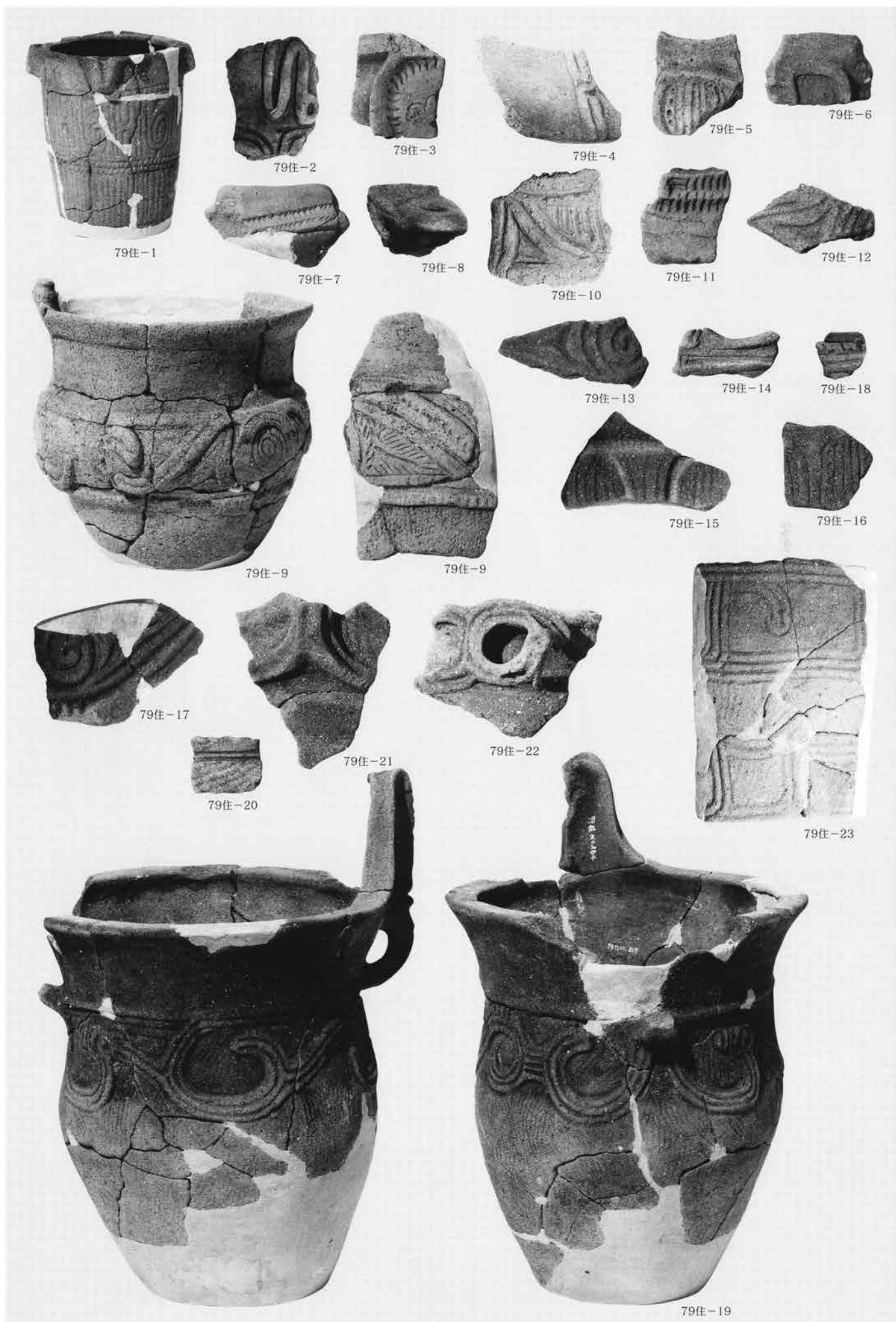


20区78号住居出土遺物 (2)

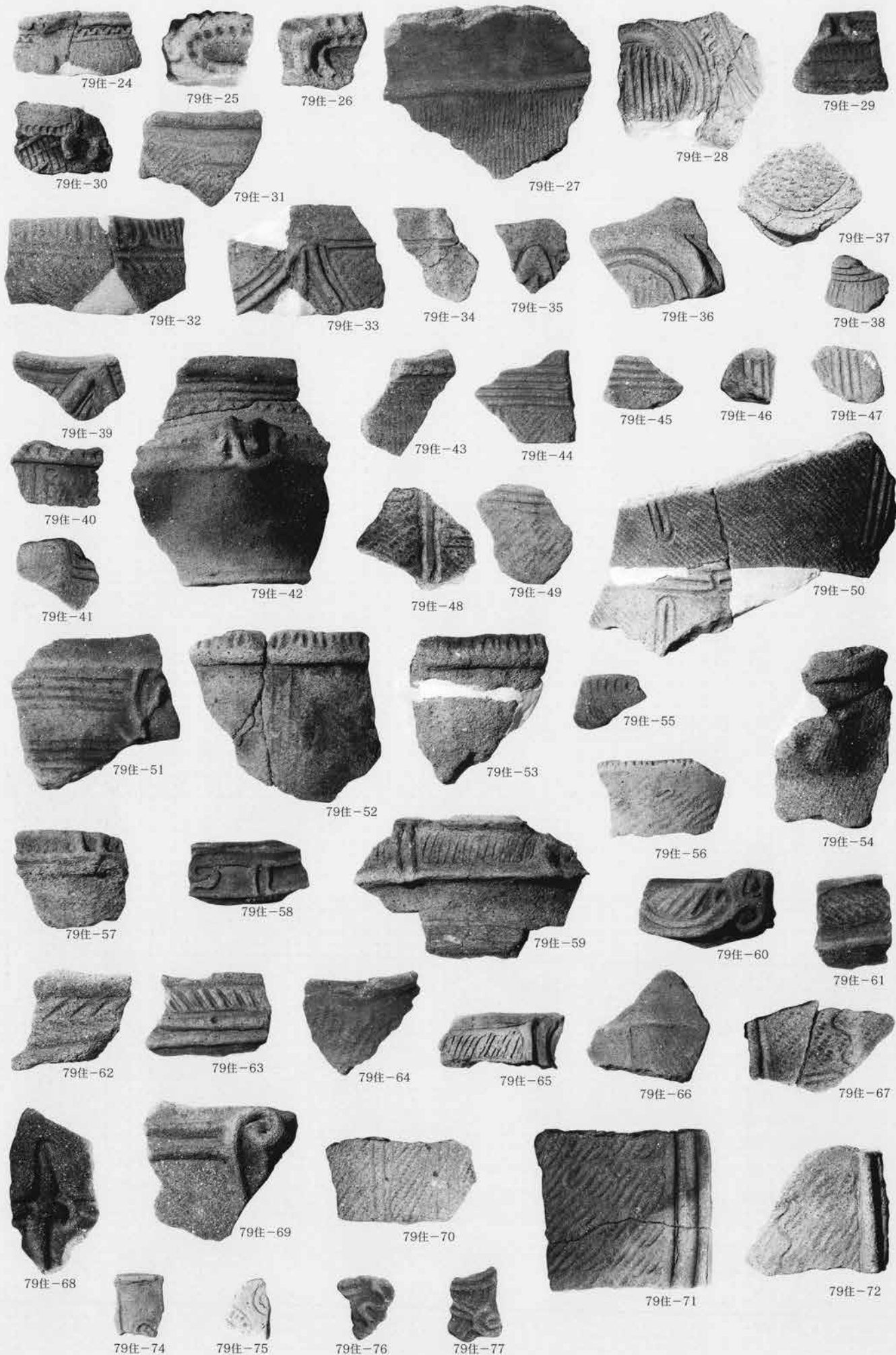




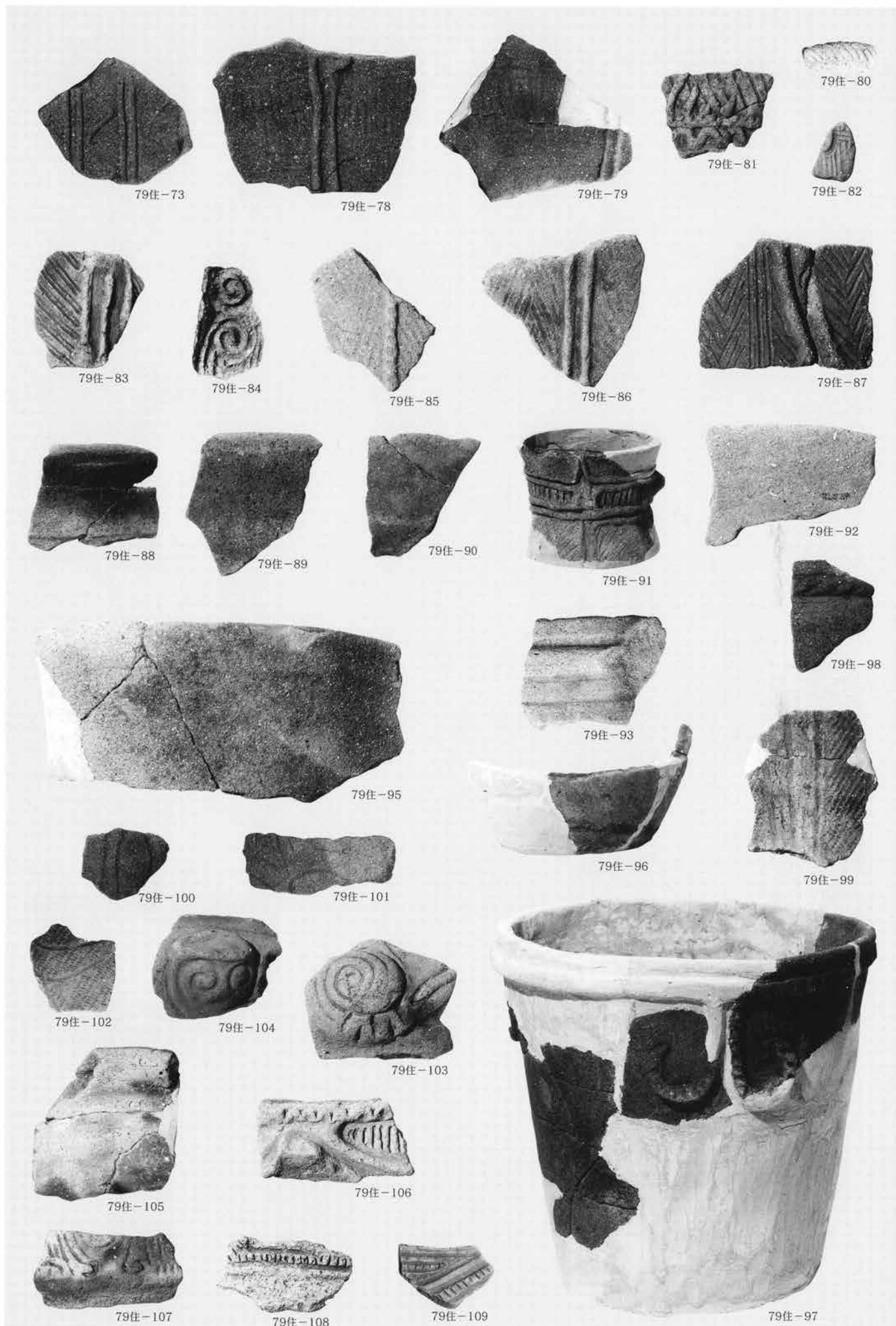
20区78号住居出土遺物 (3)



20区79号住居出土遺物 (1)



20区79号住居出土遺物 (2)



20区79号住居出土遺物 (3)



79住-111



79住-113



79住-110



79住-112



79住-114



79住-115



79住-116



79住-117



79住-118



79住-119



79住-120



79住-121



79住-122



79住-123



79住-124



79住-125



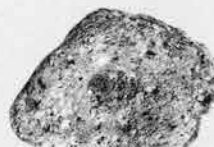
79住-126



79住-127



79住-128



79住-132



79住-131



79住-133



79住-134



79住-135



79住-136



79住-137



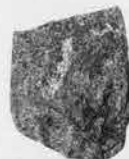
79住-138



79住-140



79住-139



79住-141



79住-145



79住-144



79住-146



79住-147



79住-129



79住-130



79住-143



79住-142



80住-1



80住-2



80住-3



80住-4



80住-6



80住-7



80住-8



80住-9



80住-5



80住-10



80住-11



80住-12



80住-13



80住-15



80住-14



80住-17



80住-16



80住-18



80住-19



80住-21



80住-22



80住-23



80住-24



80住-25



80住-26



80住-27



80住-29



80住-30



80住-31



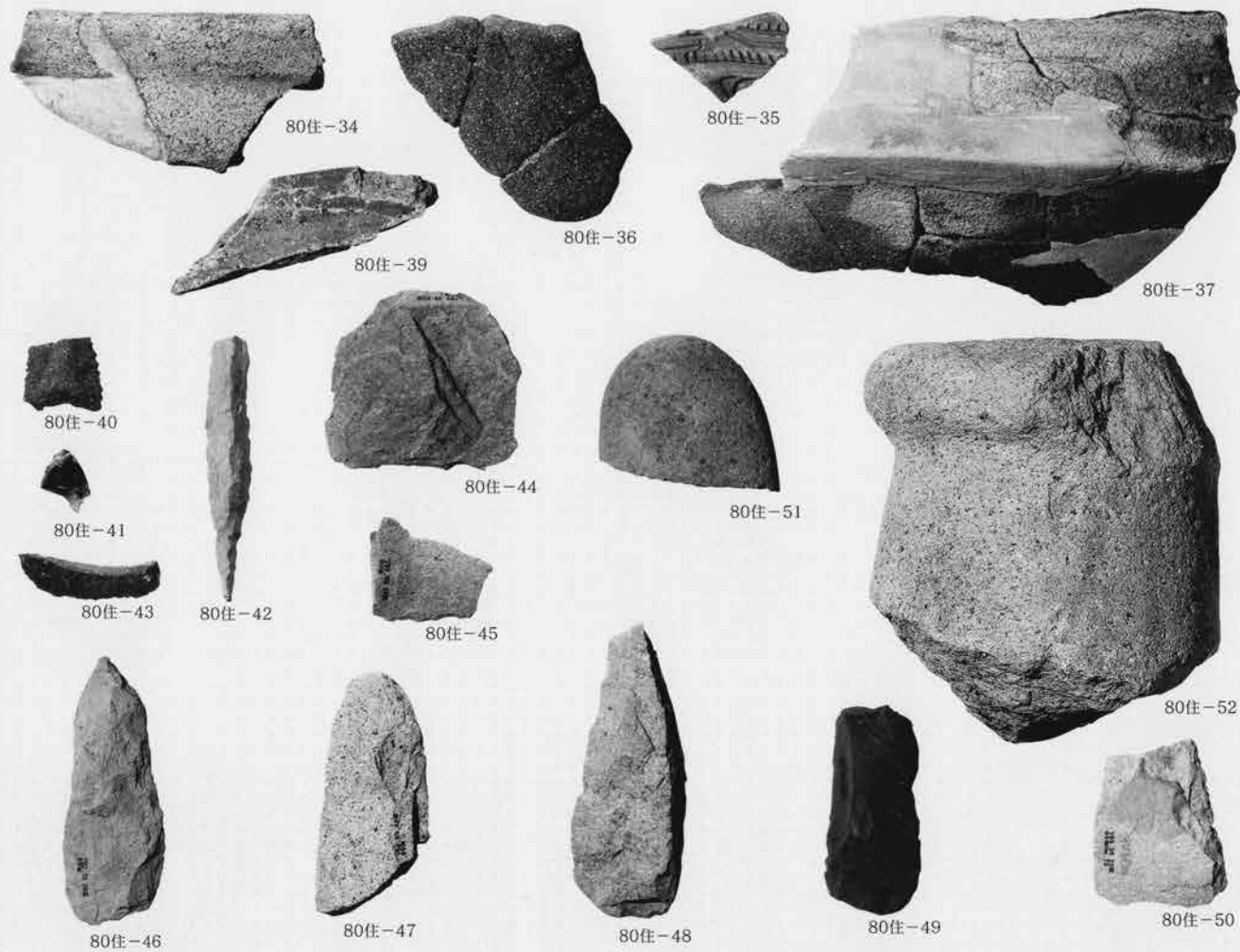
80住-28



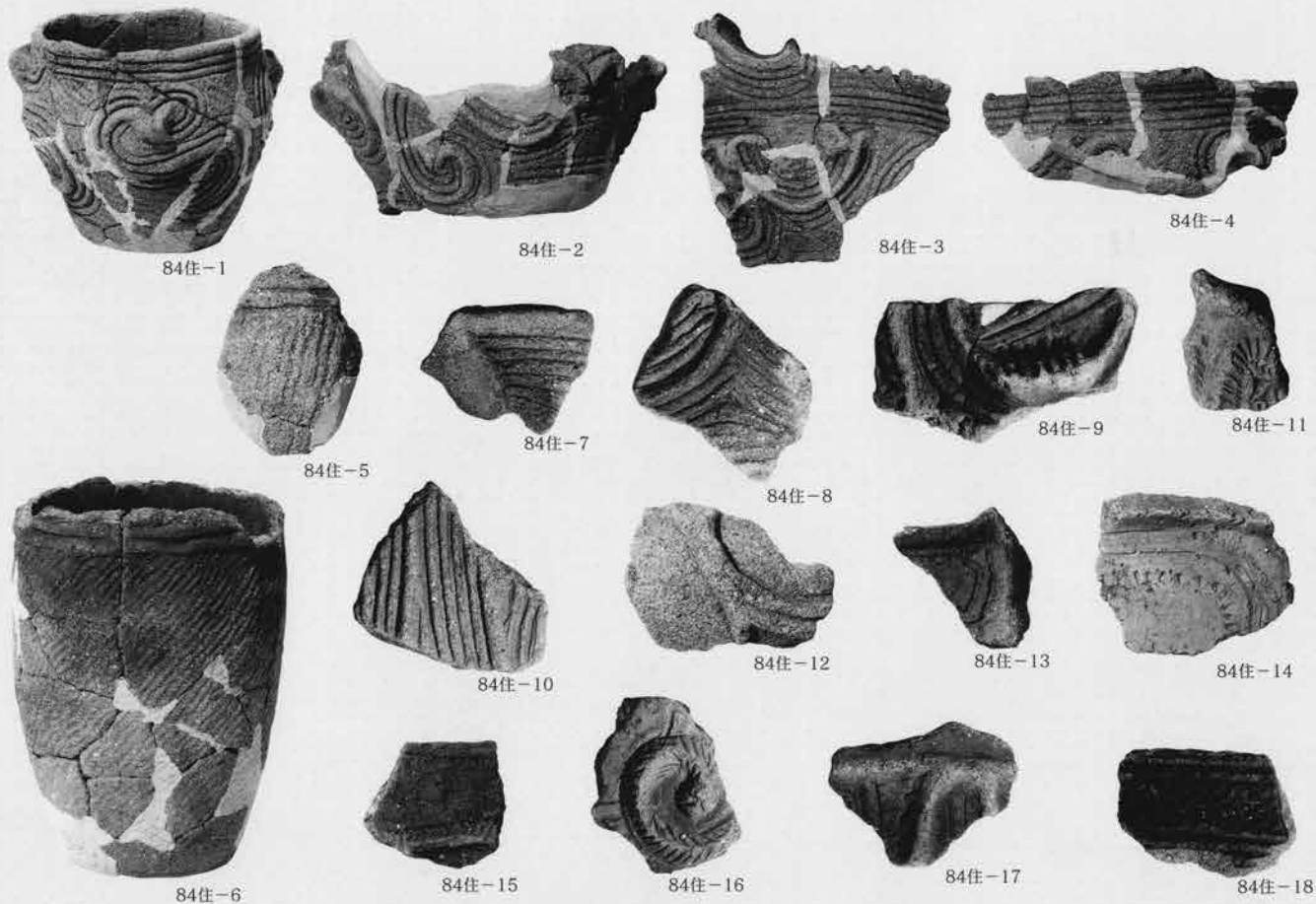
80住-32



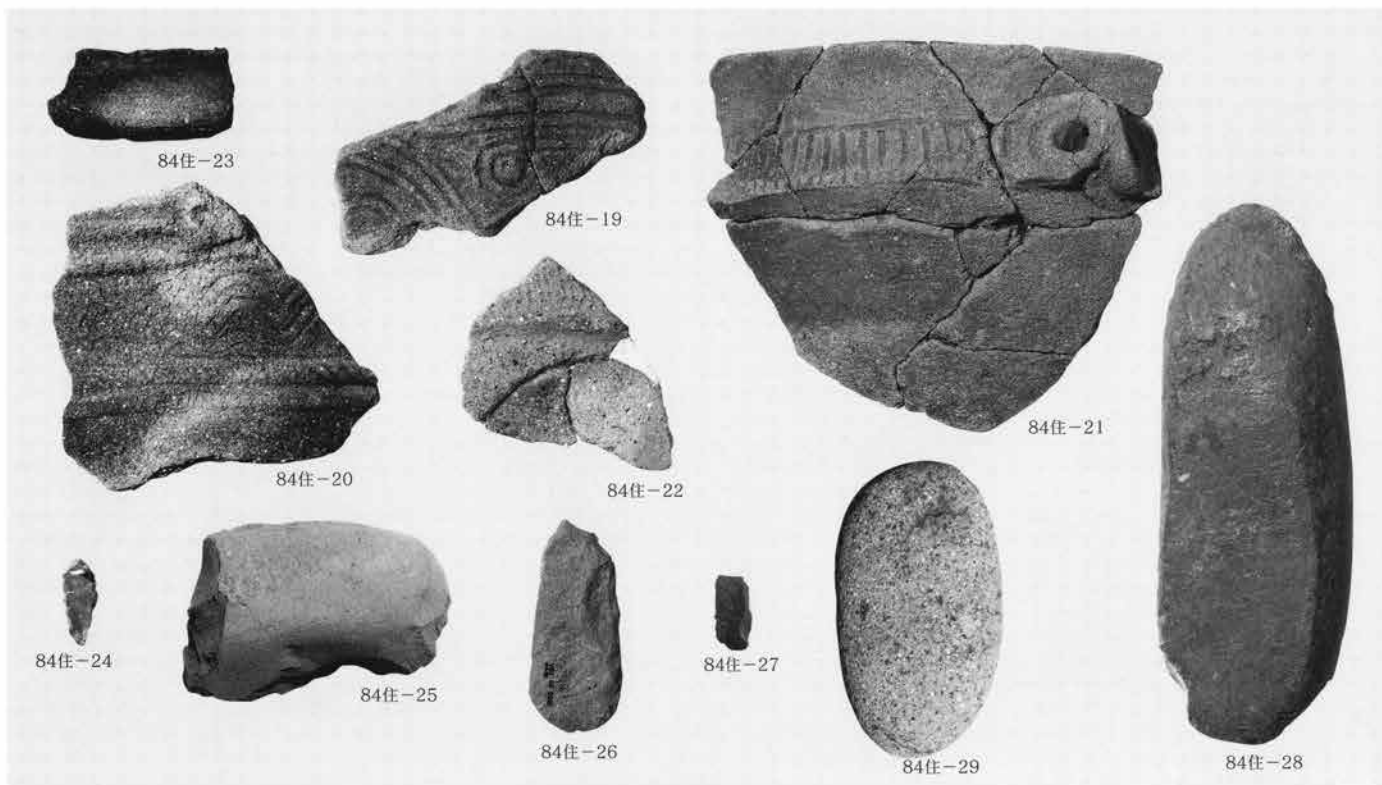
80住-33



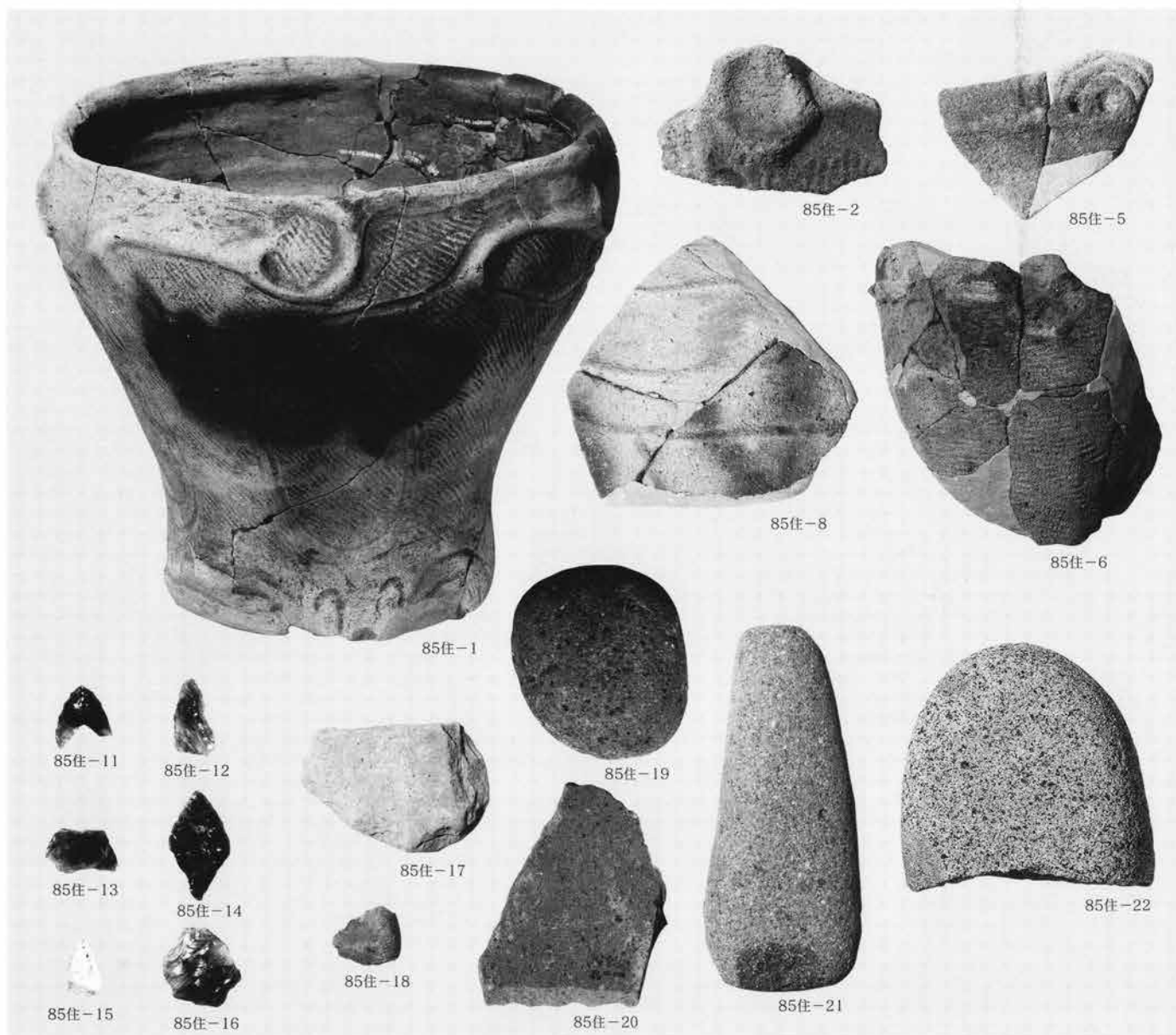
20区80号住居出土遺物 (2)



20区84号住居出土遺物 (1)



20区84号住居出土遺物 (2)

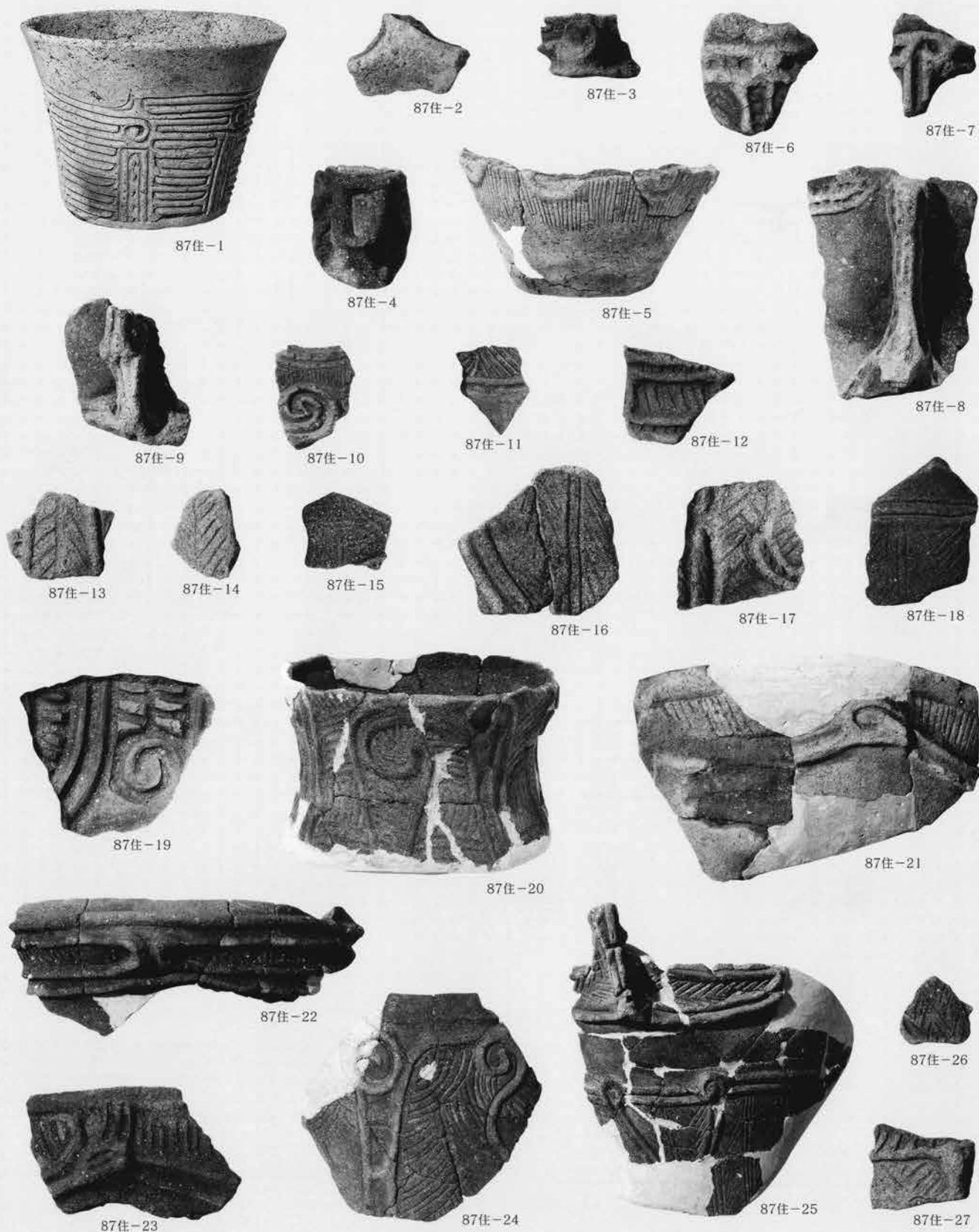


20区85号住居出土遺物

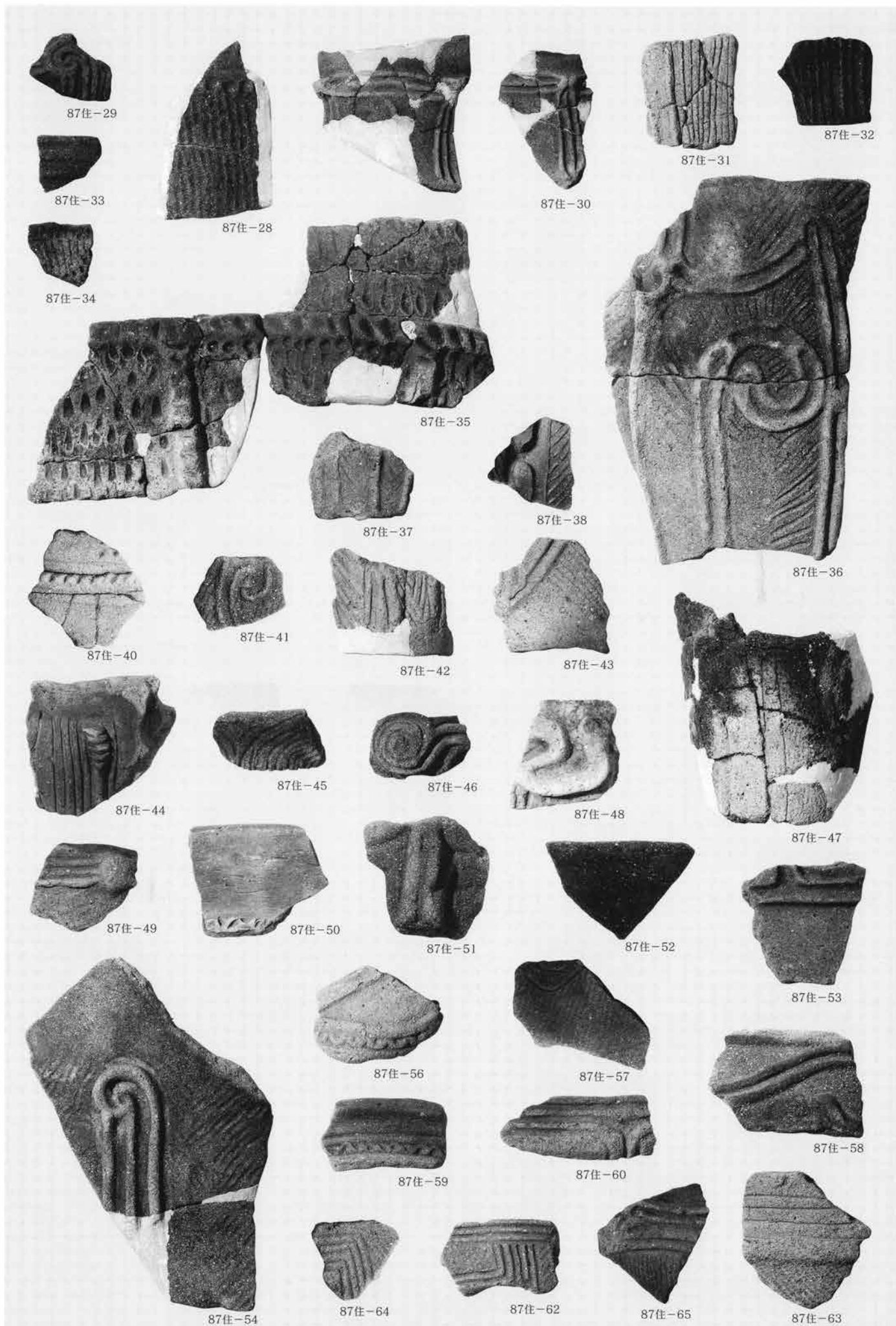




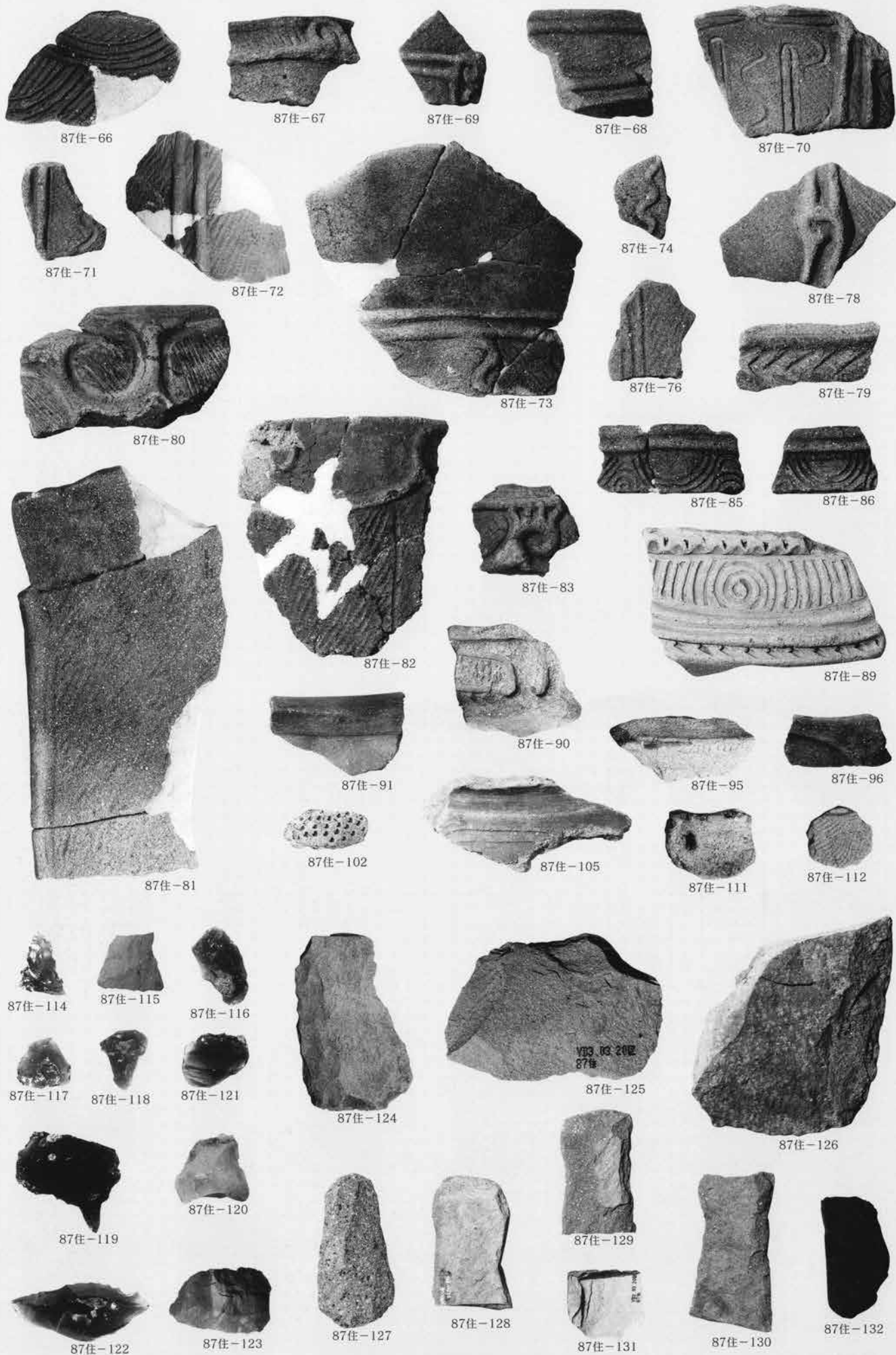
20区86号住居出土遺物



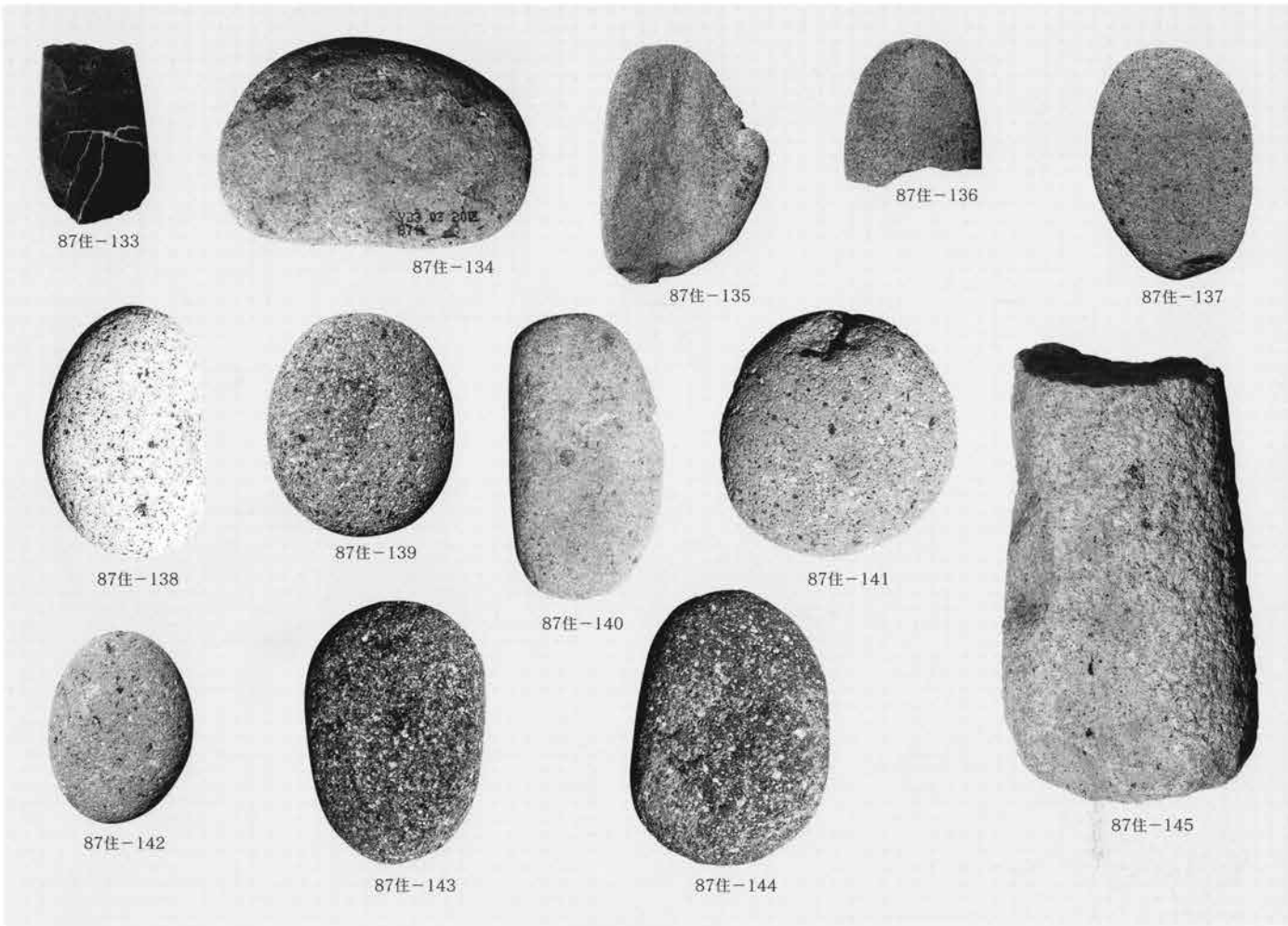
20区87号住居出土遺物 (1)



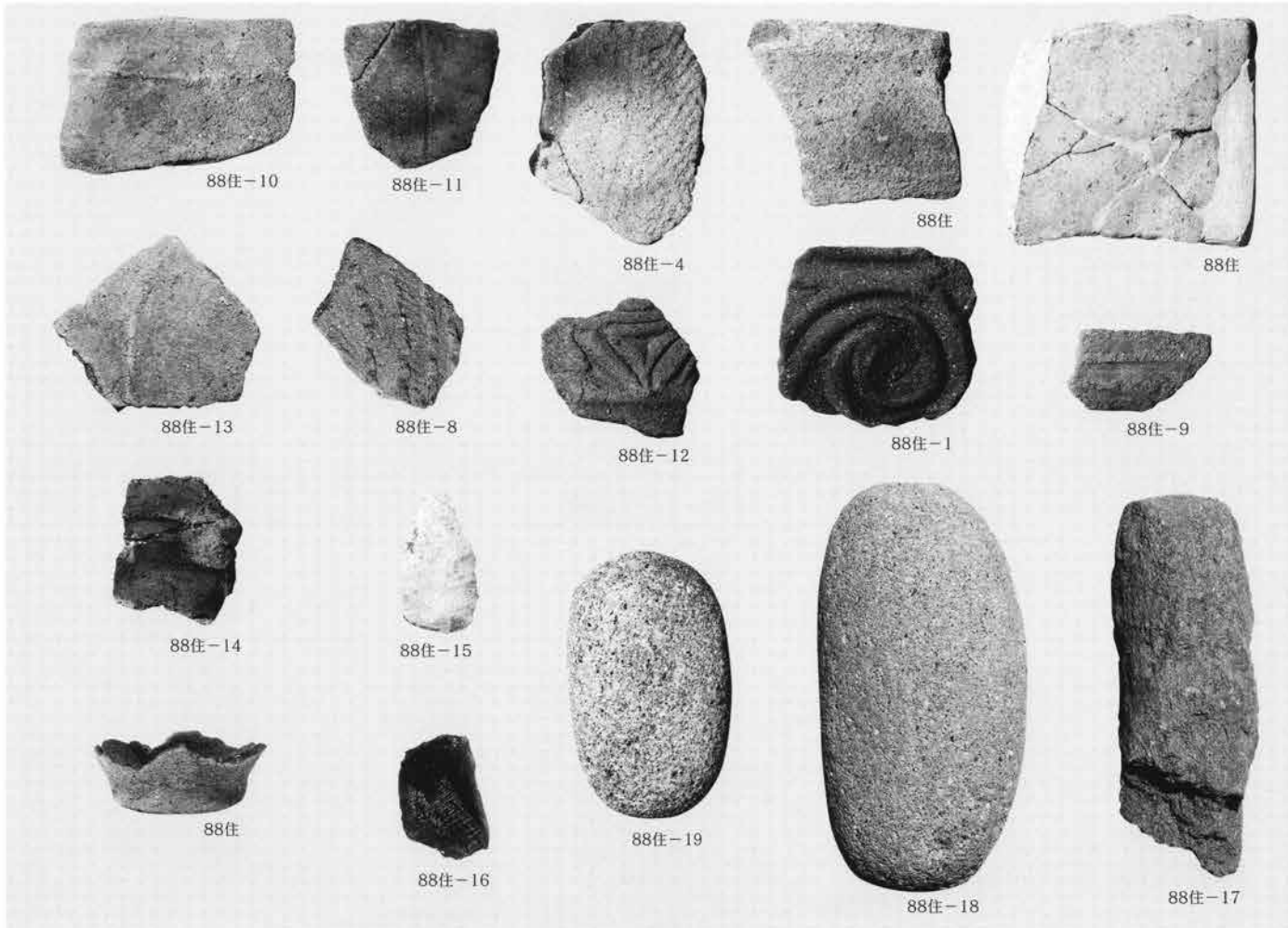
20区87号住居出土遺物 (2)



20区87号住居出土遺物 (3)



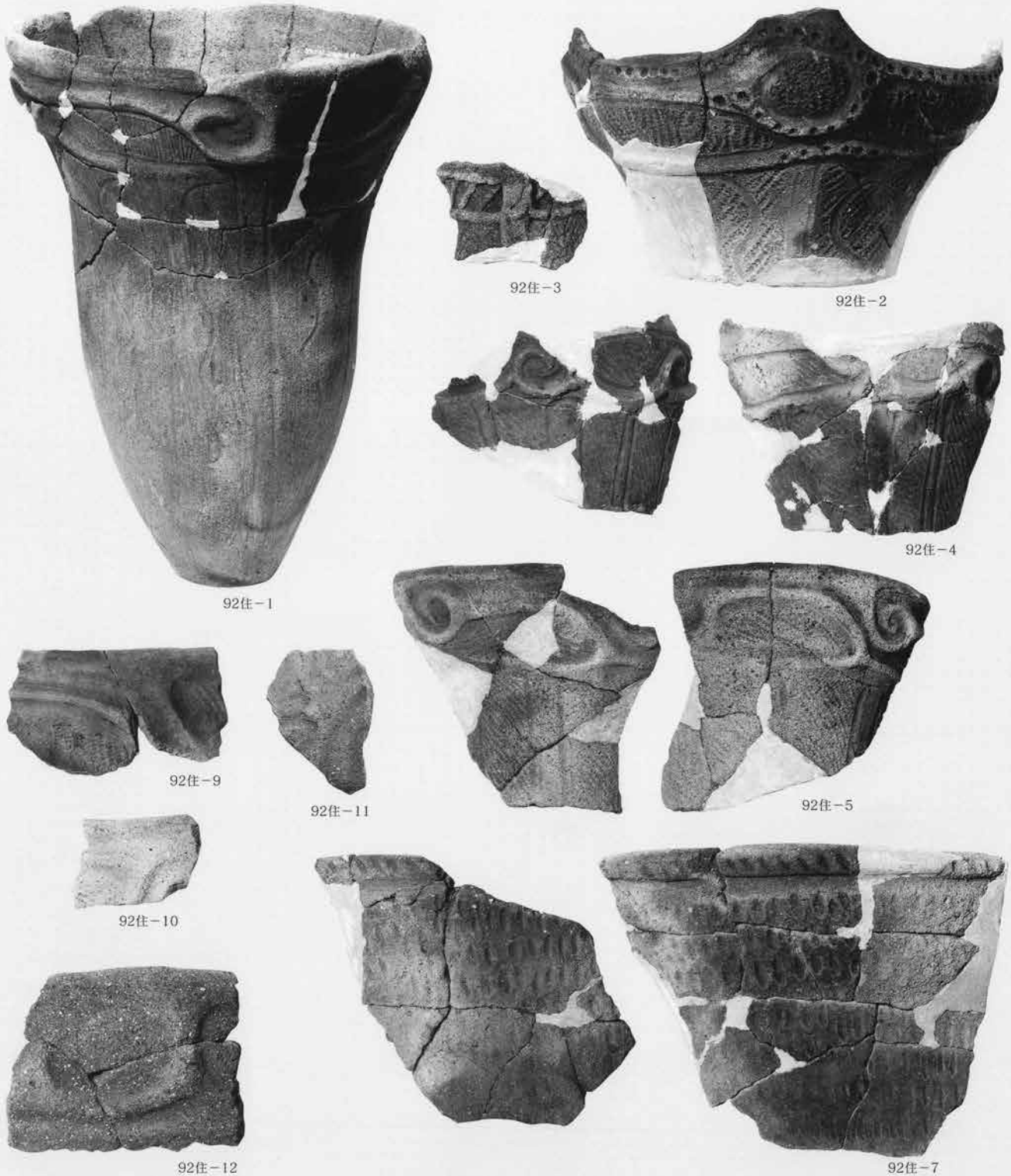
20区87号住居出土遺物 (4)



20区88号住居出土遺物



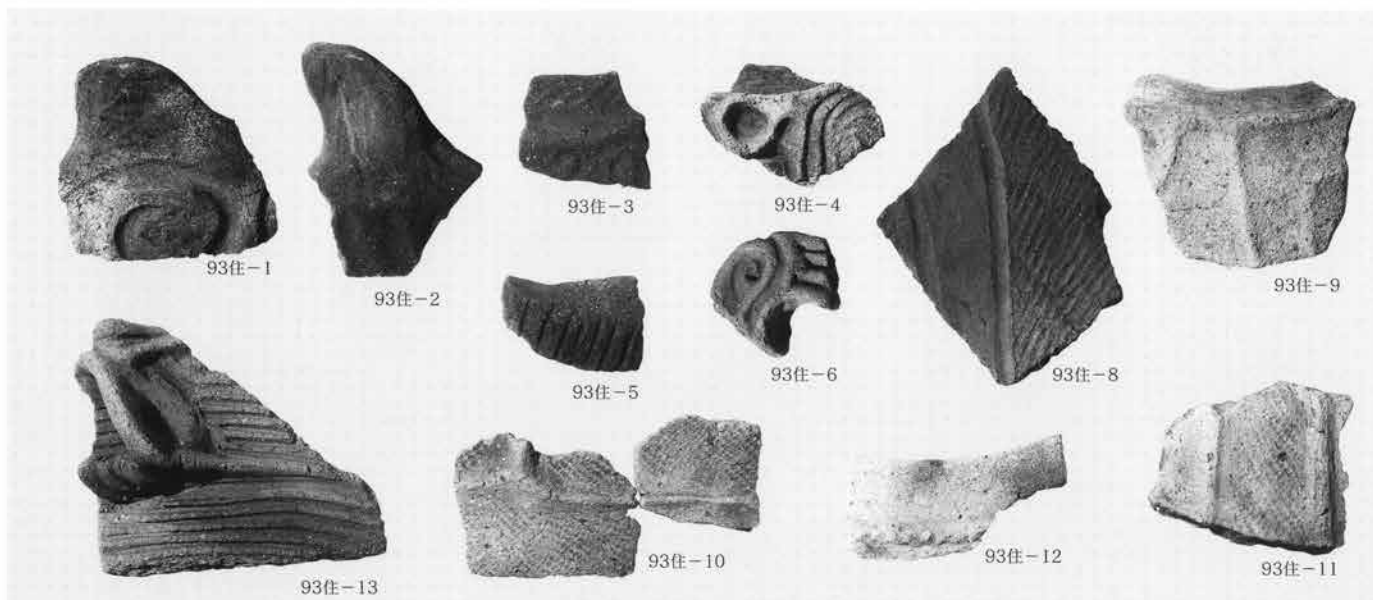
20区89号住居出土遺物



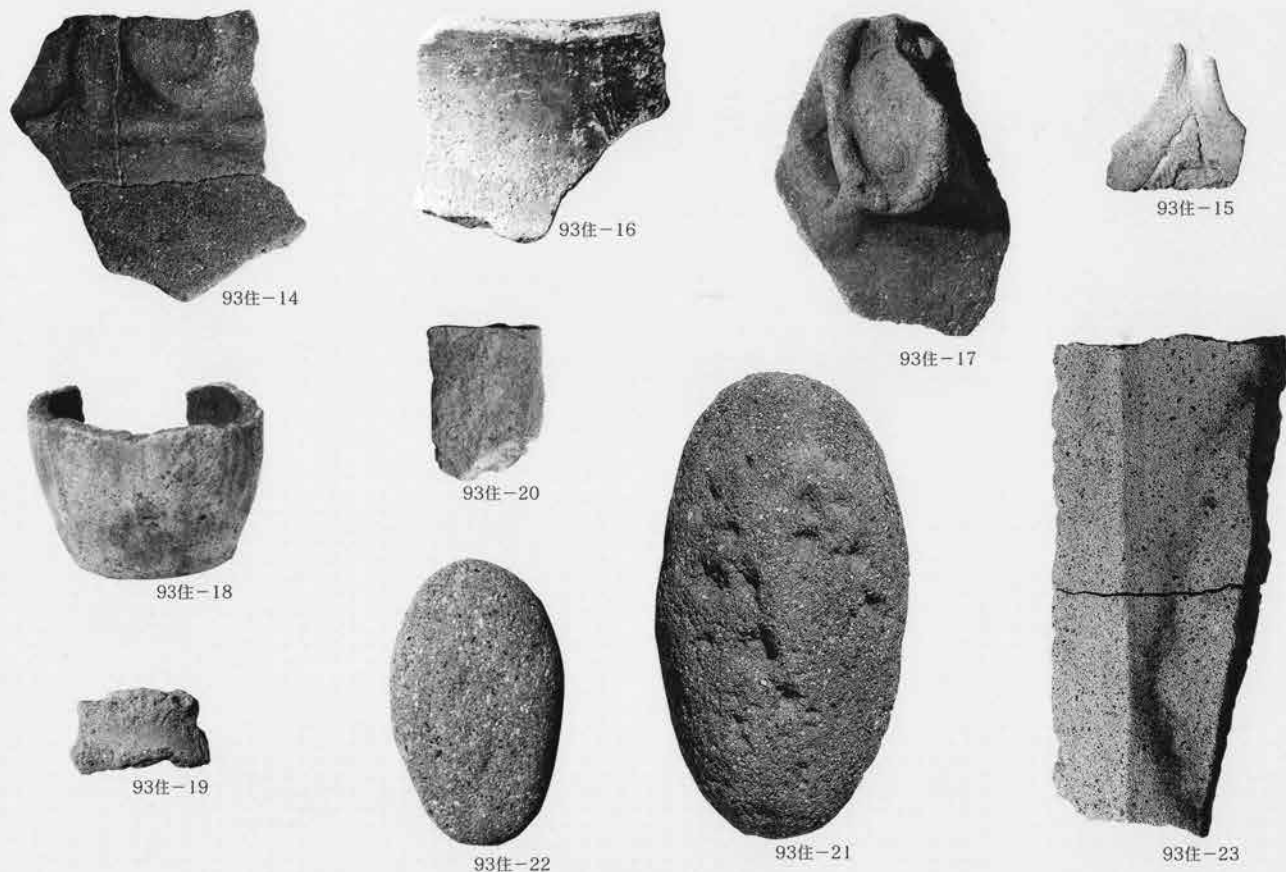
20区92号住居出土遺物 (1)



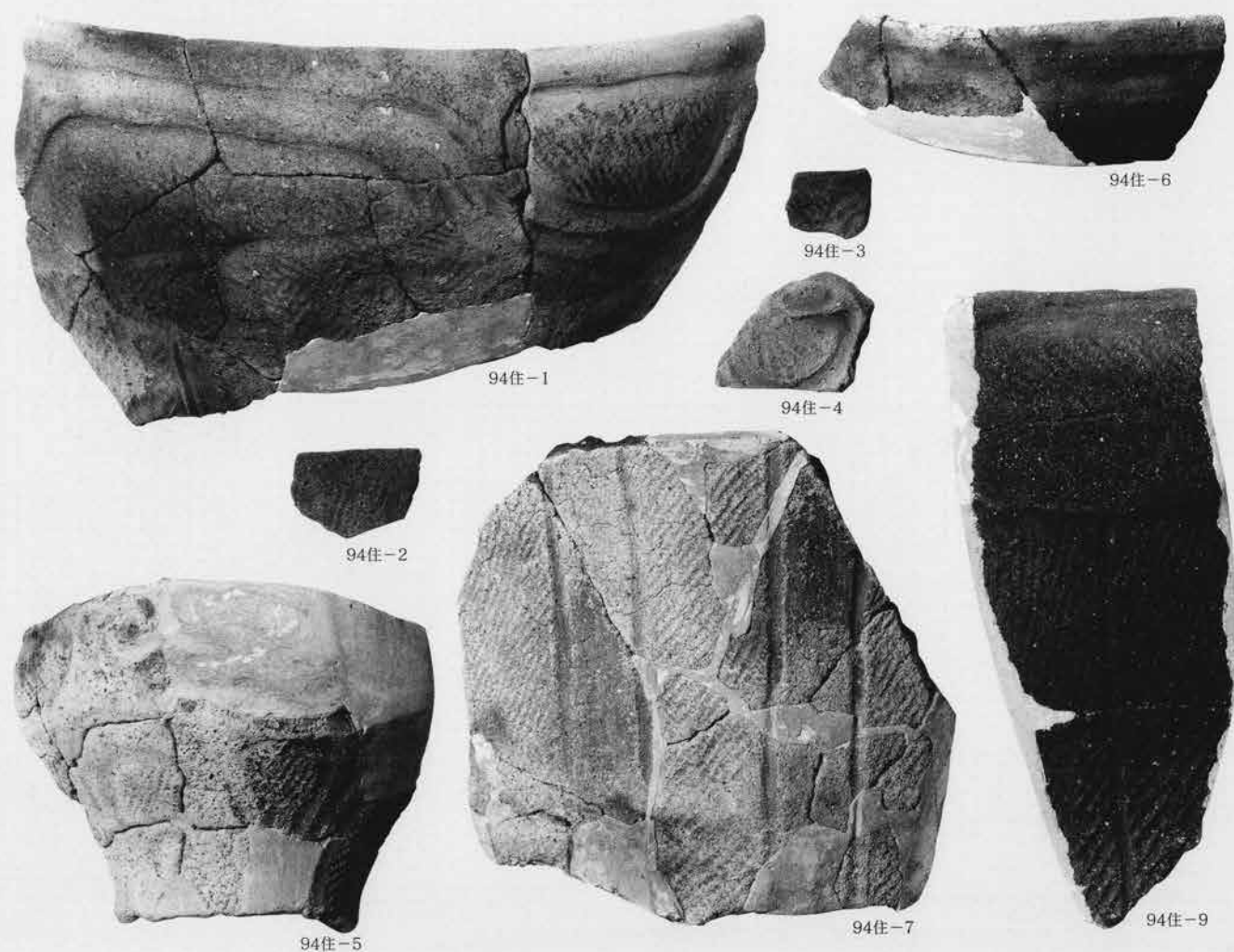
20区92号住居出土遺物 (2)



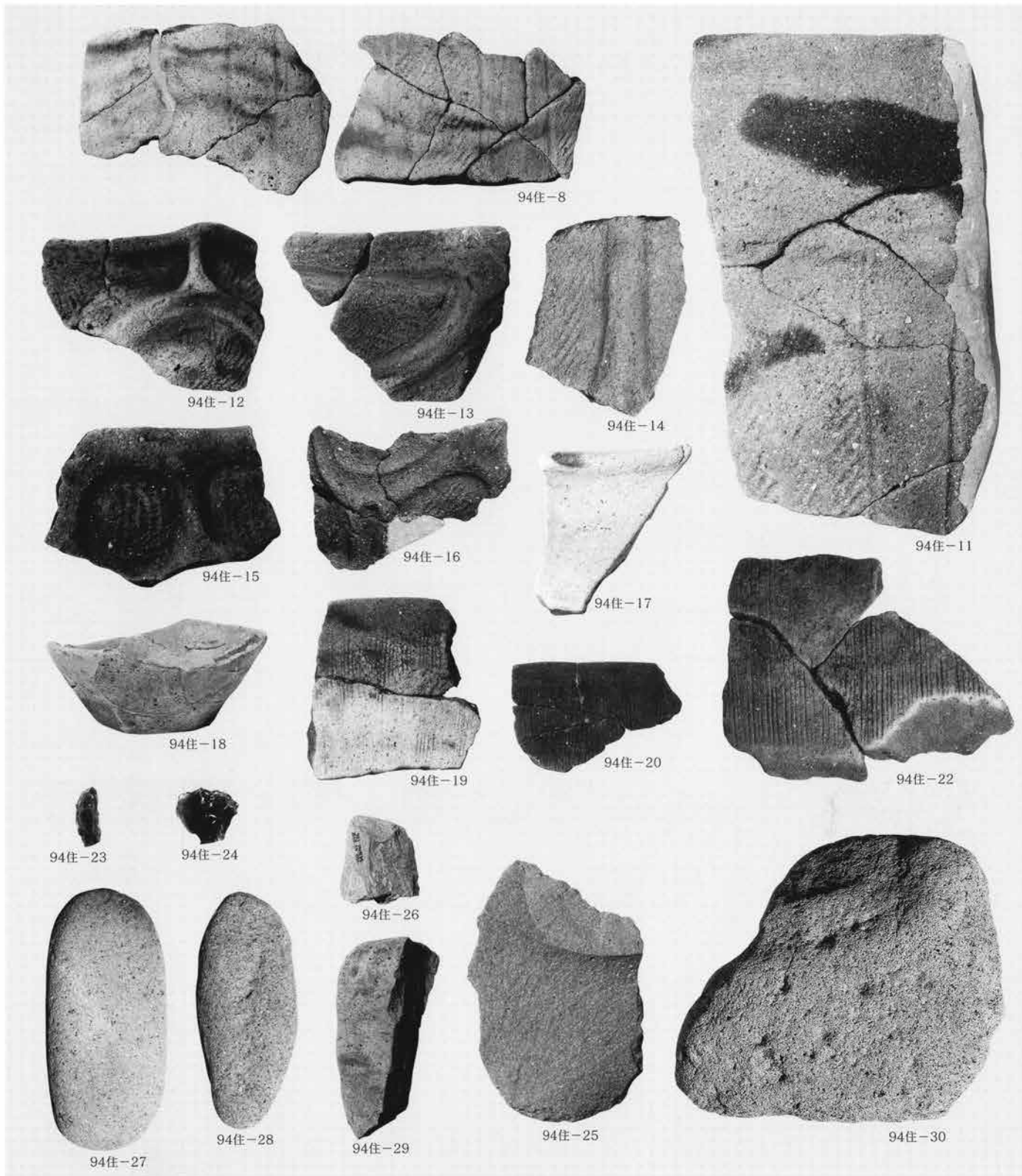
20区93号住居出土遺物 (1)



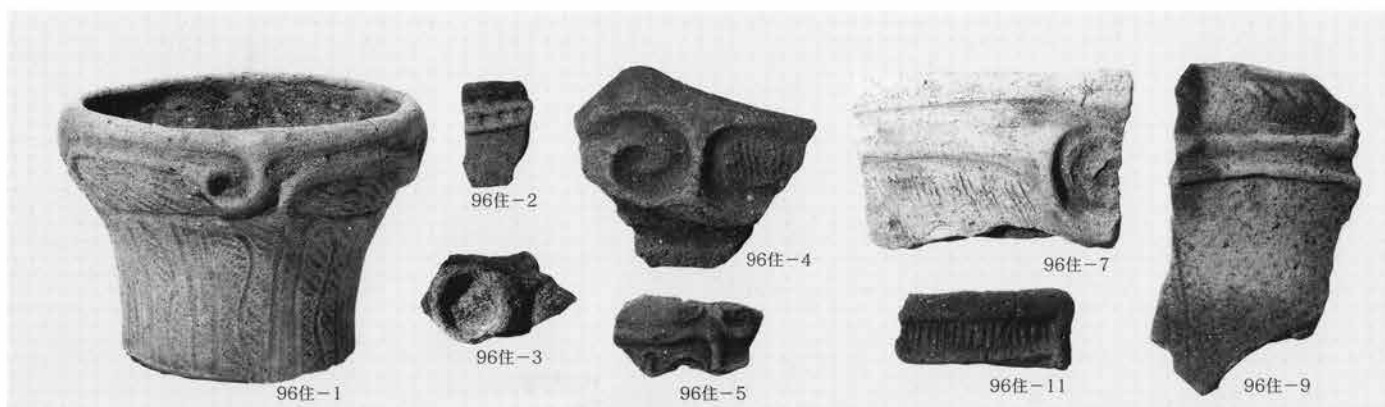
20区93号住居出土遺物 (2)



20区94号住居出土遺物 (1)



20区94住居出土遺物 (2)



20区96号住居出土遺物 (1)





96住-6



96住-8



96住-12



96住-14



96住-15



96住-10



96住-16



96住-18



96住-17



96住-19



96住-20



96住-21



96住-22



96住-24



96住-25



96住-23



96住-26



96住-27



96住-29



96住-28



96住-30



96住-31



96住-35



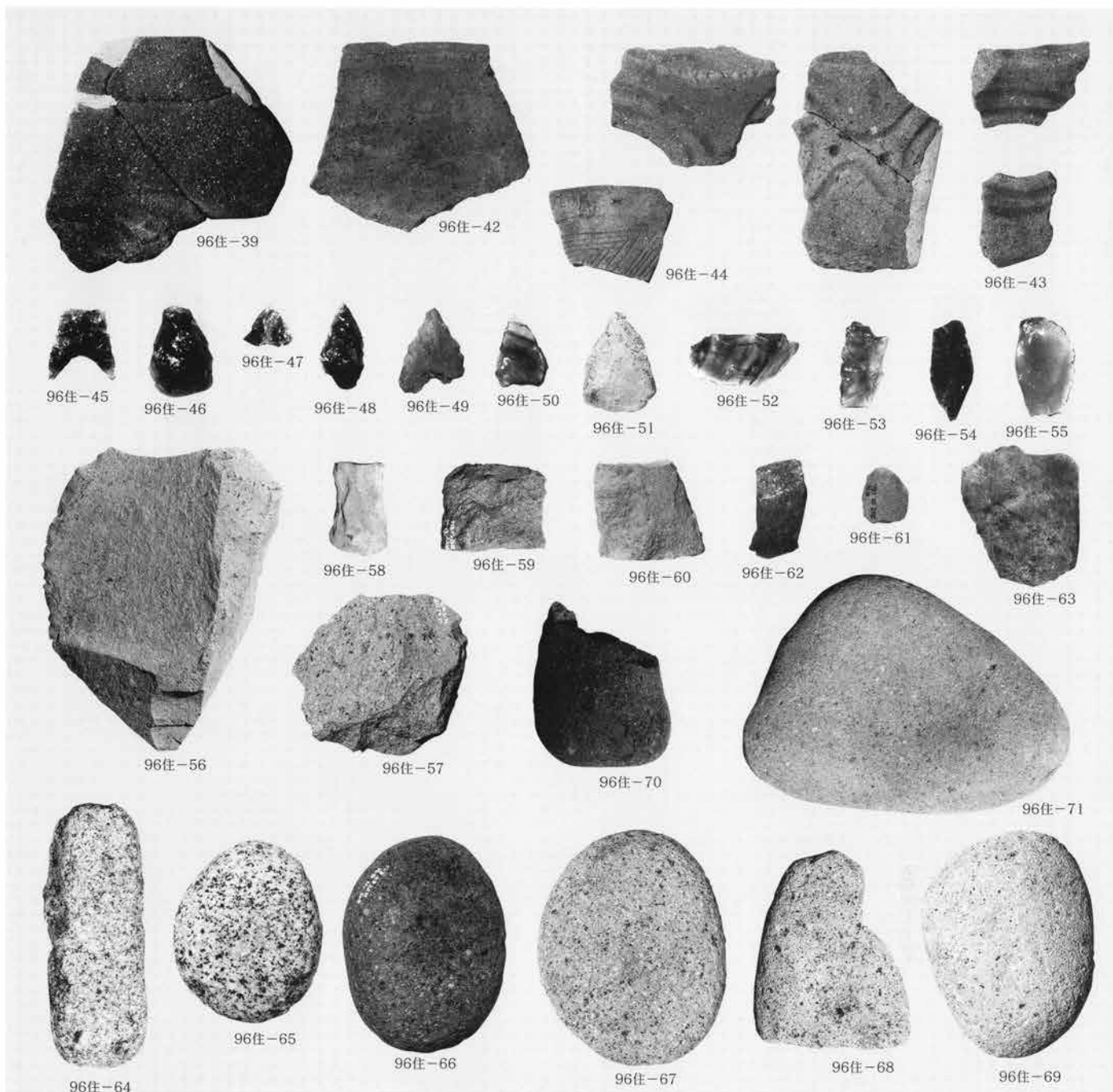
96住-34



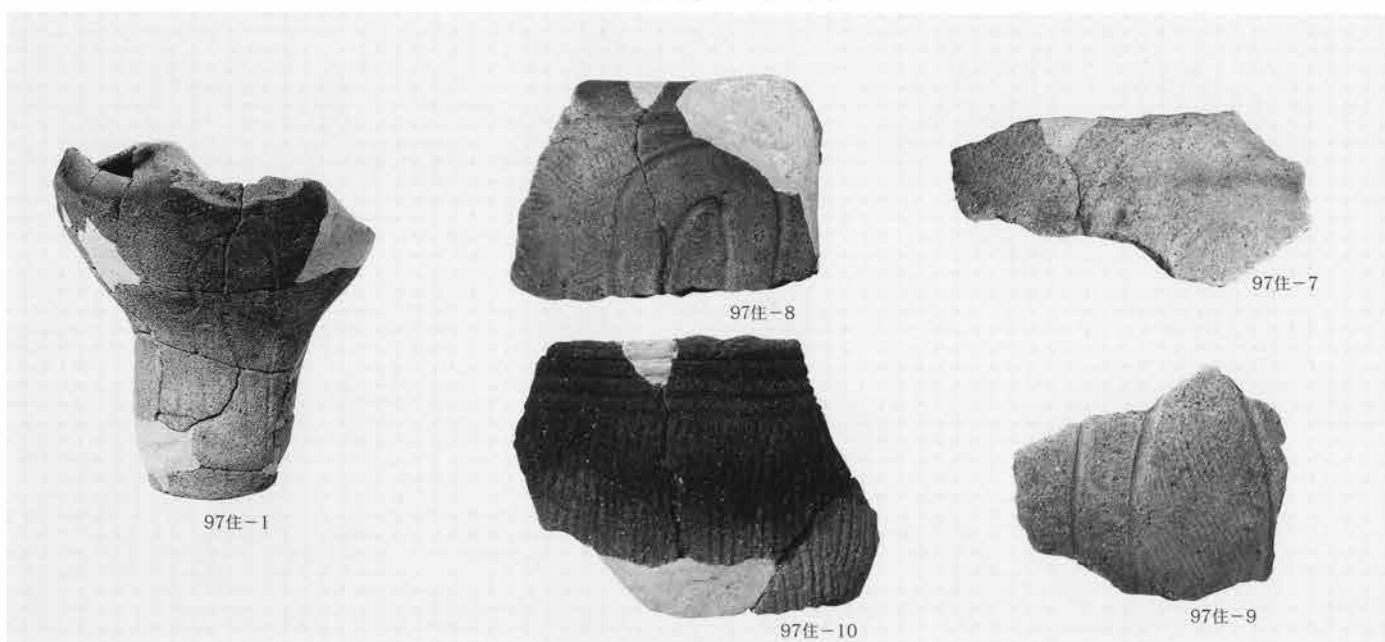
96住-33



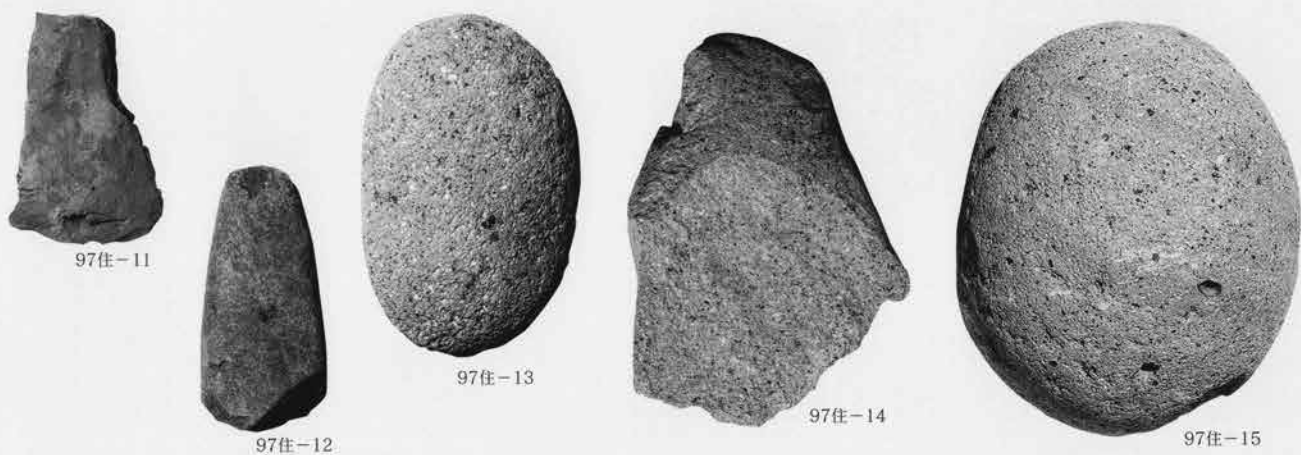
96住-36



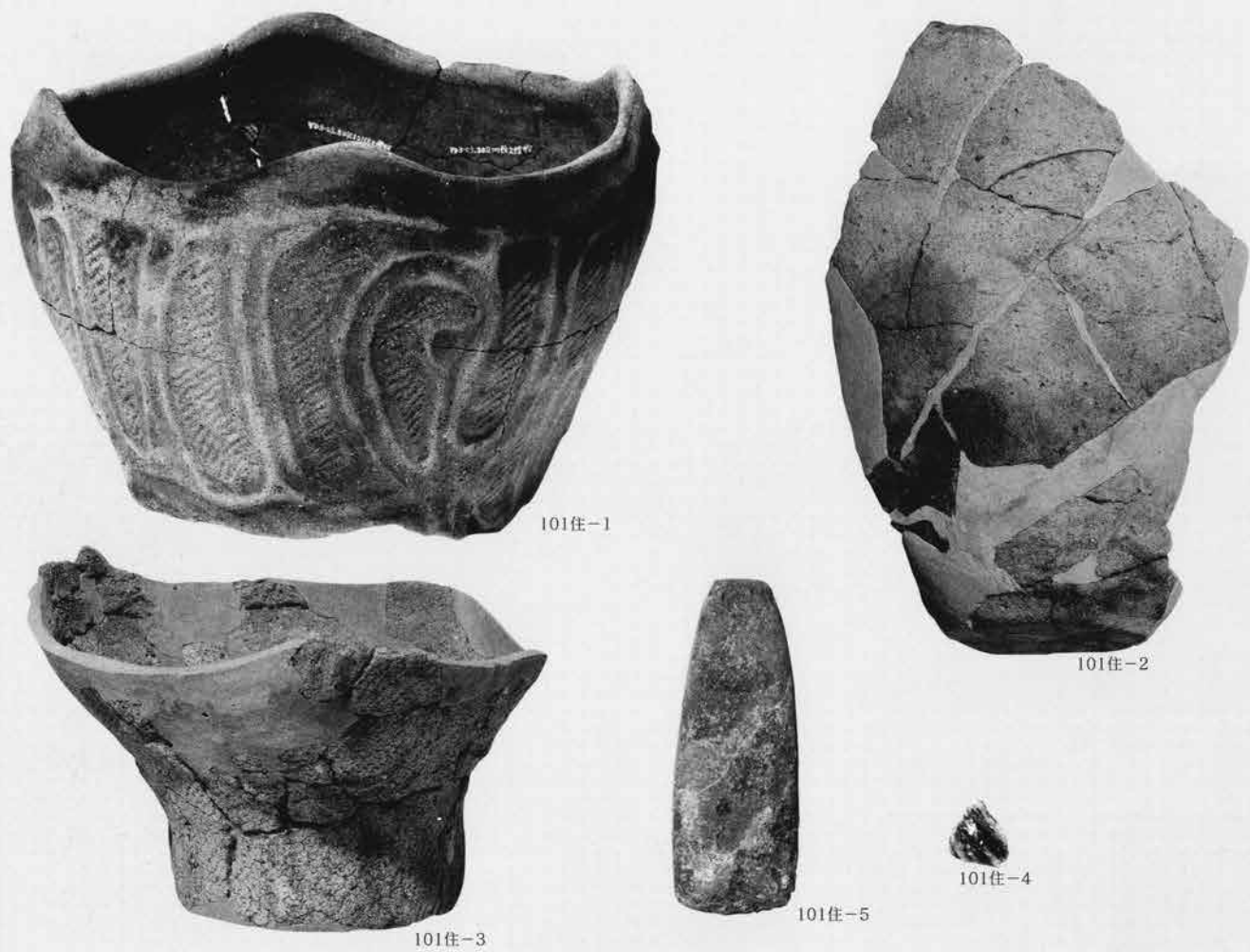
20区96号住居出土遺物 (3)



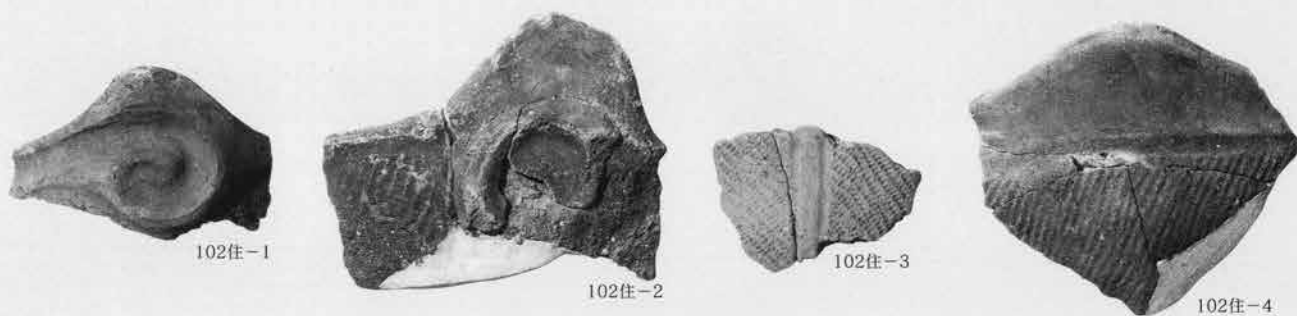
20区97号住居出土遺物 (1)



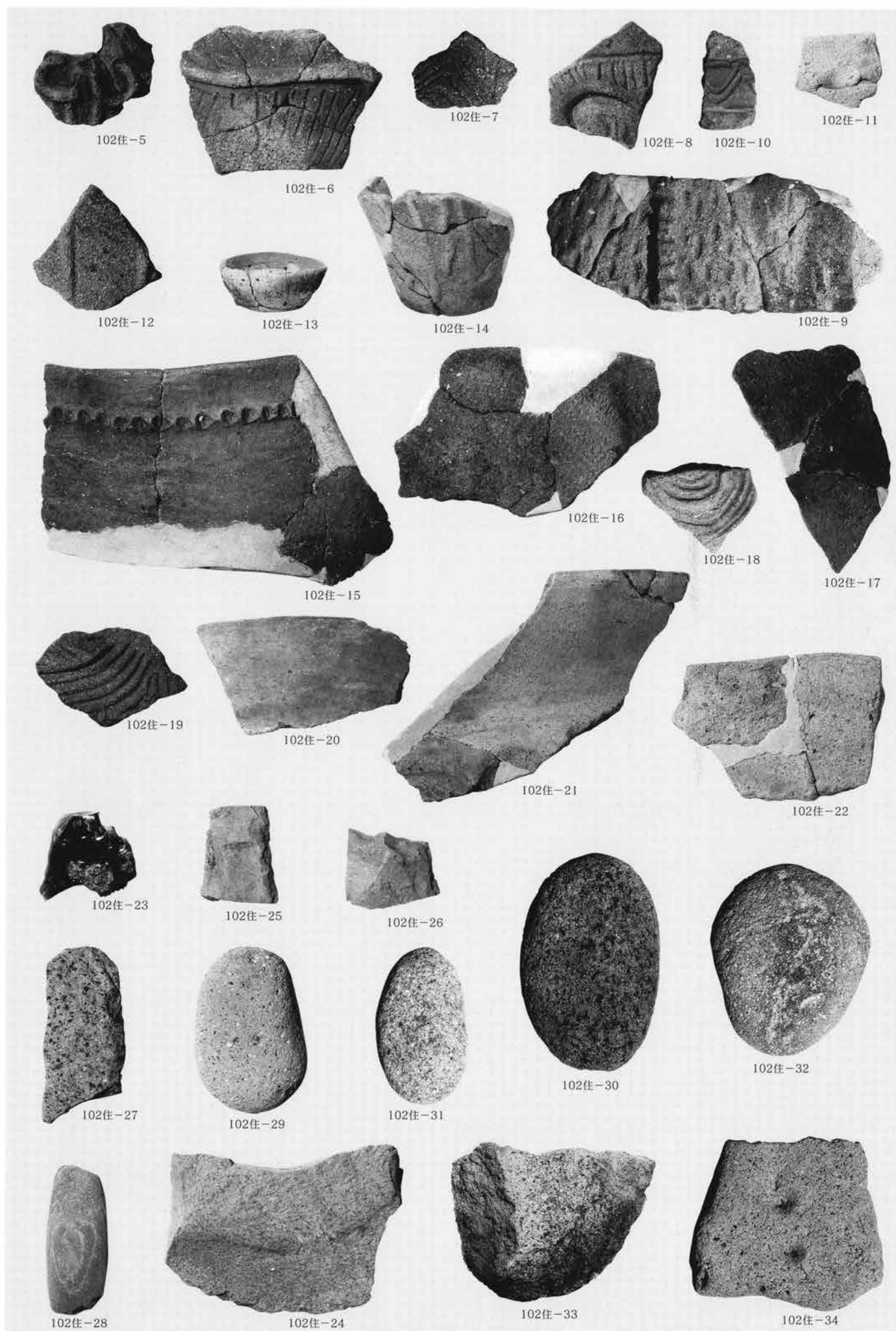
20区97号住居出土遺物 (2)



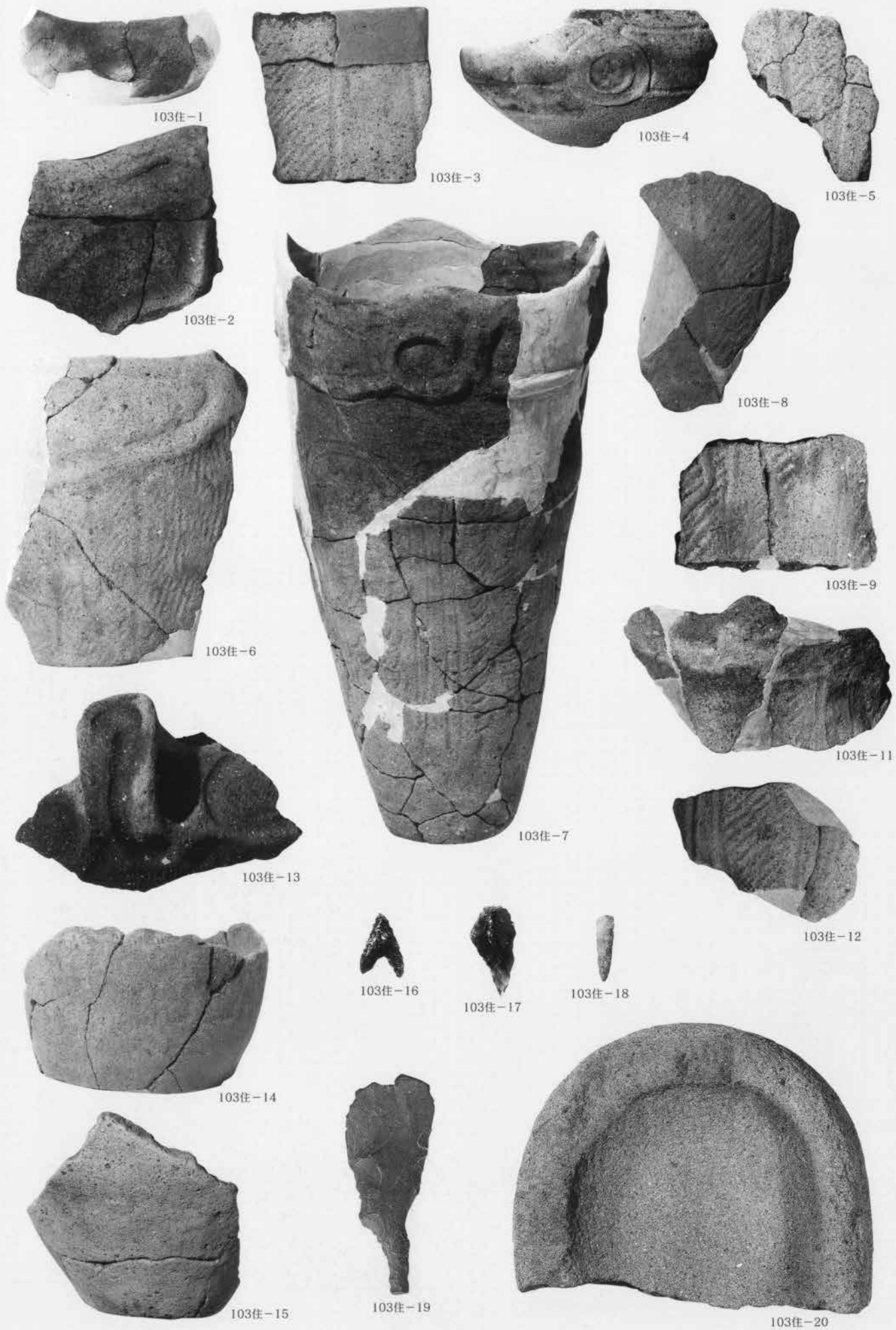
20区101号住居出土遺物



20区102号住居出土遺物 (1)



20区102号住居出土遺物 (2)



20区103号住居出土遺物



104住-1



104住-2



104住-3



104住-6



104住-9



104住-10



104住-4



104住-5



104住-12



104住-7



104住-8



104住-11



104住-13



104住-16



104住-17



104住-15



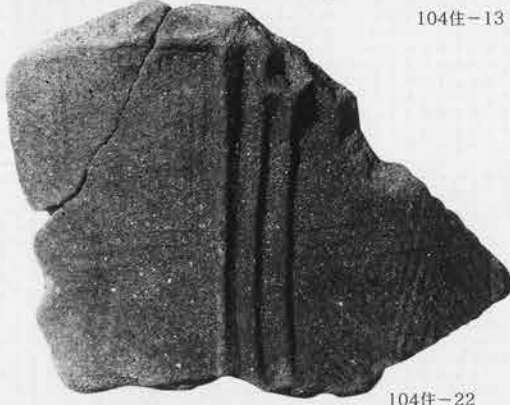
104住-14



104住-18



104住-20



104住-22



104住-19

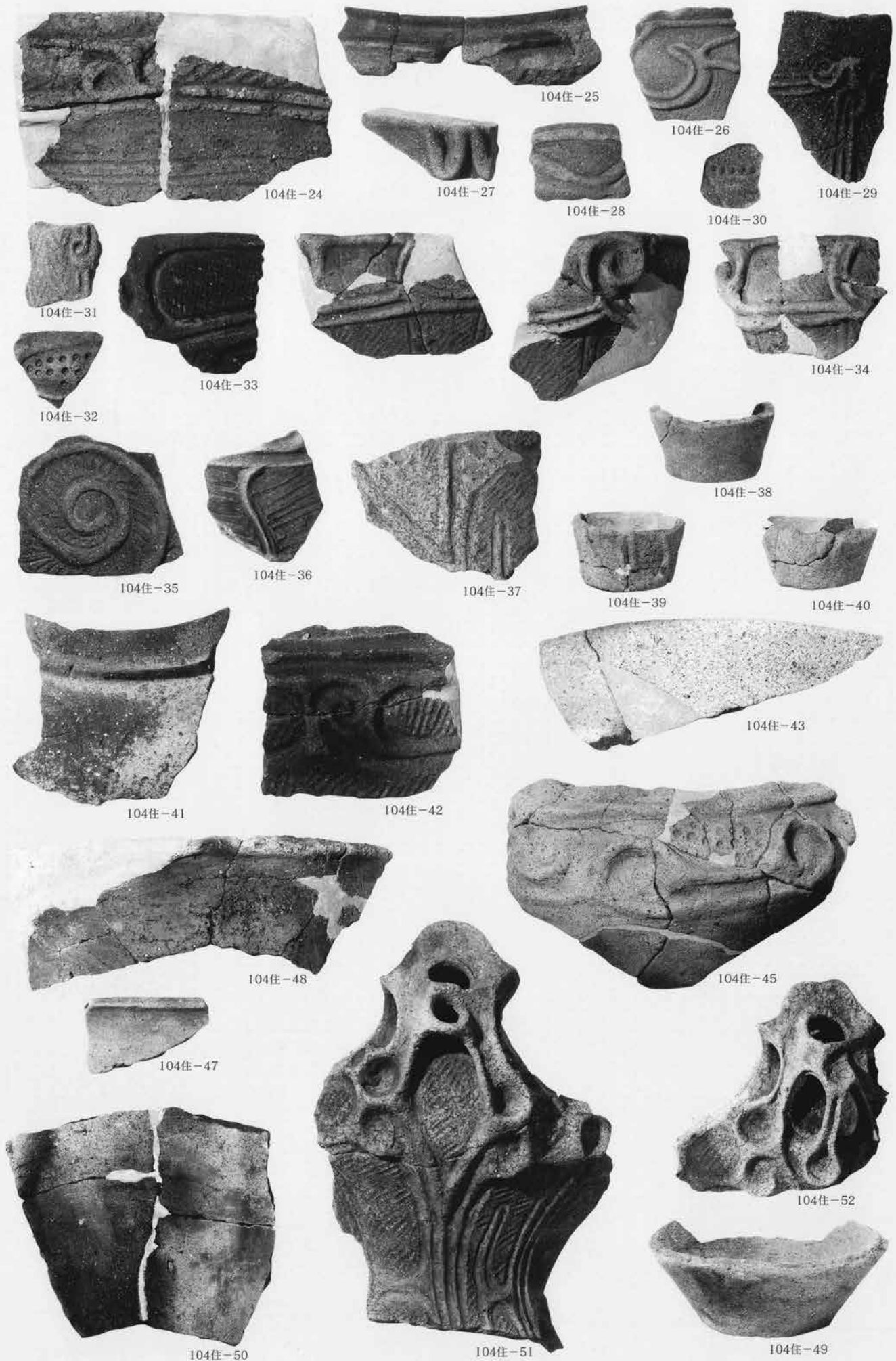


104住-21

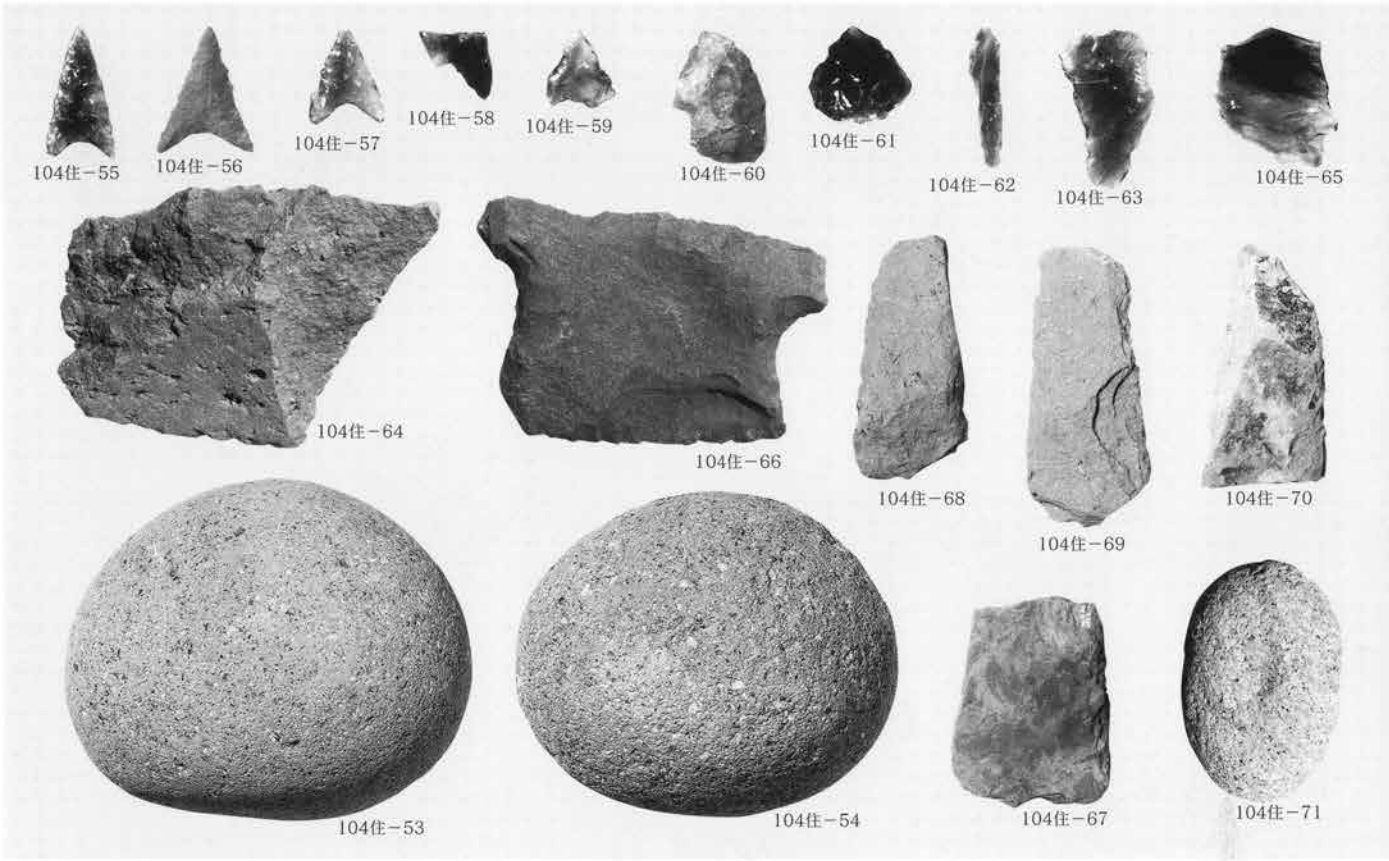


104住-23

20区104号住居出土遺物 (1)



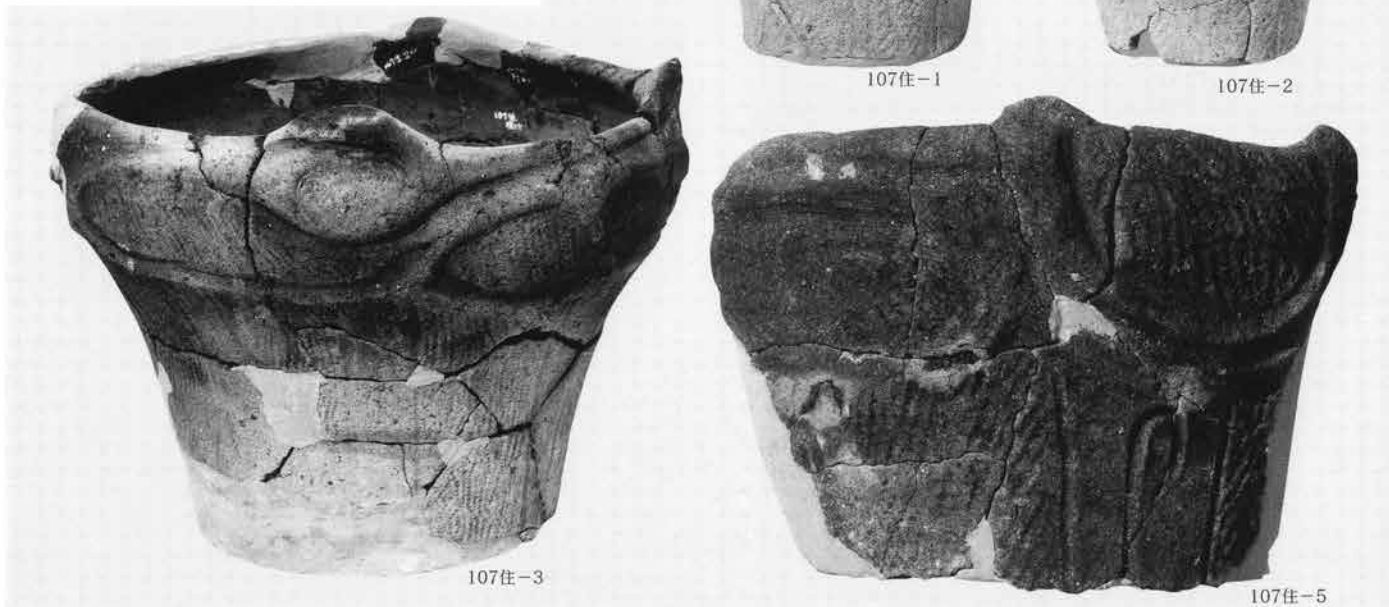
20区104号住居出土遺物 (2)



20区104号住居出土遺物 (3)

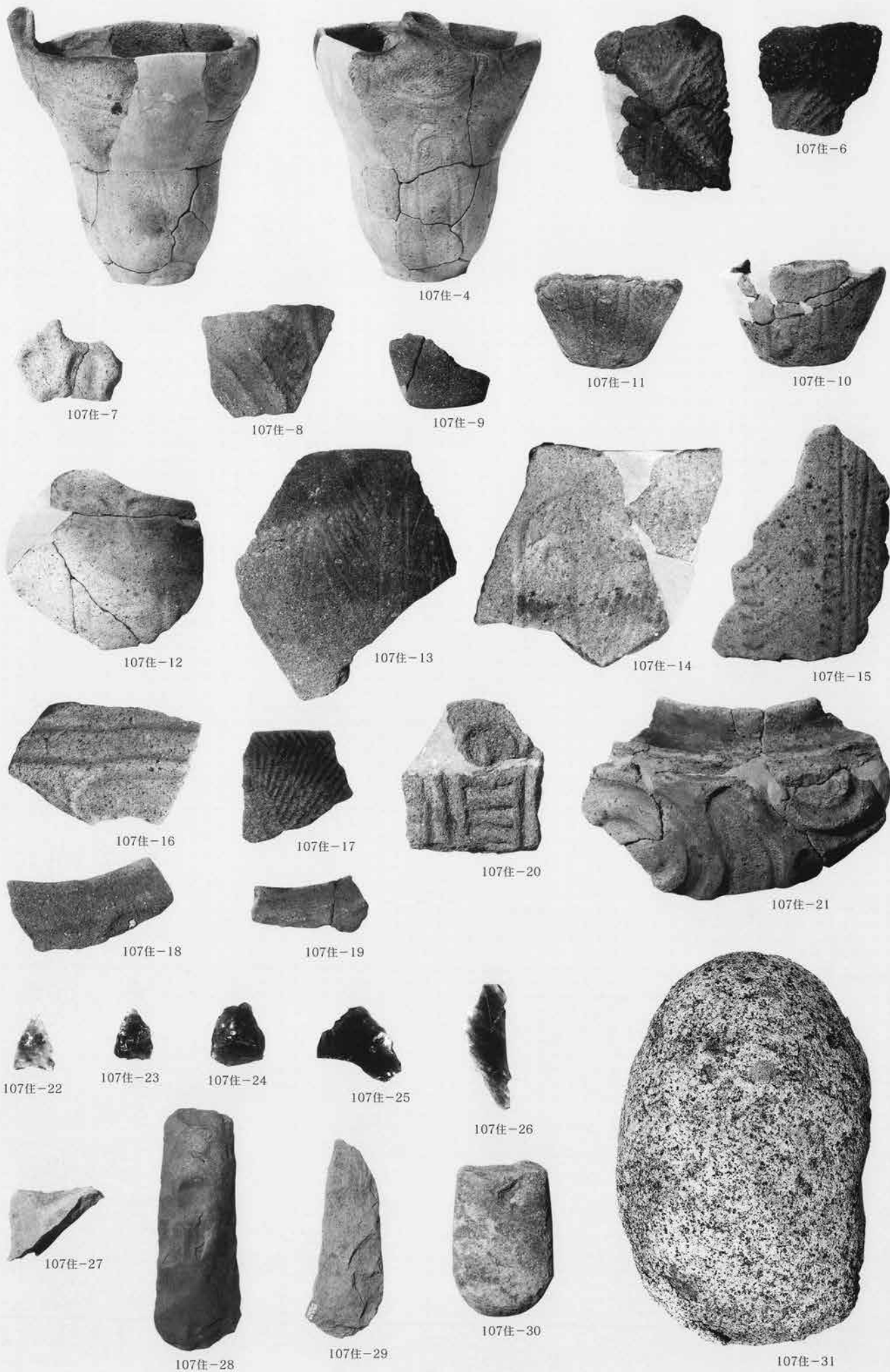


20区105号住居出土遺物

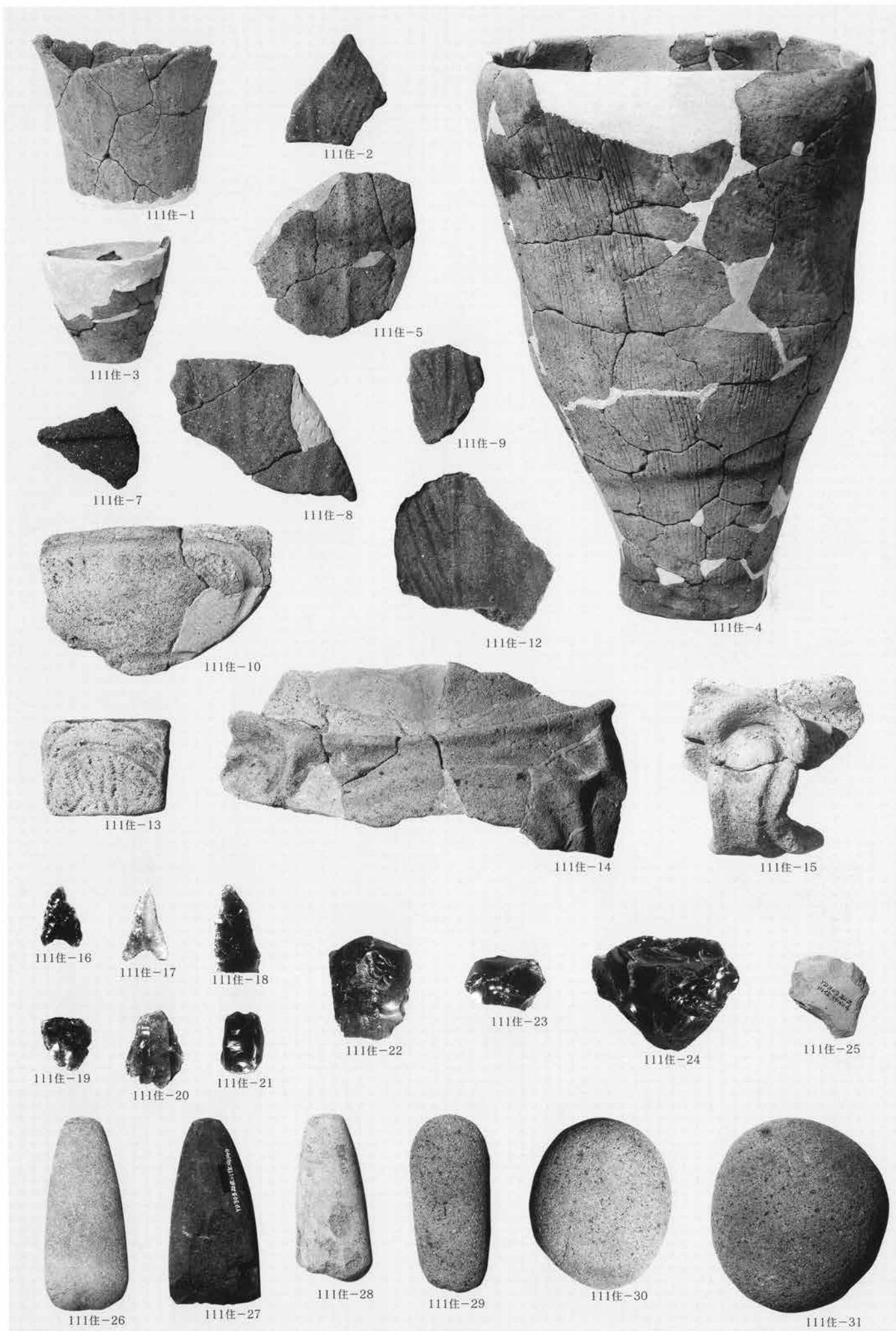


20区107号住居出土遺物 (1)

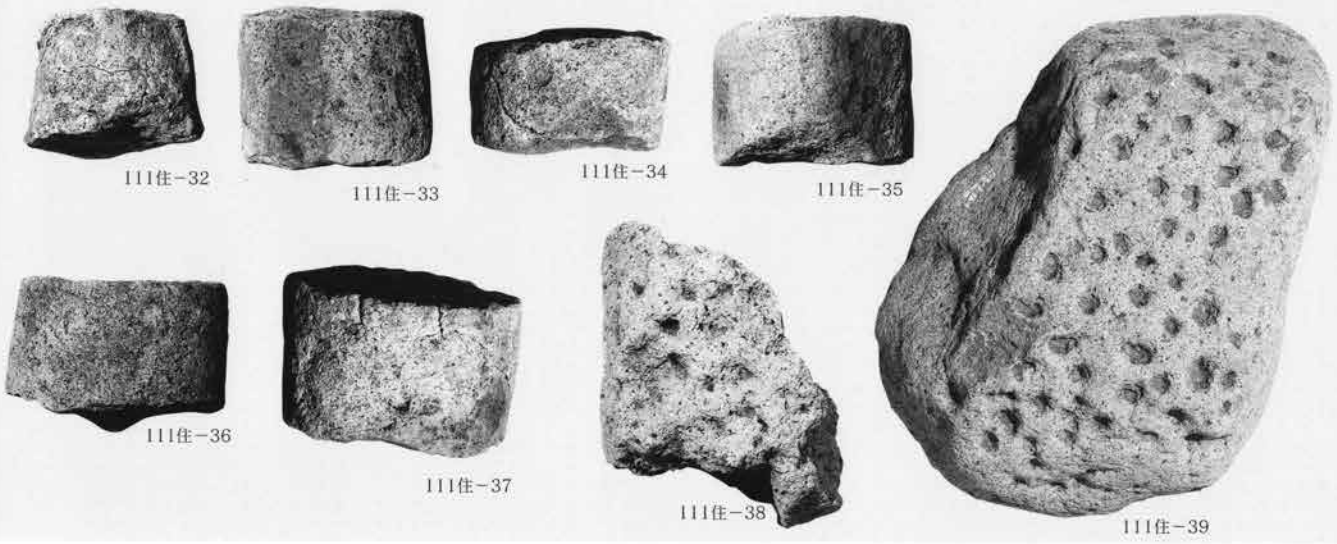




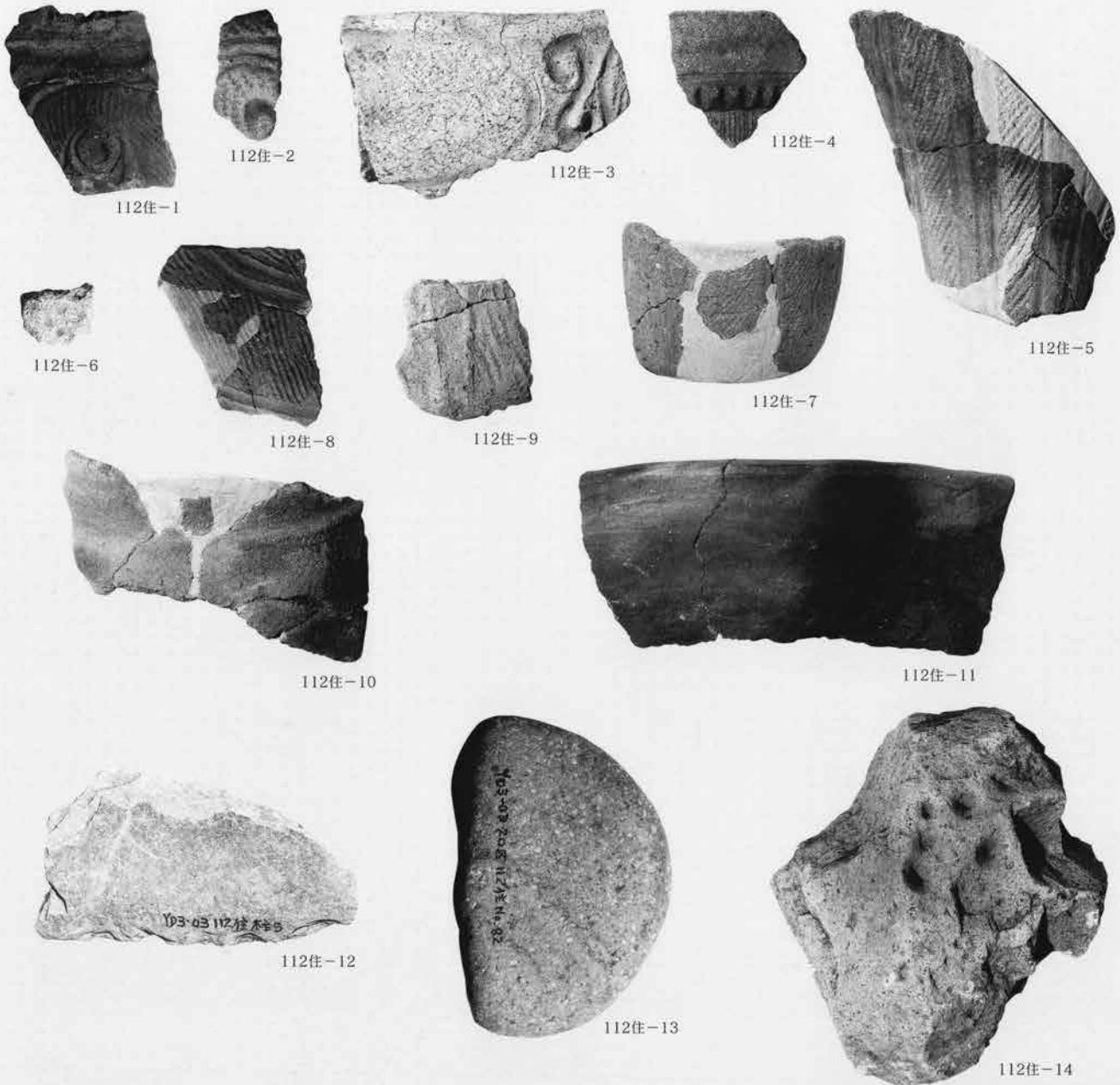
20区107号住居出土遺物 (2)



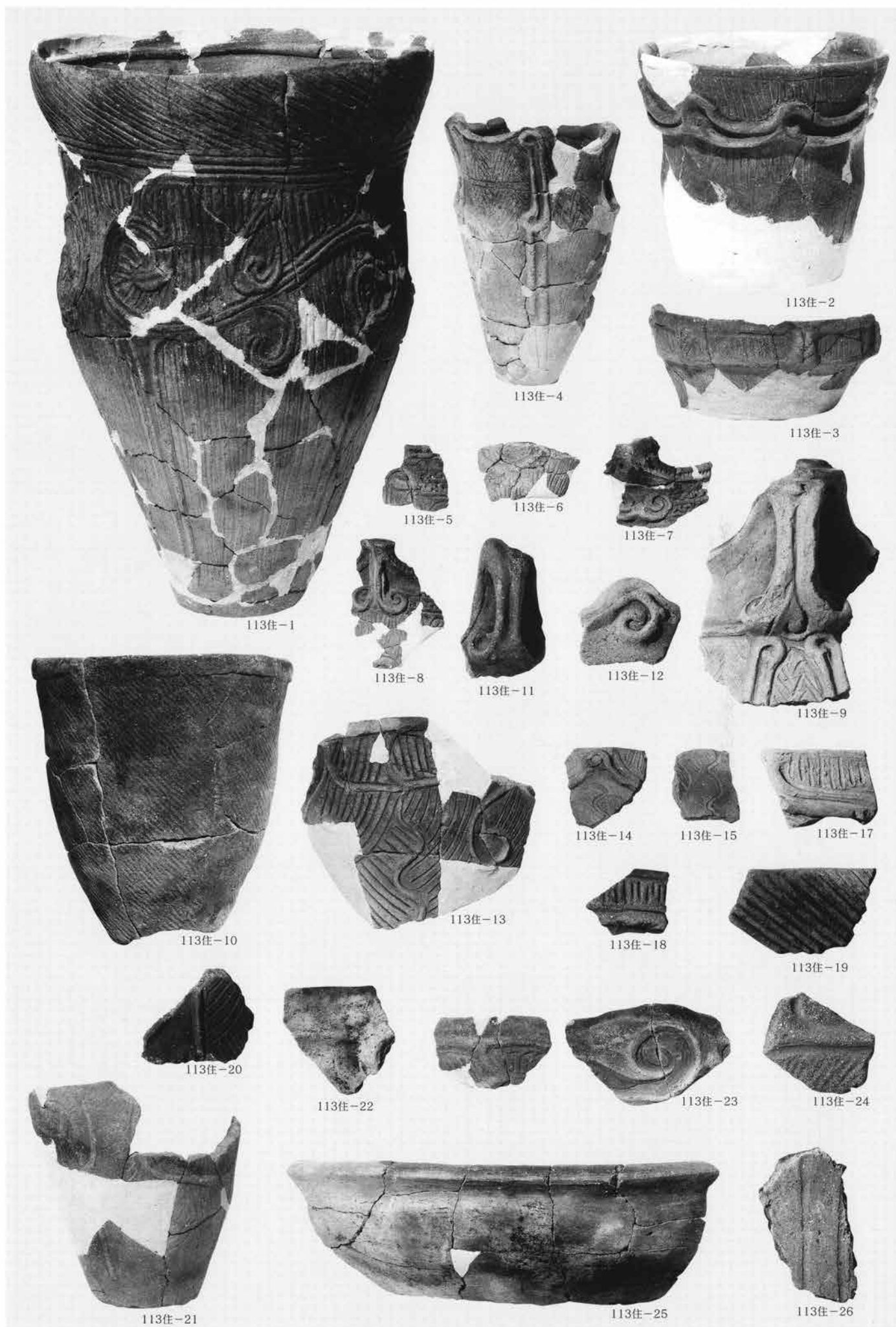
20区111号住居出土遺物(1)



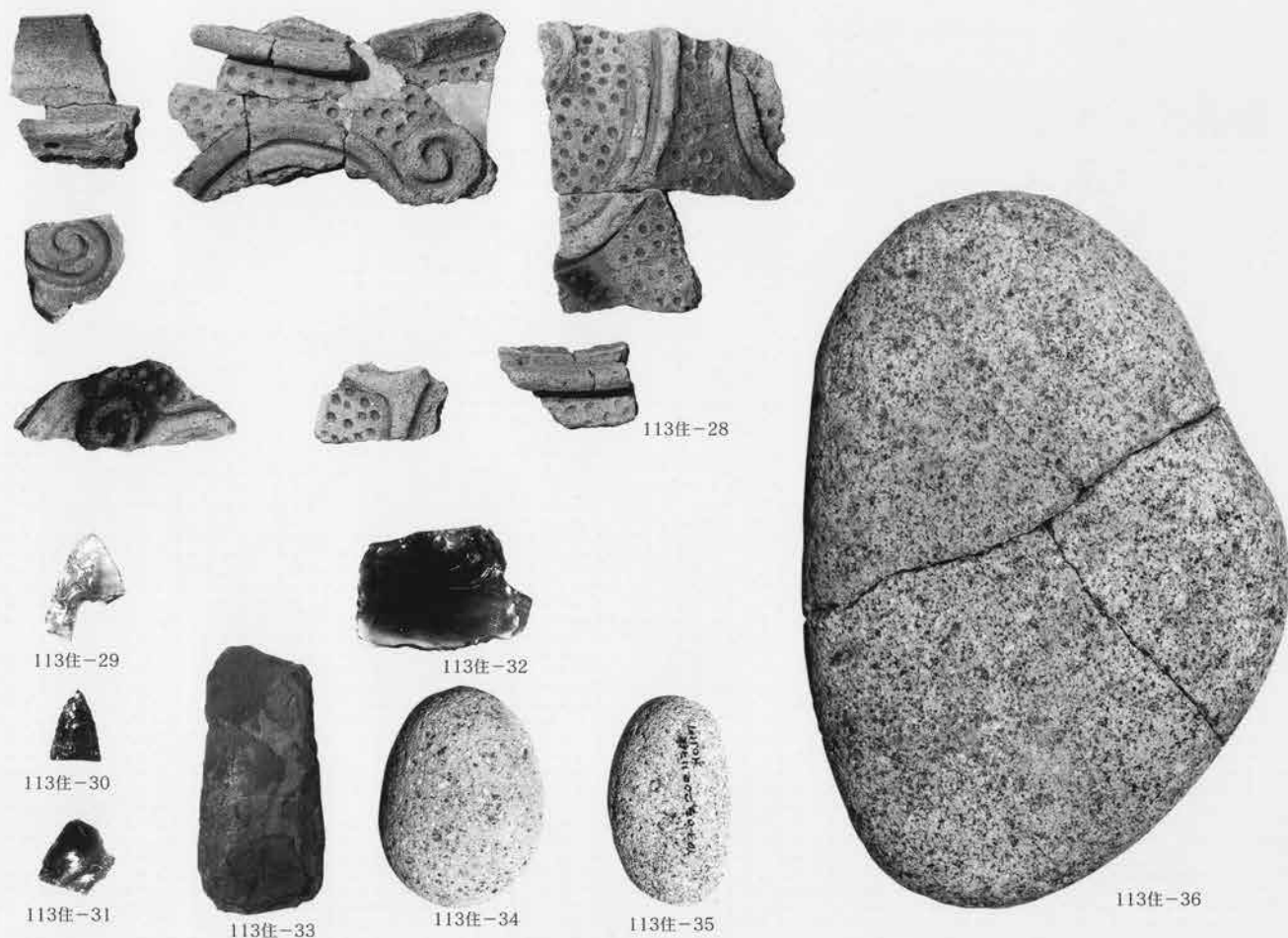
20区111号住居出土遺物 (2)



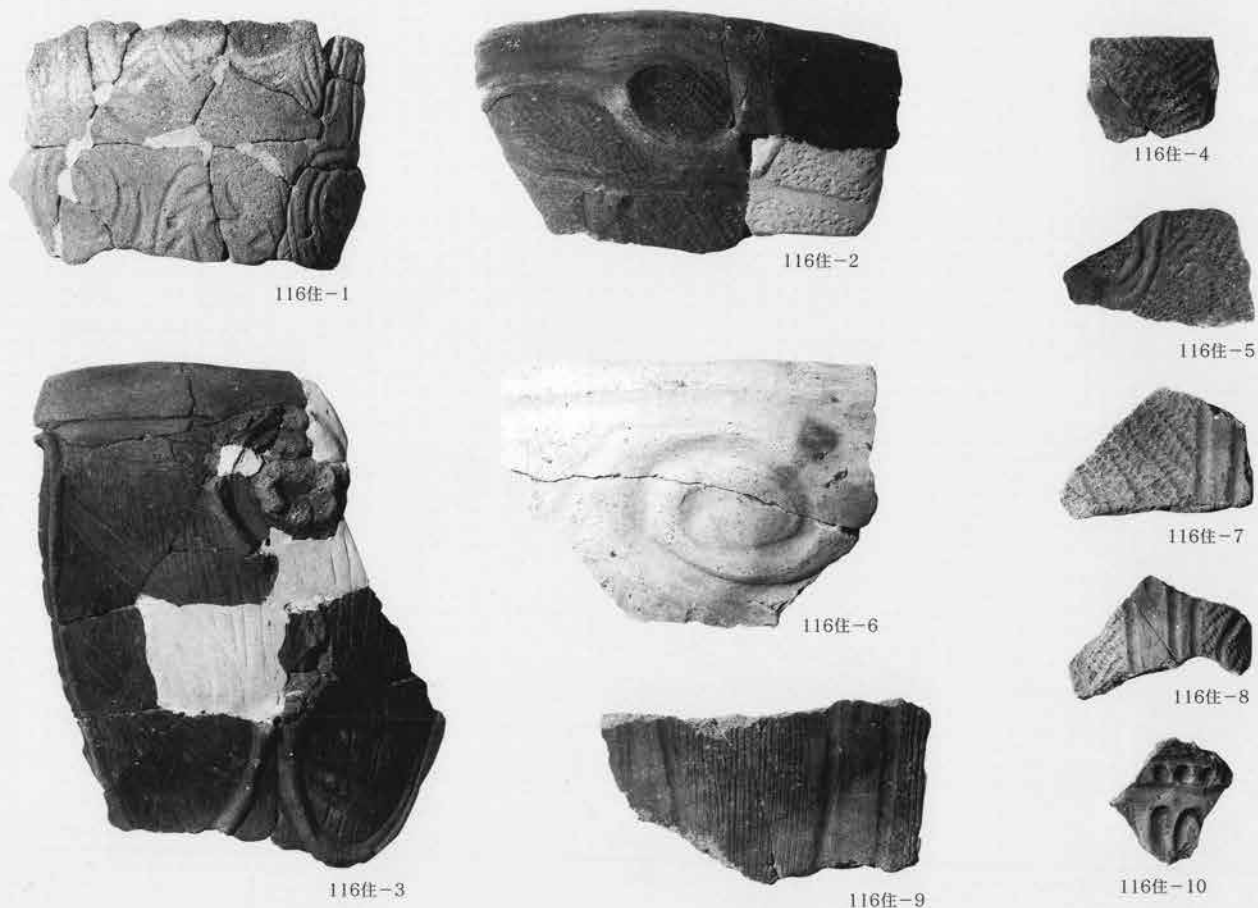
20区112号住居出土遺物



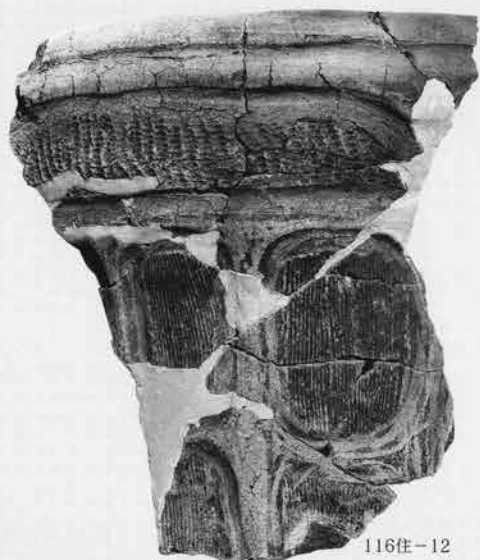
20区113号住居出土遺物(1)



20区113号住居出土遺物 (2)



20区116号住居出土遺物 (1)



116住-12



116住-13



116住-11



116住-14



116住-15



116住-16



116住-17



116住-18



118住-1



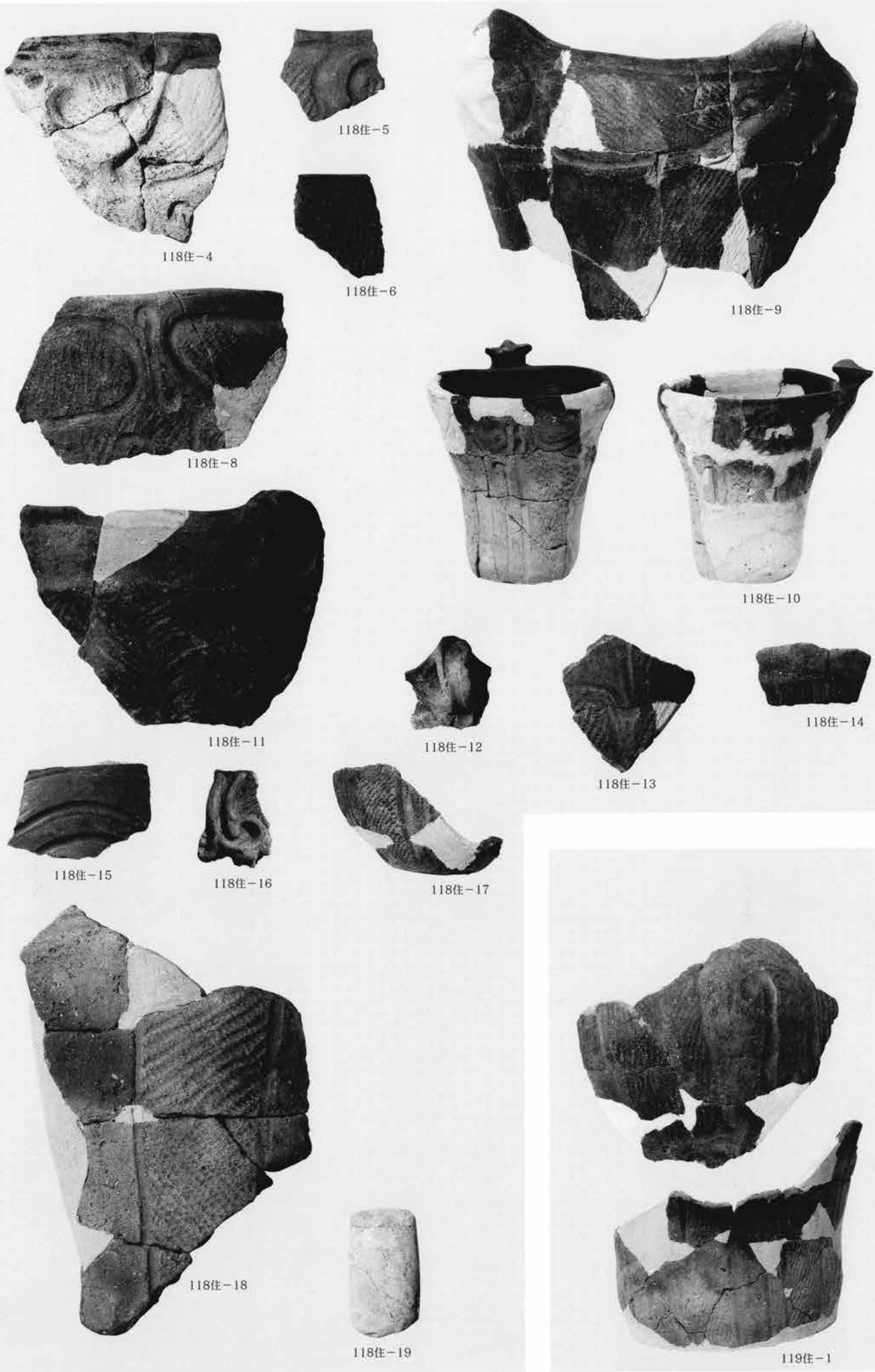
118住-2



118住-3

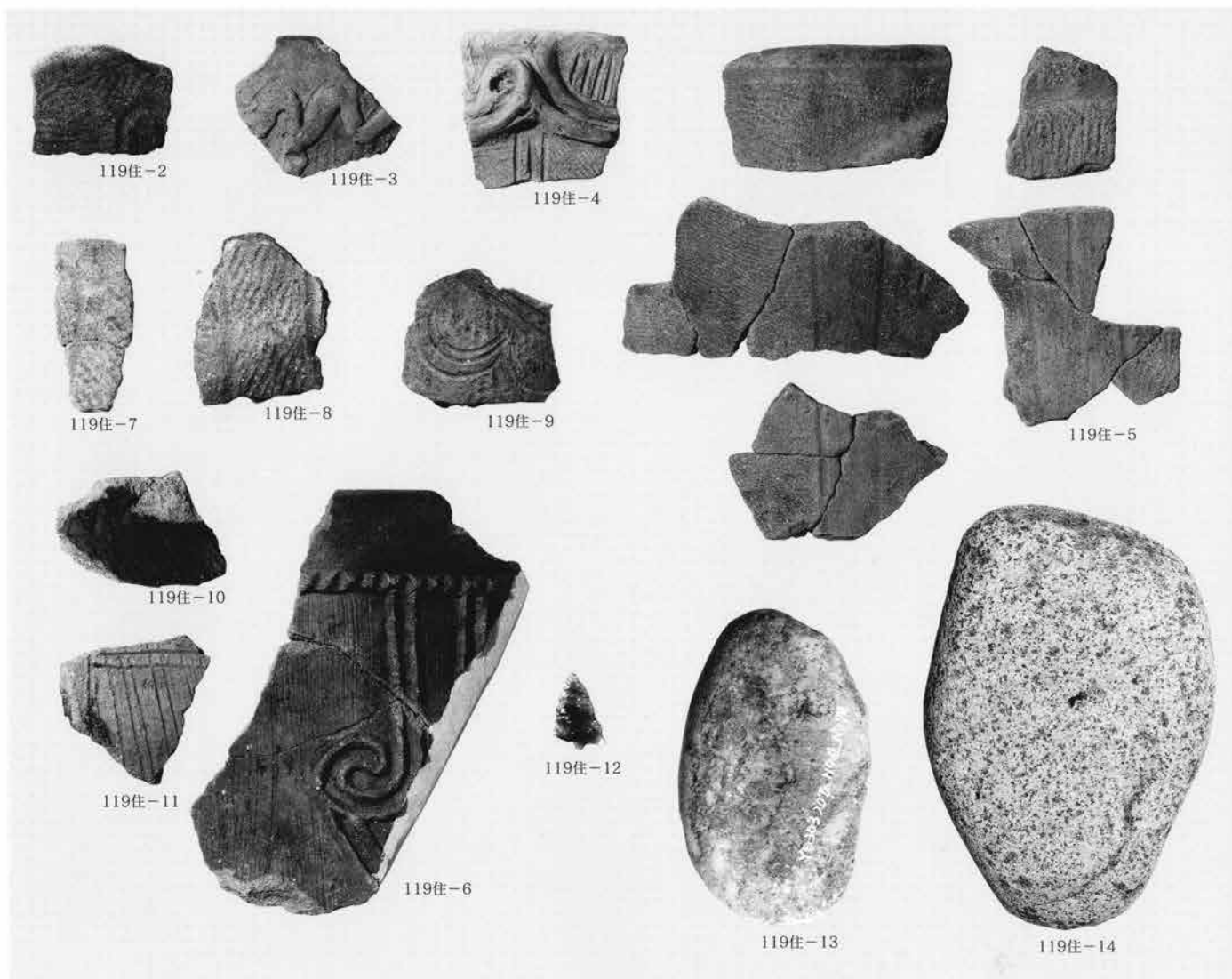
20区116号住居出土遺物 (2)

20区118号住居出土遺物 (1)

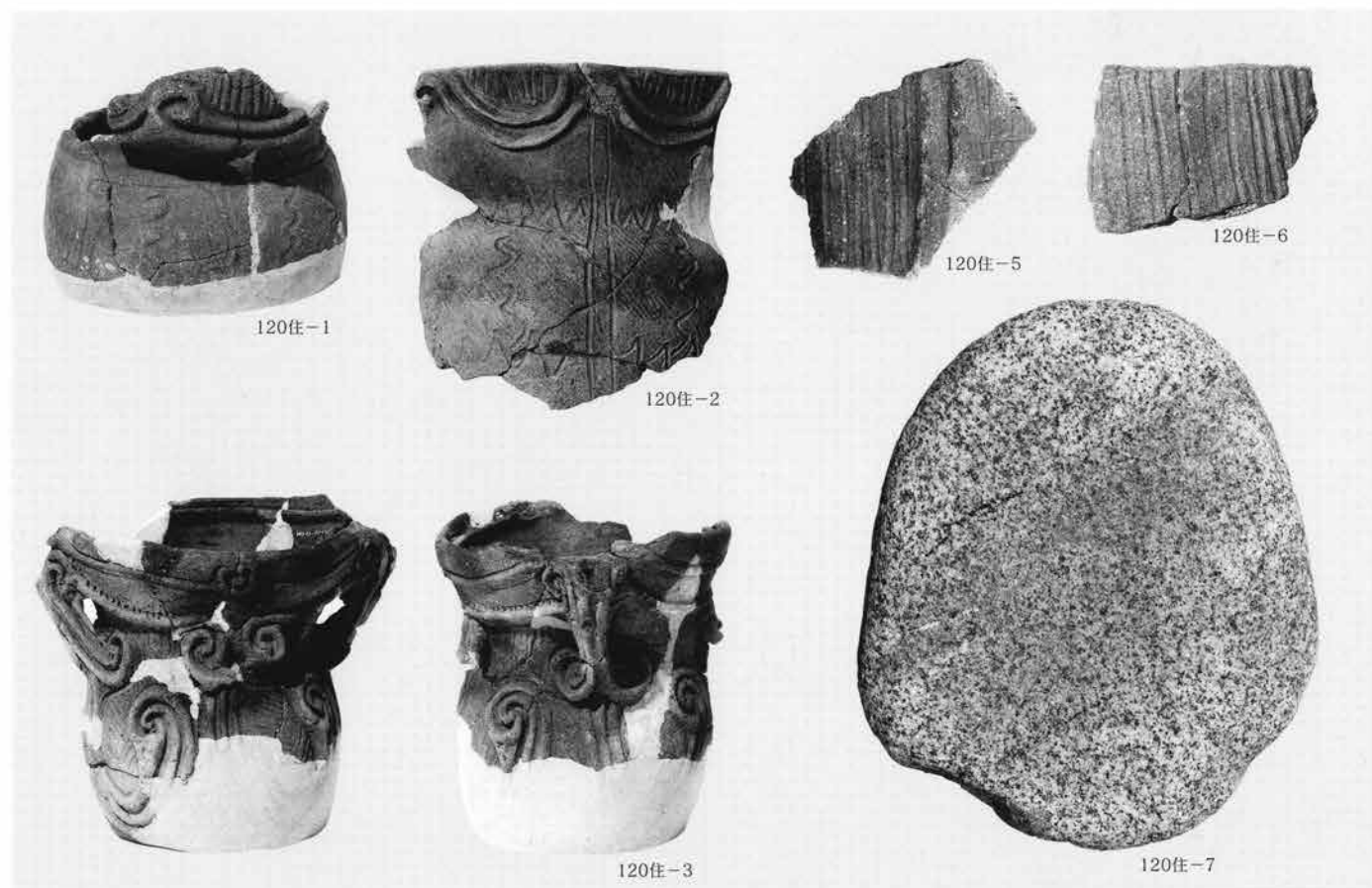


20区118号住居出土遺物 (2)

20区119号住居出土遺物 (1)



20区119号住居出土遺物 (2)



20区120号住居出土遺物





122住-1



122住-2



122住-4



122住-7



122住-8



122住-9



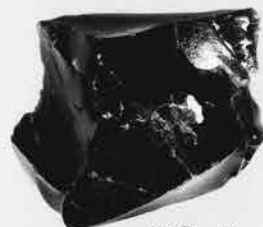
122住-10



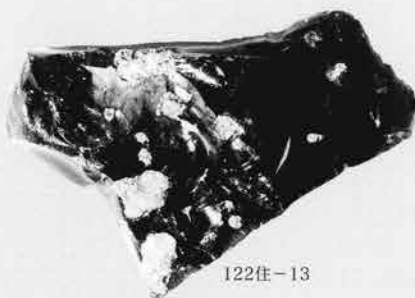
122住-11



122住-12



122住-14



122住-13



122住-17



122住-16



122住-19



122住-15



122住-18



122住-20



122住-21



122住-22



122住-23



(財) 群馬県埋蔵文化調査事業団調査報告書第406集

## 横壁中村遺跡(5)

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第14集

平成19年3月23日 印刷

平成19年3月23日 発行

発行／編集 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田 784-2

電話 0279-52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org>

印刷／松本印刷工業株式会社